



明

柔

84, F



MEIJI UNV. JUDO CLUB
PERIODICALS

明治大学柔道部明柔会会報

明治大学校歌

(一) 白雲なびく駿河台 眉秀でたる若人が

撞くや時代の暁の鐘 文化の潮みちびきて

遂げし維新の榮になふ 明治その名ぞ吾等が母校

明治その名ぞ吾等が母校

(二) 権利自由の搖籃の 歴史は古く今もなほ

強き光に輝けり 獨立自治の旗翳し

高き理想の道を行く 我等が健児の意氣をば知るや

我等が健児の意氣をば知るや

(三) 靈峰不二を仰ぎつゝ 刻苦研鑽他念なき

我等に燃ゆる希望あり いでや東亞の一角に

時代の夢を破るべく 正義の鐘を打ちて鳴らさむ

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

柔道部 部歌

きいてみたかよ 明大の柔道部

よいよい あらよい こらよい

よいやの よいよい

轟く 選手のその名を

知るや よいよい

あらよい こらよい

よいやの よいよい



明大柔道の技 (4)

徳山 操の背負投

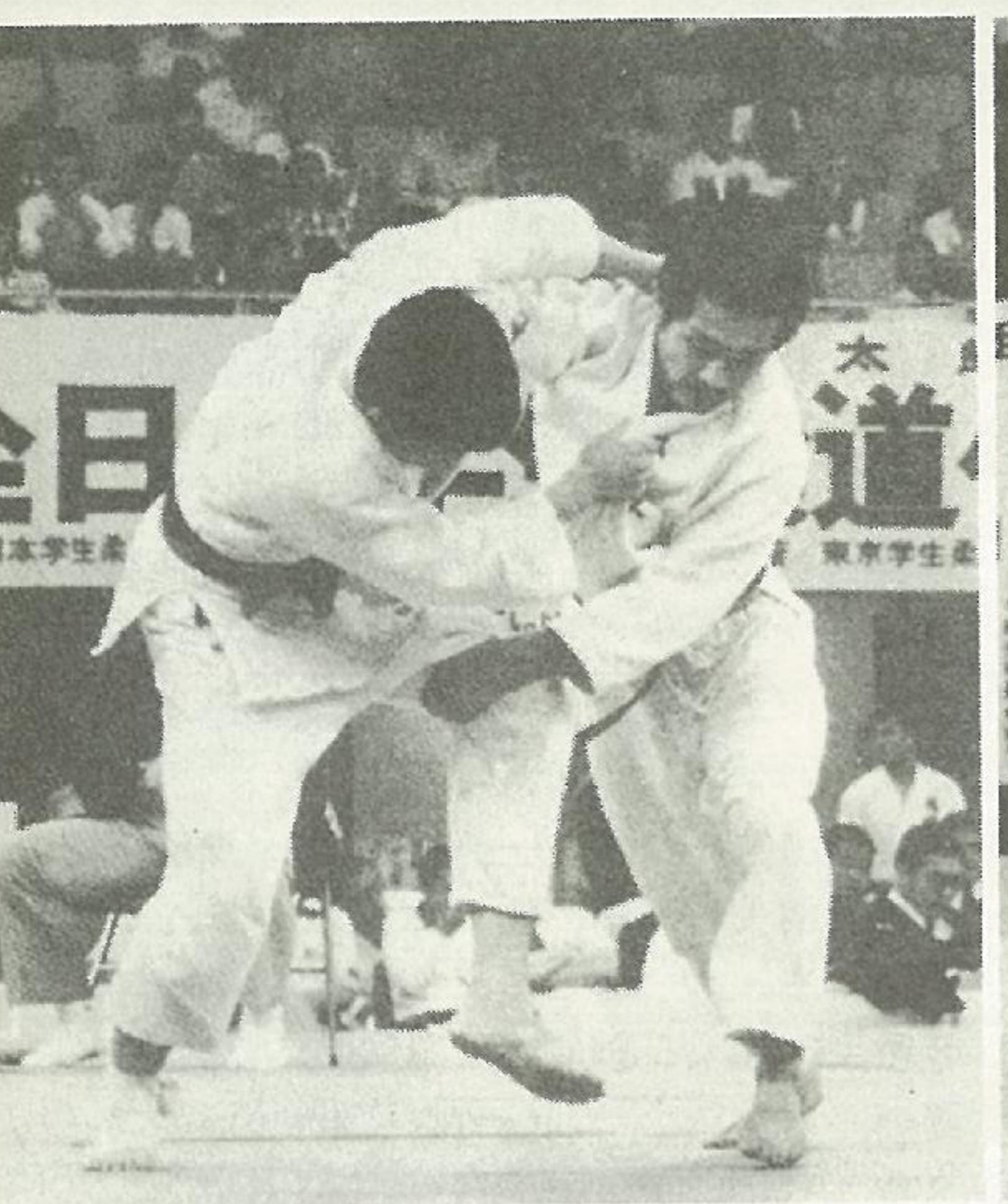
(本文32P)

第3回正力杯学生体重別選手権大会

“明大振わず” 青野2位、今堀3位のみ

明柔 <明治大学柔道部明柔会会報> 目次

明大柔道の技(4) 徳山操の背負投	1
第3回正力杯学生体重別選手権大会	2
巻頭言 心の傷	5
百瀬 恵夫	
隨想三題	6
松田 滋夫	
正力杯体重別選手権大会記録	9
寸評	10
篠巻 政利	
大会記録	11
新入部員紹介	12
姿師範九段昇段祝賀会	14
姿先生の昇段をお祝いして	15
神田 和夫	
第5回イタリヤ国際柔道大会	16
坂本 翔正	
明大スピリット	
頑張れ明大柔道部の健兒諸君	18
大野 忠博	
根性の持つ意味の深さ	19
上野 武則	
広報板	22
御挨拶	23
工藤 欣一	
OB便り	
大阪明柔会の近況	24
甲斐 福男	
41年度卒同期会	25
山本 裕洋	
36年度同期会	26
神永 正夫	
夢のような二日間	27
小原 陽子	
31会四年生激励の集い	28
内山 彰治	
ゴルフ東西対抗戦	28
海外から	
カリブ海の島エルトリコから	29
富田 弘美	
ゴア(インド)から	31
吉井 敬吉	
明大の技(4) 徳山操の背負投	32
隨筆 精進	34
高橋 秀豪	
すばらしき武道との出会い	35
今 松 夫	
絆	36
相沢 郁夫	
明大柔道部の思い出	37
佐々木 充行	
往事のことなど	39
遠藤 一	
日々、そして今	40
南田 和郎	



「大会熱戦譜」





卷頭言

心の傷

部長 百瀬恵夫

今春の全国高校選抜野球大会のテレビ放送をみていた中で、同点でむかえた攻撃側チームが、九回裏ツウアウト、ランナー一塁の時の打者の打った球はライトに上がった。これを見ていた誰もが、このゲームが延長戦に入ることを疑わない平凡なフライであった。しかし、緊張し過ぎたためか右翼手は無念の落球をし、ツウアウトであつたが故に一塁ランナーが長駆ホームインしてサヨナラゲームとなつた。勝利の女神は九割九分敗戦と思われた攻撃側チームに微笑む結果となつた。まさに痛恨の落球である。テレビ解説者もアナウンサーもそれぞれの立場で、右翼手や敗戦チームに激励の言葉を送つていた。この右翼手をここではA君としよう。

A君は、この試合のウイニングボールを確かなものとするための責任感が、きわめて強かつたが故に堅くなつて、不測の落球をしたに違いない。真面目で慎重なA君の動機をいくら称えてみても、結果としては最悪の事態となつてしまつた。人生には、このように動機が良くても結果がともなわないことがいくらでもある。予期できなかつた結果を生み、それが自己のみではなく、他人に迷惑や災いを及ぼした場合には、自我の心に傷がつく。それには当然個人差があり、心の傷の大小は本人以外の何人も測り知ることはできない。

人間は、誰しもが何らかの心の傷を負つてゐるのであろう。その傷は、あくまでも個人の内面的なものであるから、自己研鑽によつて癒す以外に方法はない。A君に対し、私は心からの同情と声援を送り、この少年が痛恨の落球によつてどうか人生を誤りなきよう、神に祈る気持で一杯であった。私達がどんなに祈念しようと、チームメートがいかに慰め合おうと、A君の心の傷は深く悲しみに包まれてゐるに違いない。

ここで私がいいたいのは、結果はすでに過去のものであるということである。人生は、今日より明日へ、明日より未来に向つて進むところに意義がある。心に傷を負いながらも、それを健全に治癒しつつ真剣に生きつづける人間は、思いやりの心と人の痛みの分かる人物として、逞しく成長し、人々から尊敬を受けるであろう。人生は勝つことよりも負ることの方が多いかも知れない。いや、人生には勝ち負けはない。自己に勝つ克「心を養うことが、人生の勝利者なのである。

道場往来 明大スピリット PART 2	42
ブラジル学柔連OB会	42
二次会	43
地方の先輩	44
東京都高体連柔道部の動きについて	森 幸夫 45
思い出の1枚	48
明柔人国記 鹿児島県の巻	50
出身校シリーズ わが母校北海高校	五島 光 53
文集 わが青春の駿河台(3)	
光陰矢の如し	宮島龍治 56
忘れ得ぬ人 門屋君	堀口武 58
得意技の解説 釣込腰	河辺一彦 61
計報通知	64
明柔会事務局報告	65
電話番号・住所変更	67
編集後記	68

隨想三題



松田滋夫

△三船先生のご遺墨△

少し日時はさかのぼるが、年始のあわただしさから解放された一月二十日すぎの或る日の午後、書籍や来信などの整理をしていたところ、偶然にも三船久蔵先生からいただいた御手紙が出てきた。

昭和二十五年前後（多分二十五年）のものと思われる。当時はマッカーサー司令部の命令で、まだ武道が禁止されていた時代―私は二十三年に三立商工株式会社を設立し社長をしていた頃で、三船先生に顧問になっていた当时、先生がわざわざしたためられたものである。

あまりにも見事な筆の跡、今年ご入定一一五〇年のご遠忌を迎える弘法大師空海の名筆もかくやとばかり。なつかしさのあまり、早速草土舎で額に入れさせて、大切にいつまでも

種星時下元りは
此の段た傍を假
に有ります
刻下程入らけ画
手唐くなさりは
手さり程希空
の揮くとこれに又
ゆ奮勵ゆ活躍す
移正程からかがア
は、苦情よせへふら
も何等成しきをき
ひかんせんとみふ次第
ゆほ、陳と申て成
じし陰日折りす日
先びを持ちものヤ
すります。——念堂
寺日暮。三井水

保存することにした。
三船先生は他人のためには、多くのご揮毫を残されながら、ご家族のためには門の表札一つしか書かれなかつたと聞いていたので、御養子の航兒さんとその奥さま・先生の実の娘の絢子さんに、このご遺墨の写しをお送りしたところ、大層喜ばれた次第である。

著名な歌人でもある航兒さんが、三船十段の長逝を悼んだ昭和四十年の作品に、

仰向きしまま マジックで書きたまふ
乱れて怪しき「中心吸」
という秀歌がある。「中心吸」といえば、私には今なお忘れられない思い出がある。先生は或るとき、とくに私にさとされた。「人間、球（たま）になれ。球はころはない。ころはないのは重心が変わらないからだよ」と。はたと思い当つたのだが、私には

△中心吸△ところばない球△

「中心吸」と「ころばない球」とが相通するように思われる。これは柔道の自然体にも当てはまるが、人間精神に即していうと、「円満であれ」ということである。先生は「柔道は芸術なり」と言われたが、この恩師ほど心身ともに美しく、円満に充実した生を完成されたかたは、暁天の星よりも少ないのではないかろうか。

明柔会編集部からエッセイ寄稿の依頼を受けたとき、まっさきに三船先生のことを書かねばならぬと思った。それは、先生の柔ひとすじの道が、先生のご生涯を芸術品―第一級の芸術作品として完成させたということに、改めてしみじみと思いつたからである。

過日、東海銀行の新井永吉専務と話し合う一夕があった。新井さんは国際本部長をしておられるので、その席には防衛大学校で国際関係とりわけ東西問題とソ連問題を講じておられる佐瀬昌盛教授も同席され、新井さんから紹介された。話は、日ソ関係をこのまま放置しておくことはできない―というようなテーマが中心になつたが、談たまま柔道のことに及び、新井さんが学生時代に四段を取られたことがわかった。私たちは、それまでさして面識はなかつたのだが、柔道の絆で、たちまち十年の知己になることができた。生涯稽古の精神で柔ひとすじの道を忘れなければ、人生いたるところに以心伝心の友がいる。

△読書について△

柔道のこと、三船先生のことを書いた以上、柔道とともに歩んできた私の精神修行のことにもふれておきたい。学生時代の私は稽古に明け暮れて、書に親しむ時間を見つけるのに苦労したが、恩師や先輩のご指導で、精選された幾つかの古典を心をひそめて読んだものである。己が体験を手がかりとして、わかるまで幾度も読み返したものである。

その一つは「五輪書」。宮本武蔵が細川侯の客分として晩年を送った熊本市の近郊飽託郡河内村―その近くで鎮西高校主将時代の一こまを送った関係で、「五輪書」を読み始めたのが、この書物は今でも私の書架にあり、硯北の師となつていれる。「五輪書」は私に、武蔵も悩んだであろう煩惱の怖ろしさを身にしみて教えてくれた。そしてその煩惱を克服するための「空の境地」も教えてくれた。

もう一つは「般若心經」。父の友人で各県知事を歴任された有吉忠一さん（日本郵船の有吉義弥元会長のご尊父）から「般若心經」の読みかたを教わった。いまでも「一百六十五科」の龐大な全巻の巻末の言葉を知っているが、千言万語の経文もこの三句につきる。いわく羯諦 波羅羯諦 波羅僧羯諦（色即是空、空即是色の真理に、着いた、渡つた、到つた）と云われた有吉さんの言葉が、私のなかに生きている。「色即是空」とは、現実の空しさ、うつろさを徹底して実感することであり、「空即是色」とは其の空しさに徹することから、現実に生きる意義と価値が十二分に自覚できるようになるとい

う意味である。つまり、私たちの毎日の修行のなかに「成仏」がある——現実即理想という認識である。「五輪書」の「空の境地」と通ずるものがある。

実社会へ出ると、実務に追われて、読書の時間はどうしても不足がちになる。私も「五輪書」や「般若心経」を、あたかも求道者のような熱い眼で読んだ若い日々の読みかたは、もう出来なくなっている。しかし、どんな書物にも核心といふものがある。序文から後がきまで順序を追って全部読まねばならぬというのもなからう。著者の言わむとしているのは何か——核心を見つけることが肝要である。それにしてもテレビなどの視聴覚文化も大切だが、たえず活字に飢えるということ、ヨリ大事なことではないだろうか。

△日本の進路は果たして悲観的か

最後に最新のテーマの一つを取り上げてみたい。

四月二十日のサンケイ夕刊に興味のある記事が出ていた。『日本の経済的繁栄、成功は世界で群を抜いている。』日本に学べ、と各国は熱い視線で注目、欧米諸国からも、日本への研修生派遣チームが起きている。ところが最近パリの国際地政学研究所が行つた国際比較意識調査（欧米など十カ国対象）によると、日本が実は将来の見通しについて最も自信がない国だという。即ち「二十一世紀の世界について、あなたは何を感じているか、不安か期待か、それとも無関心か」という問い合わせに対し、「期待、希望をもつ國の順序は、韓国六十九%、米国五十四%、以下オーストラリア、カナダと続くが、

日本だけは飛び離れて低く、希望をもっているのは僅かに六%にすぎない」と。

まことに意外な結果である。世界はまたしても「神秘の国ニッポン」にびっくり仰天、同研究所はこれにコメントをつけて、「日本人の謙そんか、警戒か」どうにも納得できないと言ふ。私にも全く合点がゆかぬ。

というのは、毎日新聞四月二十二日朝刊が報じた総理府調査「社会意識に関する世論」によると、「日本の進路は良い方向に進んでいる」と考える悲観論者が三十二%、反対に「悪い方向に進んでいる」という悲観論者が三十四%と略々伯仲しているからである。また愛国心について、「自分はほかの人より国を愛する気持が強い」という人が四十九%で、弱いという十%を大きく上まわっている。

たまたま私は社内報の新春号に、ニューヨーク・タイムズ記者デイヴィッド・ハルバースタム氏の論説——「日本人の挑戦に、われわれは追いつくことができるか」の全訳を掲載した。偶然の一致で、文芸春秋新年特別号も此の論説をトップに取り上げていた。ハルバースタム記者は、「米国の本当の競争相手はソ連ではなくて、日本の経済霸権だ」という。

世界はこのような眼で、二十一世紀へかけての発展をめざす日本を見ている。思いあがつてはならないが、世界G.N.P.の十%を占める日本の責任を自覚しなければならぬ。そして此の豊かな幸せな日本の発展と平和を守り抜いて、次の世代に伝えねばならぬ。それが本当の愛国心だと私は確信する。

（㈱協邦通商社長（昭和一〇年度）

正力杯 体重別 選手権

不振！ 一位一、三位一のみ

大会
記録

第三回、正力杯体重別選手権大会が六月二日三日の両日、日本武道館で開催された。

明大からは、東京予戦を経た七名が出場したが、この大会二連覇を目指した朝飛（八六kg級）が不調で準々決勝で敗退した他、全般的によいところがなく、二位（青野七一kg級）、三位（今堀六五kg級）、一、だけに終った。

七月の団体戦（東京学生大会）に向けて一層の奮起が希まれる。

【関係分】

六五kg級

二回戦 今堀（明大）—小内刈（技あり）—北見（上武大）

準々決勝戦 今堀—指導—松雪（日大）

準決勝戦 宮崎（筑波大）—僅差—今堀

一回戦 鴨川（明大）—僅差—飛松（明大）

青野（明大）—跳腰（技あり）—石橋（福工大）

二回戦 青野—内股—大石（徳山大）

準々決勝戦 青野—内股—吉田（天理大）

準決勝戦 青野—効果—古賀（日体大）

決勝戦 吉鷹（筑波大）—効果—青野

【他の主な試合の結果】

全仏国際大会 藤原敬生（新日鉄）は二月フランス国際大会に参加、九五kg超級で三位。

全日本選手権大会 藤原敬生（新日鉄）と諏訪剛（京葉ガス）が出席、藤原は二回戦、諏訪は一回戦で敗退。

全日本選抜体重別選手権大会 五月、福岡市で開かれたこの大会に参加した諏訪剛は、九五kg以下級で二位、九五kg超級の藤原敬生は三位。

講道館紅白試合 春の紅白試合で野寄昭（三年）が七人を抜いて即日昇段（三段）。

寸 評

篠 卷 政 利



昨年のこの大会に優勝し、今回も東京大会を順調に勝ち上がって来た朝飛は相手のタイプによって攻めが単調になる欠点が出て僅差ながら準々で敗退した。昨年は海外遠征チームにも選ばれ、力がついて来ていることは間違いないのだが、試合になると変化に乏しい攻めに終始するこの余裕のなさは、技術よりむしろ精神面の欠陥にあると思う。団体戦のチームリーダーである朝飛が、あと一ヶ月の稽古でこの点をいかに克服するか。七一kg級、二位の青野も一回戦から得意技が冴え、絶好調で決勝にのぞみながら、やゝ安心したというか、最後まで緊張感を持続することができなかっただ。これも精神力の弱さと指摘したい。この級で実力的には第一人者である天理大の鴨川選手に善戦（紅白に上り僅差負け）した一年生飛松の試合ぶりは今後に期待がもたれる。九五kg超級に出場した二人は、それぞれ優勝者と準優勝者のものを試合に出せる戦いぶりは今後に期待がもたれる。九五kg超級に出場した二人は、それぞれ優勝者と準優勝者に緒戦であたり敗退した。このうち古賀は正木選手と僅差の勝負であったが、体重を乗せて巻き込む正木選手の引き手

を確実に切っていたのは一つの進歩である。一昨年二位、昨年三位で今年が期待された六五kg級の今堀は、期待に反して今回も三位に甘んじた。技術的にはある程度の水準にあり、非力を補う筋力アップが彼の課題である程が、結果的には成果がなかった。筋力の増強は短期の訓練で出来るものではないが、彼が自分の弱点を踏まえて、より稽古にはげむならば、将来に向けてまだまだ期待は持てる。九五kg級に出た中西は、稽古量を倍増して体の硬さをとり去る以外道はない。

以上、今大会に出場した選手の寸評ですが、やや第三者的な表現になり、監督のコメントとしてはもの足りなく思われるかもしれません。只今、部員一同、今大会の問題点を反省し、東京大会でこの不振を挽回すべく猛練習に入っています。どうか御期待下さい。

尚この紙面をかりて、日頃部に寄せて頂く、諸兄のあたたかい御声援と御援助に対し、厚く御礼を申し上げます。仲々御期待に添える成績を上げることが出来ず監督として責任を感じておりますが、只今は来たる団体戦に向けて助監督、コーチにあたっているO.B.、共々この一ヶ月、全力を挙げて指導にあたる所存であります。

正力松太郎杯 第3回東京学生柔道体重別選手権大会 —5月6日 日本武道館—

大会成績(63名)

60kg以下級(8名)		優 勝	熊本 修治(亞細亞大)	準優勝	白石 尚史(日本体育大)
3 位	近浦 研一(國士館大)	3 位	市浦 正昭(専修大)		
	道谷 義則(日本体育大)		板床 龍哉(日本体育大)		
	中根 清一(大東文化大)		海野 幸彦(順天堂大)		
65kg以下級(8名)		優 勝	飛崎 哲治(國士館大)	準優勝	今堀 浩之(明治大)
3 位	朽木 淳司(東海大)	3 位	河原 吉正(東洋大)		
	才鷹 享(日本体育大)		相園 英速(中央大)		
	木下 充芳(法政大)		松雪 博(日本大)		
71kg以下級(8名)		優 勝	古賀 元博(日本体育大)	準優勝	境 英二(國士館大)
3 位	青井 久幸(中央大)	3 位	飛松 秀樹(明治大)		
	青野 浩年(明治大)		小川 準(拓殆大)		
	松本 俊之(東洋大)		比嘉 憲美(東海大)		
78kg以下級(8名)		優 勝	松田 亮一(東海大)	準優勝	持田 達人(日本大)
3 位	田中 誠二(中央大)	3 位	井上 浩二(日本大)		
	田川 晋治(日本体育大)		鎌木 文隆(日本体育大)		
	前川 寿敬(法政大)		津野 典正(國士館大)		
86kg以下級(8名)		優 勝	朝飛 大(明治大)	準優勝	玉山 晋治(拓殆大)
3 位	新井 隆義(日本体育大)	3 位	村田 正夫(東海大)		
	園田 雅明(専修大)		福島 康雄(中央大)		
	猪俣 慎一(東洋大)		三木 勝仁(東海大)		
94kg以下級(11名)		優 勝	細谷 清(拓殆大)	準優勝	持田 治也(日本大)
3 位	西村 良一(日本大)	3 位	京谷 清(専修大)		
	南井 孝樹(法政大)		愛宕 真一(専修大)		
	中西 厚(明治大)		松島享一郎(東海大)		
	岡村 勝豊(日本体育大)		熊木 優(東海大)		
	岩田 靖浩(大東文化大)				
95kg超級(12名)		優 勝	樋川 純(東海大)	準優勝	村上 修司(日本大)
3 位	荒谷 昭彦(國士館大)	3 位	渋谷 恒男(日本大)		
	古賀 智(明治大)		若山 英史(東海大)		
	堀 雅人(國士館大)		新里 治久(東海大)		
	斎藤 峰章(明治大)		斎藤 和男(東海大)		
	小口 亨伺(東洋大)		水谷 誠(専修大)		

95kg以下級 須具等選手(東海大)は全日本選手権大会出場の為第3回全日本学生柔道体重別選手権推薦選手とする。

全大講演会開催東京初集会

新入部員紹介

- ①氏名
- ②出身校
- ③成績
- ④得意技
- ⑤身長・体重



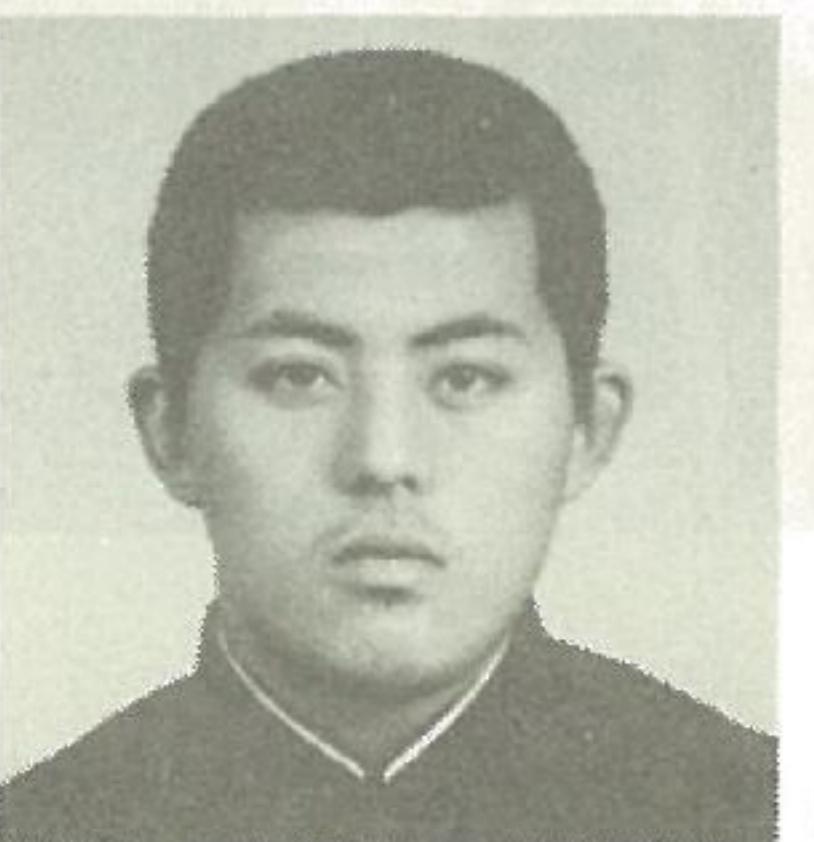
①渡辺英明 ②明大中野高校
③58年インターハイ東京都予選
団体3位 ④右体落 ⑤168cm
103kg



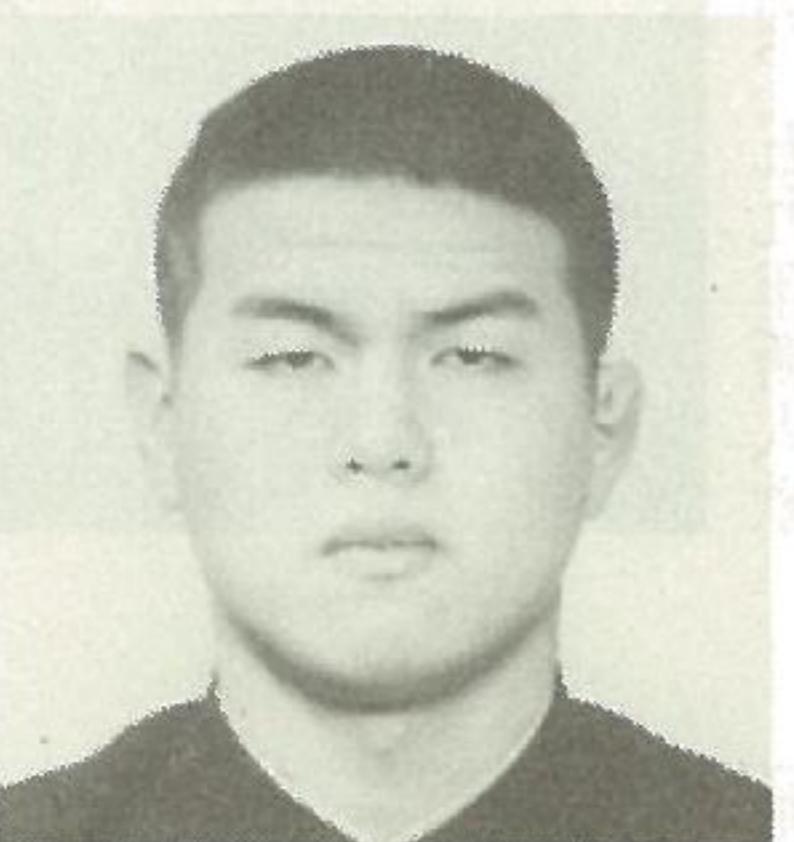
①工藤禎康 ②明大中野高校
③56年関東大会団体戦3位 58
年インターハイ東京都予選86kg
以下3位 ④左体落 ⑤180cm
75kg



①藤鷹英雄 ②明大中野高校
③58年インターハイ東京都予選
優勝 ④右払腰、大外刈 ⑤181
cm 135kg



①中口光一郎 ②都城商業高校
③58年宮崎県国体予選重量級優
勝 58年国体3位 ④左内股
⑤176cm 85kg



①本間一義 ②明大中野高校
③58年インターハイ東京都予選
団体3位 58年インターハイ東
京都予選個人3位 ④右内股
⑤180cm 88kg



①古田勝久 ②中京高校 ③58
年愛知県体重別選手権大会優勝
58年インターハイ県予選優勝
④左内股、払腰 ⑤180cm 115
kg



①飛松秀樹 ②世田谷学園高校
③57年金鶯旗大会優勝 ジュニ
ア大会東京代表 58年インターハ
イ71kg以下2位 ④一本背負
足技 ⑤169cm 70kg



①辻純一 ②崇徳高校 ③58
年中国高校(五県)柔道大会86kg
以下優勝 58年国体広島県予選
86kg以下優勝 ④左内股 ⑤175
cm 86kg



①橋本年弘 ②延岡学園高校
③58年九州高校総体個人重量級
準優勝 58年インターハイ重量
級ベスト16 ④右大外刈 ⑤167
cm 102kg

泉屋の

かぶせ味 急須の味

おくりつづけて50年 お好みの総合メーカー

株式会社 泉屋製菓總本舗 名古屋
「33年度卒 伊藤彰朗」

武道用品の総合メーカー

株式会社 **タネイ**

本社 / 愛知県宝飯郡御津町西方
TEL 05337(6) 4181代

タネイの柔道衣は国際試合、各種大会で多くの選手に愛用されています。

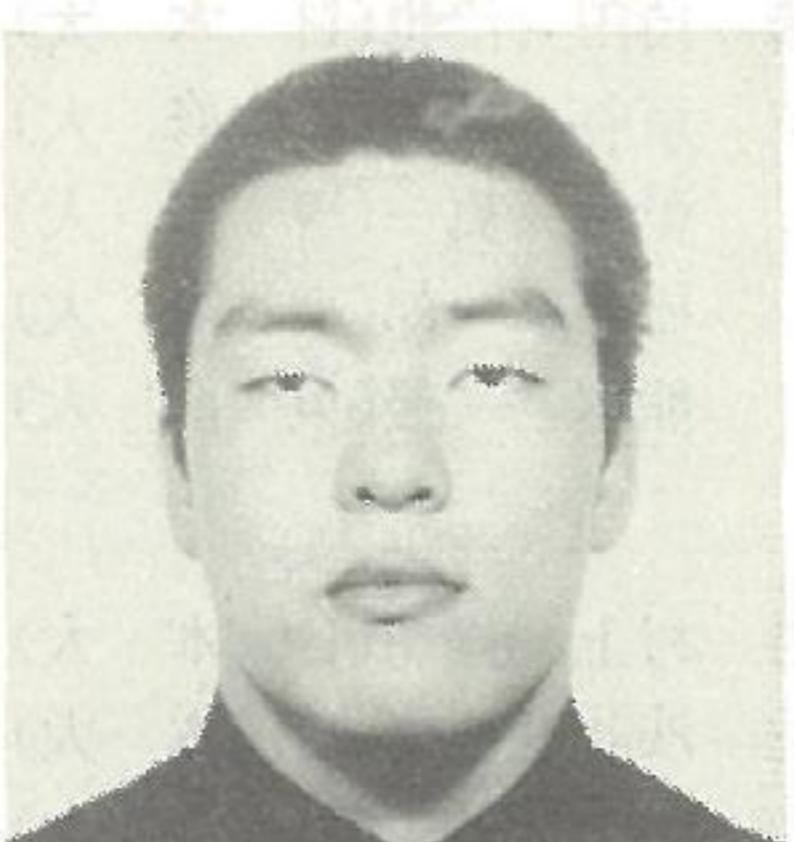
刺繍の「元祖」

伝統と信用に輝く

TANEI BRAND

タネイの柔道衣

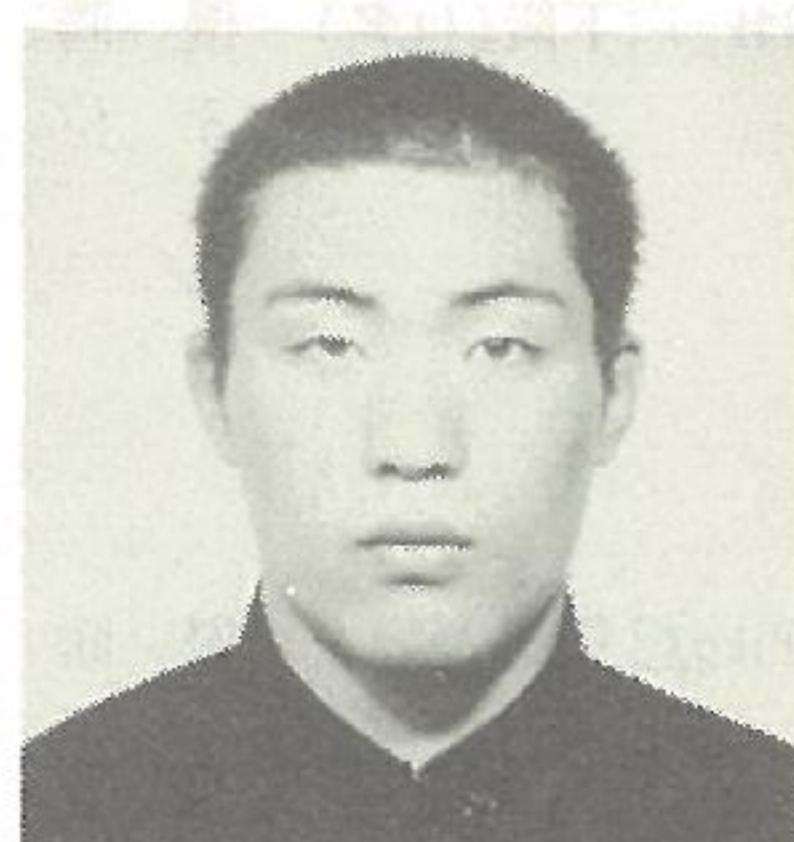
豊橋営業所 / 0532(55) 8581
岡崎営業所 / 0564(24) 5640
豊田営業所 / 0565(34) 3364
春日井営業所 / 0568(83) 8262



①那須一郎 ②九州学院高校
③58年熊本県国体予選2位 58
年県体重別選手権大会2位 ④
右大外刈、寝技 ⑤182cm 85
kg



①向井一輝 ②鹿児島実業高校
③56年鹿児島県新人大会個人軽
重量級優勝 58年国体予選優勝
④右一本背負 ⑤168cm 85kg



①早田 豊 ②小城高校 ③58
年佐賀県高校国体予選86kg以下
2位 58年ジュニア選手権大会
九州代表 ④右内股 ⑤181cm
80kg

姿師範九段昇段祝賀会

——新人歓迎会を兼ねて——



明柔会主催による、姿師範九段昇段祝賀会、五九年新人歓迎会が、新緑ひときわ鮮かな四月二八日午後六時から、東京池袋の西武プリンスホテルで開かれた。祝賀会に先だち、全国から集まつた明柔会員八〇名による、五九年度明柔会総会が、神永常任幹事の司会で行われ、事務局提示の案件を満場一致で承認して無事終了した。（関係記事別稿）総会終了後、ただちに学生四五名が会場に合流して祝賀会に移つた。先ず、百瀬部長と当日の最古参O.B.で明柔会顧問の入江松次先輩（昭和二年生）が祝辞をのべ、こたえて師範が、今後も

体力の許すかぎり稽古着をつけて道場にたつ、と柔道に対する益々の情熱を披露して謝辞とした。ついで、全日本選手権大会に出場する諏訪剛（京葉ガス）と藤原敬生（新日鉄）を露払いにして、師範が四斗樽のカガミを開き、宮島竜治先輩（昭和一五年度）の高らかな発声で杯を上げ、賑かな祝宴に入つた。

宴半ば、篠巻監督が本年度新入部員一二名を紹介した。先輩達の熱い視線の中、新人を代表して、飛松秀樹（世田ヶ谷高校出）が、自覚と抱負を力強く表明して拍手をあびた。この日の会は又、諏訪、藤原両君の激励会もかねており、寄せられた激励にたいして、諏訪君が代表して謝意と決意を述べた。

パーティは、明大柔道部O.B.会独特の楽しい雰囲気に終始し、意義ある歓談の時が予定時間一ぱいまで続いた。若い学生が十二分に堪能したこの日の豪勢な料理は、パーティが企画された当初からお世話になつた、佐藤捷治氏（西武百貨店 旅行事業部長）、長井利男氏（西武百貨店外商部長）の配慮によるもので、両氏に改めて謝意を表す次第である（佐藤、長井氏はともに学苑会柔道部へ明大二部の主将として活躍した）。又、宴を盛り上げた四斗樽は、三〇年代前半、ライバルとして争つた早大柔道部O.B.三宅倫三氏（西武鉄道部長）の贈呈であることをお知らせしておく。

大いに盛り上がつた祝賀会も、川口一郎先輩（昭和一八年度）の激励を最後に、八時校歌齊唱、小宮良平先輩（昭和一六年度）の発声で明大柔道部万才を三唱して結んだ。

姿先生の昇段をお祝いして

神田和夫

先生おめでとうございます。柔道界の最高段位九段に昇段され吾々明柔会員こそつて心からお祝い申し上げます。

先生が柔道界に捧げられた業績は、正に明治大学柔道部の歴史であり、明治大学柔道部の歴史が先生の業績であると思ひます。

戦後学生柔道が禁止されたが、昭和二十六年三月東京学生柔道連盟準備委員会が正式に発足し、二十六年十月全日本学生柔道連盟が発足して、若き学生の力による日本再建のころが打ち揚げられました。

学生柔道が禁止されている期間、吾が明治大学は他校に先駆けて、いち早く明治大学柔道クラブを結成し、練習を開始したのであります。この期間の蓄電こそが、復活當時、連戦連勝破竹の進撃を続けた黄金時代を築き、柔道界に錚々たる人材を送り出すこととなりました。古い歴史と伝統を持ち内外に明治大学柔道部ありと評価された、柔道の名門明治大學柔道部の基盤はこの時築かれたのであります。

五十三帖の地下道場は五角形、通風は悪く、畳とは名ばかりの破れてモウモウたる藁ボコリに水をまいての稽古、その中で黙々と続けられた稽古、ぶつかっては羽目板に叩きつけられ、踏まれても起き上がる精神を徹底的に植えつけられた道場、これが今日の伝統となり、幾多の門下生が輩出し

その数は数百名となりました。三十数年の間に多くの部長、監督はそれぞれ交代はしておりますが、姿先生は今なお矍鑑として道場に出られ、学生の育成に尽力されており、唯々感謝の他ございません。卒業生一人一人が先生のご教導を胸に立派に社会で頑張っております。お蔭様にて明柔会の組織も着々と発展して参りました。

若いものの力を結集して、機関紙の発行、資金の徴収、等立派に一人立ち出来るようになりました。これからも先生を中心にお土重来、目標に邁進します。

このたびの先生の昇段を、門下生一同心よりお喜び申し上げますと共に、益々お元気でこれからもご指導下さるようお願い申し上げます。

明柔会関係九段（敬称略）

川 浜 野 正 平	（大正八年度）
川 上 忠	（大正十二年度）
鈴 木 潔 治	（大正十二年度）
松 崎 太 平	（大正十三年度）
小 田 常 脩	（大正十四年度）
入 江 松 次	（昭和二年度）
杉 町 仁 市	（昭和十六年度）

第五回イタリア国際柔道大会

坂本 翔正

此度、全柔連とイタリア五輪委員会の御配慮で、約四十日に亘って、イタリア各地を指導してまいりました。又この時期、ローマで開かれたイタリア国際大会の日本チームに合流し、この大会に参加する機会も得ました。以下旅程をおつて書いて見ますが、何かの参考になれば幸甚です。

公務員のソ連航空利用禁止が解けた一月二十六日アエロフロート機で、成田よりローマに向けてスタートしました。(現地との連絡等、出発にあたり上村助監督には何かとお世話になりました)早速機内でウォッカを買込みチビリチビリとやりながらの旅も乙なもので約十四時間でローマに到着。矢野秀信ジュニアナショナルコーチ(五段、拓大OB)らの出迎えをうけ、早速宿舎にて日程等の打合せの後、まず旅の疲れをいやしました。

その後約二週間北イタリアのブレーシア市

(人口約十五万人)にてジュニアチームの強化訓練合宿に参加、二十才以下、国内より選抜された十一名の少年達と修道院で起居を共にしつつ、柔道の技術と精神面の強化練習につきました。言葉の障害もありましたが、誠心誠意、体をはつて指導したかいがあつたようでした。

前記の矢野氏は熊本鎮西高校の船山辰幸先生の内弟子で、まったく日本と同じスタイルでトレーニングや稽古を行い、練習生がよく指示、助言に従い修業している姿は、目をみはるものがあり、はたして日本のジュニアチームもここまでやれるだろうかと、感心する位でした。

又この地はモスクワ五輪七十一キログラム級優勝のガンバ選手の出身地であり、クラブ道場が二ヶ所あり、小生の講習会にも二百名の指導者が集り、熱心にノートをとつたり技の質問等まであり感心しました。

二月十五日再度ローマ入りし、全日本チ

ムと合流し、以後コーチとして帶同しました。

メンバーは次のとおりです。

團長	七段	竹内善徳(筑波大教授同OB)
コーチ	五段	関根忍(警視庁中大OB)
九十五kg超級	四段	齊藤仁(國士大教同O)
コーチ	五段	米重清光(全柔連学芸大OB)



日本選手団と 前列中央

B)
九十五kg以下級所五段 高澤雅樹(大阪府警法政OB)

八十六kg以下級 四段 島本誠(旭化成東海大OB)

七十八kg以下級 五段 日蔭暢年(岩手県警国士館OB)

七十一kg以下級 五段 中西英敏(和歌山教委東海大OB)

六十五kg以下級 五段 松岡義之(兵庫県警京産大OB)

六十kg以下級 四段 細川伸二(奈良工高教天理OB)

以上の編成で、第五回イタリア国際大会に臨みました。特に昨年は優勝を逃した為、強力メンバーとなつたが、選手に明大関係者がいないのが少々残念であります。参加国はフランス、西独、イタリア、日本の四ヶ国。

成績は対フランスに六対一、対イタリア六対〇、対西独は四対三と辛勝し、優勝を獲得しました。この大会の、開催国イタリアのベントリーニ五輪委員会柔道部長は、第三回世界選手権(パリ)の際、ローマで「曾根、神永両先輩と稽古してもらい、スペイン広場の階段のトレーニングが忘れられない」と小生に

体験談を語ってくれ、異国にまで伝わっている明大柔道の有名さには、驚きました。

その後北イタリアのトリノ市にて三日間、全員で指導。親善試合が行われ、先の試合で膝靱帯を痛めた斎藤選手の代りに小生が出場、日頃鍛えた姿流固め技で決めるなどのハピニングがありました。

又一週間後の二月二十六日、パリ市営室内体育館落成記念フランス対日本国際大会が開催され、一万五千人の大観衆が見守る中、三対一で勝利をおさめた。ここパリでも明柔会のメンバーの富賀見、大国、関、佐々木、段上各氏のウワサ話が小生の耳に入り、ヨーロッパ各地で「オーオー明治」が轟きわたつてゐるのをうれしく思いました。

その後パリより飛行機で二時間ボルトガルのリスボン市にて指導稽古、親善試合等二日間行い、再度パリに帰り一泊しました。この夜、フランス柔道協会の役員であるベソン、ブロンダニ両氏より招待をうけました。両氏共、十五年前来日し、明大道場で共に汗を流した仲間でした。言葉は充分意をつくさなかったのですが、そこは身ぶり手ぶりで理解ができたようで、まさしく「友遠方より來たる」。三人でパリの夜を痛飲し、翌日帰国した

ジャムの専門メーカー
JAS規格認定工場／輸出品製造承認工場
株式会社 スドージャム

営業所 東京・大阪・札幌・仙台 工場 松本 三木(兵庫県)
長野県松本市大字笠置5958番地 ☎ 松本26-6811

ボタン・服飾附属
鈴木商事有限会社

鈴木 強(46年度卒)

足利市八幡町 82-12
電話(0284) 4616-4617

熊本県警(四十年度)

明大スピリット

頑張れ

明大柔道部の健兒諸君！

大野忠博

再刊した「明柔」を毎回樂しく拝読しています。姿先生をはじめ懐しい人達の思い出出話を写真を拝見するたびに、昔を思い出して血潮の高鳴りを覚えます。

歴史と伝統のある我が明治大学柔道部は、いつも学生柔道の牽引的な役割をはたしてきましたが、この十年程長い低迷が続いており明柔OBは悔しい思いをしています。残念なことです。

私が明治大学に入学したのは昭和二十四年です。入学のきっかけは姿先生と伊藤信夫先輩との出会いです。昭和十八年一月に講道館の少年部に入門した私は、戦後毎日講道館で柔道の修行をしていました。

新制の都立一橋高校を卒業するのでどこか大学へ行こうかと迷っていたとき、毎日講道館で稽古をつけていた姿先生と伊藤信夫先輩から「君、柔道が熱心だね、大學へ行くのなら明治大学を受けてみないか」と声をかけてもらつたのがきっかけです。

その当時の様子は姿先生、神田、金子先生、又同期の門屋君が思い出の中に記しているよう、戦後の混乱期から少しつづ上昇気運に

します。
その頃から全日本柔道選手権に出場する各地区の代表選手達は、講道館に行つてもあまり練習にならないと、強い稽古のできる明大の道場へ集まつきました。吉松、松本、伊藤(秀)、戸高、朝飛先生等……それら強い先生方に腹をすかせた瘦せた学生達ではあったが、明柔スピリットに燃えた若武者ががんがんぶつかって行きました。あの狭い道場で地獄のような猛鍛錬が戦後の明大柔道部の基となしたといつても決して過言ではありませんが、明柔スピリットに燃えた若武者ががんがんぶつかって行きました。

柔道が強くなるには体に合った技ということが、昨年神永君が新入りのために記された中にもありました。当時の部員達は猛稽古が終つた後でも入浴当番を除いて何となく集まって、明大の道場に稽古に来た有名な先生や強い選手達の技を研究したり、応じ方や受け方、そして何とか投げることができないものかと必死になって研究し、夜がふけることもありました。そのためか昭和二十六年学生柔道が復活したときは連戦連勝でした。

その第一期の黄金時代の部員達は、各自が獨特の個性のあるすばらしい技(連絡技も含めて)を持っていました。

明大の柔道は、基本は守らなければならぬ大切なことです。自分の体(体力)に合つた、又気性に合つた技を研究、開発し、そしてその技を完成させ、試合にのぞんでは何もをも恐れず、何のをも悔らず、身につけた自分の技をどんどん出して攻めまくり、立っても良し、寝ても又良しと小気味のよい勝ちかたをしてこそ明大の勝ちかたです。

我々の敬愛する姿師範は講道館創立百年記念に九段に昇段されました。眞に喜ばしいかぎりです。これを機に姿師範をはじめ篠巻監督、上村助監督ら最高の指導陣を持つ明大柔道部の部員諸君は、その指導を学生らしくよく考え、充分そしゃくし、気分を一新して、今一度我々のこの手で黄金時代を作るその気迫で猛稽古に励んで下さい。

その苦しい柔道の修行を通じ国家社会に有為な人材になることが、明大柔道部員の目的です。私は三船久蔵先生の「力必達」(つとむれば必ず達す)という書を家宝として大切にしています。

私の好きな言葉の一つで人生の座右の銘として日々三重の地にて努力しています。

最後に青春時代に大変お世話になった今は頑張れ 明大柔道部の健兒達よ

六月発行の会報「明柔84F号」へ編集部の方より寄稿の御依頼を賜り、我が人生を振り返りながら、反省しつつ、雑文の筆を走らせることにします。

私は、昭和四十年度卒業生です。当時、昭和三十九年度卒業されました鳥海又五郎先輩(現在サウジアラビアで柔道の指導に従事されています)も在学中で居られました。先輩は、名前がここに掲載されたことで今頃遠いサウジでクシャミしておられるかもしれません、その先輩が、口癖なのか、それとも常に自分自身に言い聞かせて自己を奮起されておられたのかは定かではありませんが、いろいろな場での会話の中で、必ずと言つてい程、「根性、根性、根性」という言葉を連発されていましたが、今でも強く印象に残つて

根性の持つ意味の深さ

上野武則

亡き八島先生、葉山先生、小田先生、久米先生、斎藤先生、隠居先輩、曾根君、末木君へ慎んでごめいふくをお祈ります。

三重県警察術科指導官・柔道主任師範・二十七年度卒



昭和26年10月、戦後初の全日本学生柔道選手権大会(個人戦)が大阪野球場仮設道場で開催された。記念すべきこの大会で、本学の金子泰典主将が優勝、左、野忠博が二位であった。向かって右、大野忠博、左、曾根康治。

おられます。学生時代の各種大会の試合中におきましても、私達が苦境に追い込まれた時など、先輩の取つて置きの一一番「根性だ。根性だ。」の大声が雷電のごとく会場の隅々まで響き渡り、その激で奮起した試合は数知れないものがありました。

最近、学生大会等の試合場に於て、諸先輩の方々から「今的学生は時代の流れもあるが指導者にも問題がないとは言えない。根性が足りない」と指摘されるようになりました。その点は、私も時折感じることがあります。前置きが長くなりましたが、私はこの『根性』について僭越ながら私感を含めて述べさせて頂きます。

ご参考までに『根性』を広辞苑で縦いてみると、その人の根本的な性質、こころね、しようね、と列挙してあります。

私自身の体得したもので解釈するとすれば『根性』とは、体力、気力、実力、の三つの要素から成り立っていると思います。

まず第一は体力。ここで言う体力とは身体的な体力を指すのではなく、いついかなる状態にも応じ得られるような適応性を持つこと。私は、これが体力だと思います。他の気力、実力の二つとのバランスをうまくとつてみたいと思っております。

向つて一步一步前進されることを切にお祈り申しあげます。

取り留めもない話で、話が前後しましたが私は「根性」という言葉が好きであります。

この根性を選手にも私自身にも言い続け、大きな夢と希望を目標に持つて、現在の私の職場での仕事は大任ではあります。責任を全うしたいと思っております。

最後に「志あるところに道あり。志ある者、事ついて成る」という言葉があります。意味は「どんな困難なことでもやろうという強い意志さえあれば、やり遂げる道は開けてくるものである。志をもつて事にあたるものは、最後には必ず事が成就するものである」といふことです。

根性をもつて、幾多の困難をも乗り切つて学生諸氏のご活躍を祈るものです。

福岡県警(昭和四十年度)

紳士・婦人・子供 各 種 帽子の ミヤシタ

(宮下光男 27年卒)

東京都葛飾区新小岩1-39-9
新小岩銀座アーケード街
電話 (651) 0691

ガソリンスタンド

ガソリン・軽油・白灯油・各種オイル
その他カー用品

浜松市布橋三丁目七一十二
☎(○五三四)七一一五〇五四

株式会社 力ネマツ

代表取締役 鈴木紀一(三八年度)

企画力、技術の生かされた印刷

- PR関係美術印刷
- 事務用印刷・ビジネスフォーム印刷
- 出版関係印刷
- ポリエチレン・ポリプロピレン各種印刷
- 製袋・加工、各種加工成型、シール印刷加工



有限公司 渡辺欣勝堂
代表取締役 渡辺 欣嗣

神田営業所 〒101 東京都千代田区三崎町2丁目21番10号
渡辺ビル4F 電話(03) 262-4635代
本社工場 〒115 東京都北区浮間3丁目5番28号
電話(03) 967-9317代

企画力、技術の生かされた印刷

中島興業株式会社

代表取締役 中島辰平

食肉業界に奉仕する
中島グループ

中島畜産食品株式会社
日本栄養食品株式会社
中島畜産市場仲買株式会社
弘友食品株式会社

総合本社 東京都墨田区太平一-16-1
東京03(55)422-9(太代)

調和させる基本となるものが体力です。体力の中から気力も自ずと生まれてくるものです。気力というものは精神力であり、それは根性にもつながります。

根性、という字を逆にすれば性根です。読んで字のごとく心が生まれる根本という意味になります。心が生まれる根本を突き詰めればやる気ではないかと思います。やる気を起こさせて、初めてそこに根性が生まれる。目標を立て、方法を考え学び、実行に移し、必ず成し遂げる。その結果が根性のあるか否かを左右するのではないかと思います。もう少しくわしく申しますと、その試合の勝ち負けの云々で根性があつた、なかつたと判断するのではなく、目標に近づこうとする段階の過程の中にあるのではないかと思います。

体力から気力、精神力が生まれ、これが根性にもつながります。これらが充実した時、体力といつた気持ちは自然を湧き出で来ることは、本当の実力が備わった証拠だと言つても過言ではありますまい。

「今度の試合はどうだろうか」と心配しながら

ら思いを巡らせるようでは、まだまだ実力が備わったとは言えません。

一般的に根性があると言われる人は、自分自身にも勉強しなくてはいけない課題の一ですが、リーダーシップのある人とは、目的達成のために選手の心が一丸となって、やる気を起こさせ、根性を育成し、実力を充分発揮させるためには努力を惜しまない人と思つております。

世論は表面的な捕え方しかしてくれません。汗と血で汚れた柔道着姿で厳しい鍛錬にも耐えて練習して来たとしても、成績が不調に終われば、決して良い評価は得られません。練習の評価はなく、結果のみが評価されます。それが勝負の世界でもあるのですが。

私事ですが、私は、現在福岡県警察本部で柔道指導者として選手の育成に専従させていただいております。立場上、現場の総責任者であられます篠巻監督、上村助監督のご努力が、少しは理解できると思っております。これから柔道発展のためにも、目標に

OB便り

大阪明柔会の近況

甲斐福男

わが大阪明柔会は、全日本学生柔道選手権大会が大阪府立体育館で開催されるのを機に従来から我々大阪在住のOB達が連絡を取り合って、学生を応援したり祝賀会を催したことに始まるといいます。

その後、大阪明柔会の結束を固めるため、吉田光夫（大10年度卒）、中野竜登（昭30年度卒）、徳山操（昭33年度卒）らが大阪会員に呼びかけ、昭和58年6月7日、正式に大阪明柔会を結成。初代会長に甲斐福男（昭33年度卒）、副会長には比嘉良幸（昭33年度卒）、幹事長に大橋武彦（昭43年度卒）、幹事に金城善治（昭



季治（昭
35年度
卒）、小
田原徳
明（昭
35年度
卒）、会

（語彙事務局に鉢巻弘三（時5年庚午）を送り）
発足しました。

三九〇

(大10) 吉田 光夫

卷之三

今後の計画としては、恒例のビヤバー・ティーや納涼大会を開き、会員の結束を固めることはもちろんのこと、大阪で開催される秋の学生選手権大会へ向けて、一人でも多くの会員を募り、万全を期して学生達の応援に臨むつもりです。そして今年こそは優勝の美酒に酔いしれたいと、今から楽しみにしています。

我々大阪明柔会は、学生諸君の益々の精進を期待するとともに、今後の活躍を心よりお祈りします。どうぞ存分に頑張って下さい。

藤信正氏（昭32年度卒 剣道部OB）らの応援をいただいております。今後とも大阪明柔会のご指導ご鞭撻のほどを、よろしくお願ひ申し上げ、会の近況報告と致します。

ヤーらしく浅草で落着いてやろうとの提案があつたものの、昔、練習帰りや授業をサポートして歩き廻った新宿を懐かしがる組が多数を占め、新宿「玄海灘」において、一七年ぶりの

41 年度卒同期会

山本裕羊

(昭30)	中野竜登	旭化成工業(株)
(昭32)	高村秀翁	守機設工業(株)
(昭33)	徳山操	東洋住建(株)代表
(昭33)	比嘉良幸	大阪府警
(昭33)	甲斐福男	旭化成工業(株)
(昭34)	高島正美	大協製作(株)代表
(昭35)	大橋武彦	兵庫パッケージ(株)
(昭35)	小田原徳明	小田原接骨院院長
(昭36)	金城孝治	金城接骨院院長
(昭36)	小川誠司	宮崎日々新聞社

(昭37)	朝田 紀明	新日鉄大阪営業所
(昭37)	栗原 英道	旭フーズ㈱
(昭39)	山本 忠夫	明治管材㈱社長
(昭39)	永吉 勝憲	日立造船㈱
(昭39)	松田 真勇	㈱西武百貨店
(昭44)	向下文治郎	川村接骨院院長
(昭46)	金谷 洋志	川村接骨院院長
(昭51)	鈴尾 弘幸	日本メルク万有㈱
(昭52)	岩田 克之	日本精線㈱
(昭52)	鷹田 文明	中央競馬会阪神

(昭5) 薦田 文明 中央競馬会取締
(昭57) 木下 剛至 積水化学工業
その他、伊藤義一(昭30年度卒)の弟、伊
以上二十四名

四月二九日、全日本選手権大会の当日、武道館において四一年度級が、四二年春の卒業以来一七年ぶりに集まつた。明柔会では卒業年度毎にOB会が持たれて居るが、我々の学年は卒業後一度も集合していない。そこで姿先生の「九段昇段祝」の際に集まろうではないかと、徳島在住の佐々木君の提案と連絡により今回の再会が実現した。北海道の速田君広島の佐藤(石岡)君は所用で、又アメリカ在住の平田君は遠いため、藤林君は連絡がとれず、それにそれぞれ欠席した。

選手権大会が終った直後、試合場際で「やあ、やあ」と肩をたたき合つて再会！会食の場所を決めるにあたり、渡辺君がマネージ



右から 佐々木充行 堤 昭輝 山本裕洋
古浜晴永 市島大二郎 渡辺公雄



大ファンの紅一点小原さん（喫茶店経営）が
加わり、明け方まで飲み、食べ、歌い、時間
のたつのも忘れる程話しに花が咲きました。
何と飲んだビール50本、富久娘12本、ウイス
キー6本、やはり酒豪は相変わらず木下君の様
でした。来年は篠田君のお世話で、岐阜にて
開催いたします。今回キャップの田中君が、
親父さんの突然の病気の為出席出来ず淋しか
ったが、最後に全員の健康を祈り、校歌、部
歌を歌い散会いたしました。

夢のよつなし田間

小原陽子

山笑う秋保の地に明治の風が舞つた。

(東洋醸造株仙台支店)

明日を待ちこがれたあの頃のこの思い、久し振りの快よい眠れぬ夜である。

全く未知の人間との出会い。ただただ一世を風靡した蛮カラ明治の柔道部員、そして現在不惑の年を越し、自信と優しさに満ちあふれた人生の成長株の男たち、そんな空気の中で過せる二日間。もう心うきうき眠れぬ筈であたりまえ！

凶しくも知らぬがいことに、失礼ながらご同輩の一員として化けることにした。

午後4時30分 秋保温泉に向う車の中、褐色の生毛におおわれたような早春の山々の木が、次第に潤いを帯び、春の夕日に照らされて笑みを浮べてゐるような山々のトンネルをくぐり抜け、秋保温泉「岩波や」に到着。午後5時30分 仲居さんに従い、未知への世界を垣間見る一瞬ードキドキ——キュー——

「こんにちワ、始めまして——」とやつと一言。ゴルフを終え、温泉につかり、丹前姿のくつろいだご同輩のめんめん。体が大きいのやら、丹前が小さいのやら、足がによきによ

「あの世界の神永、明治の柔道部在りし日の
あの風をもう一度」と氣合いの一声にて、益
益宴会盛り上る。

お土産である筈の金箔入り清酒は「あつ」
と言う間に全て空っぽ。もちろん冷、燭酒も
銚子の山、やま、最後はウイスキー、アイス
ペールでのまわし飲み、「イエイー」と掛け声。
もう既にご同輩たちの顔は現在のそれでは
なく、数十年前の腕白ざかりのそれぞれの町
内でのがき大将の面持ち。

お土産である筈の金箔入り清酒は「あつ」と言う間に全て空っぽ。もちろん冷、燭酒も銚子の山、やま、最後はウイスキー、アイスペールでのまわし飲み、「イエイー」と掛け声。もう既にご同輩たちの顔は現在のそれではなく、数十年前の腕白ざかりのそれぞれの町内でのがき大将の面待ち。

き——髭を剃つてゐるやら、横になつてゐるやら、一杯始めてゐるやら、もうこの世界は時をさかのぼり、あの部室に化してしまつた感じ。

そろそろ終宴に近づく。肩を組みかわし校
歌に始まり、部歌、最後にエールをきつて
「おやすみなさい」 午後11時30分

時は流れ流れての再会。そこにはどんなに
うつろう時の流れがあるうが、その空間すら



保溫泉にて

6年度同朋祭

四
一年度
旭化成延岡

神永正夫

活、練習、合宿等が昨日のことのようによみがえり、タイムカプセルで学生時代に返った様であった。我々の年度は入学時には約三〇名近く同期がいたものの卒業時は九名であった。これは黄金時代の練習の厳しさを物語つていたのではなかろうか。又我々は学生大会で優勝出来なかつたものの、黄金時代に少なからず貢献したこと自負しようと約束した。「玄海灘」から昔我々が通つたコンパ「王城」に向かつた。店の造りは二〇年前と変つておらず久々に学生気分に浸ることができた。次回は早い時期に計画をたて全員集合で行なう事を約して新宿の街を後にした。

くに田村君は卒業以来23年ぶりの再会。髪が白くなつた人、頭の禿げあがつた人、当時そのままの人など、さまざまでしたが、あつという間に学生時代に早戻りしてしまいました。思えば25、26年前、仙台は柔道熱が盛んで当時の四大学リーグ戦（明大、日大、中大、拓大）が人気を呼んでいました。25名の勝抜戦が行われ、層の厚さでも他の大学を圧していました。明大は、常に無敵を誇っていました。また、田中・高田・佐藤治・佐藤（栄）・大林等のデビュー戦もあり、大いに活躍した思い出の土地でもありました。

それぞれの想いを秘めながら5月19日早朝3組に別れゴルフコンペが秋保カントリークラブで行われ、初参加の佐藤治君が見事優勝、賞金ウン万円獲得し、篠田、神永が続き、本命の松本、佐々木両君は寝不足がたたり実力発揮出来ずじまい。木下、田村、高田、早瀬、佐藤（栄）はまだまだゴルフにならず、今後の精進が期待されるといった結果でありまし

しかし結果はどうであれ、和氣藹々のうちに終了しました。夜の宴会には、塩崎君、岡部君、渋谷君、それに地元出身の後輩佐藤正

うめつくしてしまった強い『明治』の絆が生きている。その絆を培った学びの『明治』で青春を謳歌したご同輩たちがとても羨ましかった。

—明治柔道部にカンパイ—

来年は岐阜のこと。今回はうまく化けれど紛れ込めることがやら……

みなさん、すばらしいひとときをご一緒させて頂き感謝致しております。

ありがとうございました。

—またいつの日か—

1984・5・19～20 忘れ得ぬ日

仙台市内にて 喫茶店経営

明柔ファン

31会四年生激励の集い

丸山彰治

四月二十一日（土）午後五時半から、三十一年度卒業の我々31（サンピニン）会は、桜吹雪の隅田川畔を散策の後、焼肉のメッカ浅草にて柔道部四年生を激励する会を催しました。（篠巻、上村両監督は所用のため欠席）出席者は、元主将の浅野をはじめ、五島、磯、山崎、佐藤、滝本、杉山、丸山の八名で

みなさん、すばらしいひとときをご一緒させて頂き感謝致しております。

—またいつの日か—

1984・5・19～20 忘れ得ぬ日

仙台市内にて 喫茶店経営

明柔ファン



当日の参加者 神
田、伊藤（義）、甲
斐、大橋、高田、
朝田、栗原、渡辺。
当日のスコアを紹
失してしまったの
でお知らせ出来な
いのが残念です。

城西タクシー株式会社
代表取締役 辛島雄健
(40年度卒)

東京都中野区新井4-13-12
電話 385-0451～3

菓子問屋
株式会社 ヴンジュー

取締役社長 段上秀馬
東京都墨田区本所4丁目11番5号
電話 622-9121(代表)

ほねつき
六郷接骨院

本院 名古屋市南区泉栄通り1-14
TEL (052) 691-0268
分院 知多市清水ヶ丘2-1001
TEL (0562) 33-5672

大衆割烹 太洋
橋本一郎

都営地下鉄三田線 蓮根駅前
TEL (967) 9863



カリブ海の島

富田弘美

打拼 日頃の御無沙汰をお許し下さい。明柔会員諸兄に於かれましては御健勝にて御活躍のことと思います。

私がこの国に柔道指導のため赴任して、早いもので間もなくあしかけ十年になります。明柔会員諸兄に於かれましては御健勝にて御活躍のことと思います。

私がこの国に柔道指導のため赴任して、早

いもので間もなくあしかけ十年になります。明柔会員諸兄に於かれましては御健勝にて御活躍のことと思います。

さて、私は赴任以来現在まで、国立プエル

トリコ大学に教官として勤務しております。

この大学は地方に分校を八校持っている大規模な大学です。この国にはこの他、私立大学が一〇校あり、人口比からいえば大学の多い国といえましょう。これらの大学のうち、七校に柔道部があつてリーグを結成し、この



大学リーグがプエルトリコ柔道の中心になつております。私が指導しているプエルトリコ大学は、全国大会で目下五連勝中で、女子チームも四連勝しており、リーグのリーダー的

な存在となっています。といつてもお国柄か

ら、彼等のスポーツに対する認識が我々とは
だいぶ違っており、したがって日本やアメリカ
の大学運動部の活動とは比較にならないの
んびりした練習内容です。例えば練習日は週
三日、一日の練習時間は二時間と、遊びにケ
がはえた程度のものです。これは何も柔道に
限ったことではなく、他のクラブ活動も同様
です。私としては、練習量をふやして集中的
なトレーニングをはかれば、まだまだ力がつ
くものと思っていますが、お国柄で何うもの
ってはまいりません。私がかつて指導したボ
ーランドや、二、三の外国での経験からいえ
ば、先ずその国の国民性を把握し、これに合
ったカリキュラムをたてるというのが外国で
指導する時のロハです。ここでもあせ
らずに自分のペースにもつていくつもりでし
た。が、そう思いながら、もう九年になって
しまいました。この底抜けの明るさに、私自
身も、ずい分怠けものになってしまった様で
す。実力のほうは、二年前にアメリカ東部学
生大会に出場して優勝した経験がありますが
そのほかこれといえるものはありません。も
っとも、実力とは別に予算がなくて遠征試合
も思うにまかせないというハンデもあります。

吉井敬吉

前略 日本はそろそろ梅雨があける頃でしょ
うか。皆様にはお変わりなく御活躍のことと思
います。こちらは馴れない印度で、毎日汗を
流して働いております。しかし、インド洋に
面したこの土地は時期によつて日本の五、六
月頃の気温になるときもあり、それなりに季
節感はあります。大分おくれた話になります
が、今年の冬は東京にずい分雪が降つたそ
うですね。いかがですか。

正月には、送つて頂いた「明柔83L」を懐
しく読みました。回を重ねる度に良くなつて
おり、私も編集委員の一人としてうれしく思
っています。神永先輩、小林先輩、代田先輩
他委員の皆様の御苦労がしのばれます。帰り
ましたら私も又及ばずながらお手伝いするつ
もりです。

さて、急な話でおどろかれるでしょうが、
当地ゴア柔道協会の会長を私が務めておりま
す。と言つても実際は何も特別なことをする
訳ではなく、仕事の合い間に協会の道場で稽
古をつけるだけですが、この協会は、三年前

が。

ここで、ノンビリしたこの國の人々の生活
を少しお知らせしましょう。ペルトリコ人
も他の中米の人々と同様、陽気でものにこだ
わらない氣質をもつております。とにかく遊
ぶことが好きで、音楽といえばカリプソ、ダン
スはサルサがなくては夜も日も明けません。
例えは金曜の夜から徹夜でダンスに興じ、土
曜の日中は寝み、夕方に起きて又日曜の朝ま
でさわぐ、日曜の日中は海岸で泳いだり、ば
んやりして過すという訳ですから、月曜日は
疲れていてほとんど仕事になりません。實際
にマアマアの仕事をするのは、火、水の二日
間で、木曜日になると、金曜の夜の遊びを考
えてソワソワし出すということになります。
間もなくサンファン在住九年になろうとして
いる私も、これにはいまだについていけませ
ん。どちらがよいかは別にして、世間から仕
事の鬼とか働き虫とかいわれている我が日本
国民とは、実に対照的な人生感を持つている
人々です。経済的に余裕のある国ではなく、
日本にくらべると貧しいとさえいえる国民生
活ですが、この陽気な国民性と明るい太陽と
海が、貧しさのかげりを吹きとばしてしまう
のでしょうか。あらゆる生活の立地条件が違う

とはいえ、金持なのに若いうちから老後の生
活を思い悩んでいる日本人にとって、実際に示
唆に富んだ生き方をしている人達です。
この小さな島国には、これといった大きな
産業はありませんが、南洋のくだものも豊富
で、魚もとれます。コーヒーもおいしく、酒
はラム酒が仲々のものだそうです。(私は下
戸なのでー)そして若い女性が美しいのはい
うまでもありません。

以上が私の観光案内のペルトリコ紹介で
す。もし学生諸君のなかで卒業後に私のいる
大学に留学したいという人がおりましたら、
お世話をしたいと思います。二年間の留学にな
るかと思いますが、スペイン語と英語の勉強
を目的とされるとよいでしょう。手続きなど
については会報編集部に知らせておきますが、
来た時にはもちろん柔道もやってもらいます。
それは希望者が出ることを楽しみにしてこ
の辺でお別れといたします。

本年度の優勝と会員諸兄の御健康を祈念し
て。さようなら

△四〇年度△



ヒンズーの遺跡

ゴア（インド）から

吉井敬吉

前略 日本はそろそろ梅雨があける頃でしょ
うか。皆様にはお変わりなく御活躍のことと思
います。こちらは馴れない印度で、毎日汗を
流して働いております。しかし、インド洋に
面したこの土地は時期によつて日本の五、六
月頃の気温になるときもあり、それなりに季
節感はあります。大分おくれた話になります
が、今年の冬は東京にずい分雪が降つたそ
うですね。いかがですか。

正月には、送つて頂いた「明柔83L」を懐
しく読みました。回を重ねる度に良くなつて
おり、私も編集委員の一人としてうれしく思
っています。神永先輩、小林先輩、代田先輩
他委員の皆様の御苦労がしのばれます。帰り
ましたら私も又及ばずながらお手伝いするつ
もりです。

さて、急な話でおどろかれるでしょうが、
当地ゴア柔道協会の会長を私が務めておりま
す。と言つても実際は何も特別なことをする
訳ではなく、仕事の合い間に協会の道場で稽
古をつけるだけですが、この協会は、三年前

新規で柔道コーチのキャンプを行うことを知
り、連絡をとつてみました。一週間後に役員
会に呼ばれ、その席上で会長に選ばれてしま
ました。私が会長になつたきっかけは、昨年十一月

それが自信がありますのでー)

それではこれで近況報告までといたします。

明大の技(4) 德山操の背負投

この“明大の技”に登場する人と技は、一明大柔道部の話題ではなく、その時代の柔道ファンが皆注目した技であることは前にも述べた。すでに三人を紹介したが、得意技として一般的な大外刈、内股等の分野には、オリジナリティに富んだ技を駆使して話題を呼んだ選手がまだまだ居り、彼等は迫って登場することになる。

今回は背負投の「徳山操、三三年度」を紹介する。背負投は昔から少年部の稽古や試合では、ポピュラーな技なのだが、一流レベルにこの技の達人が少ない。推察するに、肘や手首の故障につながる独特のつり手のむずかしさが先ずあり、又、説明は省くが、派手な大技でありながらやや試合向きでない事から、体がかたまつて来る頃になるとより実戦的な技、例えば一本背負等にかわっていくためらしい。(現在、軽量級では背負投がよく見られるが、相手の袖口を絞り、とび込みざまに膝をついて巻き込むこの場合の技は、本来の背負投と別のカテゴリーの技と見たいので例外とする) 話はとぶが、同様にあのはなやかな大技、跳腰が見られなくなつたのも背負投と同様、互いにじっくり組む型になりにくい。近代柔道の試合には不向きな技であるためなのだろう。いずれにしても寂しいことである。しかし、この実戦向き、不向き云々は一般論であり、我が明柔の須磨周司が背負投で世界を制したことを見出してもよい。

さて、この世界の須磨エントラーブレイズに対し、今回登場の徳山は、伝統芸術の店、徳山屋、というところである。彼の柔道は全日本選手権大会等でよく観衆を喜ばせたもの、無冠の帝王だった。しかし徳山の技には須磨の持つきびしさを越えた、名人芸のツヤと楽しさがあり、絵になつたものだ。世界の須磨もこの点では先輩に一步ゆする事になる。どの世界でも、いわゆる名人とか職人という人達はある種の暗さが感じられるものが、徳山は、実に明るい人柄で、柔道によくそれが現われていた。

今、ここに戦後の日本柔道史上、昭和三〇年代のカツギ屋(えり背負投)、ナンバーワンは右の徳山操、四〇年代のそれは左の須磨周司と書いても、明治の手前ミハと世間からクレームはつかない筈だ。

徳山は身長一七四cm、体重八四kg前後で、広島県三原の産。稽古では、釣込足等足技のさえも見せるのだが、試合での勝は右背負投によるものだけ。

最近、背負投はすっかり軽量級専用の技となってしまった感があるが、彼等の背負投と徳山のとをくらべた時、打ち込みや投げ込みを見る限りでは特に変りはない。「受けの両足の内側にハの字が重なる様に自分の足をさばき、腰は受けの股間にに入る程低く飛び込む……」といった背負投が教えられた時代に、自分が飛び込むのではなく、間合いをとつてしかし持ち前の明るい性格はこれに落ちこむことなく、道場では臆することなく先輩達に向つて行つた。

さて彼の現役生活は約一〇年であったが、その間自分の柔道のスタイルを完全に守り通した。この辺りが、伝統芸術の店徳山屋の面目であろうが、若い頃大外刈一辺倒だった曾根つける位強かつた反動はきびしく、いつの時代にも存在するいじめ屋上級生のターゲットにされて、よく涙を流していた。しかし持ち前の明るい性格はこれに落ちこむことなく、道場では臆することなく先輩達に向つて行つた。

現在関西に在住している彼は、学生の広畠合宿や遠征の際にはよく顔を出し、何かと心づかいを寄せて呉れる。まだ若い? のだから、あまりおとろえないうちに、学生にかけての美技のヘンリンを見せてもらいたいと思うのだが、如何せん体重が一〇〇kgを越えてしまつたらしい。

向に体をあずけて巻き込みポイントをねらう、ということになるのだろう。すぐれた柔道のセンスにくわえてこの足と腰の強さが、彼の柔道の特徴の一であり、二はその引き手であった。彼の引き手の位置は相手の奥内袖で、袖と衿の境目あたりを小指をひっかける様にしてとつた。一見すると両衿をとばしたものである。このケース、今ならたぶん、引手の方へ引き手なしでは絶対勝てん。ナンボ引き手をきらわれても、袖と違つてここだと簡単にとれるケンの。身についてしまえば引きつけも人の言う程袖とは變らん。たまに引き手が衿になつて相手の腕が生きていても、ワシはつぶれんケン。手を着かれる事は無い。もっとも腕の力はつけにやイケンガノ」

といつていたことを思い出す。

道場が終ると講道館、日曜日は警視庁道場へと人一倍稽古にはげんだが、合宿での苦労も少なくなかつた。

入学した時すでに三、四年生をこの背負でマリの様に投げつける位強かつた反動はきびしく、いつの時代にも存在するいじめ屋上級生のターゲットにされて、よく涙を流していた。しかし持ち前の明るい性格はこれに落ちこむことなく、道場では臆することなく先輩達に向つて行つた。

現在関西に在住している彼は、学生の広畠合宿や遠征の際にはよく顔を出し、何かと心づかいを寄せて呉れる。まだ若い? のだから、あまりおとろえないうちに、学生にかけての美技のヘンリンを見せてもらいたいと思うのだが、如何せん体重が一〇〇kgを越えてしまつたらしい。

写真 三十二年学生選手権
対太田選手(中大)



隨筆

(原稿到着順)

精進

高橋秀豪

奥妙練心



柔道場にあつた三船久藏師範ご揮ごうの掛け字が、いま脳裏を去来する。師範の絶妙なご指導や、講道館では徳三宝師範の豪快な技と人柄に接したのが忘れられない。

私の恩師で駒沢大教授でもあった沢木興道老師は「武道とは仮に敵を前に置いて、今ぎりの自己を鍛錬工夫する道である」と諭された。柔道の真髓は健全なる心体。眞の平和にも通じる勇猛精進の道であると思う。

専門部商科、政治経済学部の計六年間のうち、教練は適当に、授業に出たのは鶴沢総長の東洋哲学など通算半年ぐらいだったが、柔道の稽古は欠かさなかつた。入浴後、大学図書館へも通うかたわら、明大仏教青年会幹事長として、記念館講堂で沢木老師講演会も開いた。

卒業間際、旧海軍予備学生を学験したもの、海軍兵学校出の試験官に田中智學の国体論を引用して論じ、「戦争は迷った奴がする事で、私は山で育ったので海で修行しようと思って志願した」と言つたのがたたつて不合格。旧陸軍歩兵で入隊して航空兵へ転科、少尉になつて間もなく終戦になつた。軍隊生活二年間のうち、熊谷陸軍飛行学校所属の特別操縦見習士官（三期生）として単独飛行中、最も危険な離陸直後にエンジン故障で墜落し、奇蹟的にケガもせず九死に一生を得た。その軍隊で私を支えたのは、両親や祖父母の祈りと共に、柔道と真理に対する求道心であった。

敗戦で復員後、農業、足助中教諭、賀川社会事業研究所助手各一年などを経て、中日新聞記者としてすでに約三十年。この間、岐阜県在勤当時は有志と西濃柔道連盟を発足させ、太垣、安八両警察署でも柔道指導した。岐阜市で柔道大会があり、会食席上で三船師範と同席し、先生の端然としたお姿が今も目に浮かび懐かしい。

いま仕事のかたわら、町と郡の明るい選挙推進協議会長、町民憲章推進協議会長の一方、十五年ほど前に柔道スポーツ少年団を作り、明大マンドリンクラブも演奏に招いた。また



九年前、鈴木正三顕彰会を発足させ、最近は「今に生きる鈴木正三—その足跡」という本を六千部発刊した。正三（しょうさん）は、

約四百年前（天正七年）に足助町則定で生まれ、旗本だったが四十二歳で出家した。二王不動静を唱え、江戸仮名草子や葉隱の源流とも高く評価され、島原の乱後は、天草初代代官となつた実弟重成と力を合わせて天草の復興に献身するなど、傑出した禪僧、大思想家で「誠のために身命をなげうつて名利にとどまらず、己をして大利に至る。愚人は利欲のために一命をおします、心をなやまし身を苦しめて貪る」と說いた。現代の世相、青年にも訴えたいことであろう。

私はOBとして何ら為すすべもないが、明大柔道部には全OB同様親近感を持ち、曾根、神田両選手、オリンピックの中谷、神永両選手らにも力を入れて声援していた。大らかな、たくましい柔道部の発展を願つている。

讀書会（昭和十八年度）

（昭和十八年度）

すばらしき武道との出会い

今松夫

このたび編集部の方から「ぜひ寄稿を」とお願いされました。当初私のような明大柔道部に四年間お世話にならない、いわばハンパ、もんには——と思いつきお断りするつもりでおりました。しかし考えて見れば明大柔道部の関係者はその後も親しくおつきあいさせていただいており、私自身も以来約30年余、武道とは縁の切れない人生を送っておりますので、後輩の方たちになにかお役に立つ話でもあれば……と思い、恥かしながらペンをとらせていただきました。

月日の立つのは早いもので、私が学窓を巢立つてから来年春で丁度30年になります。卒業後、中日新聞社に入社しきびしいマスコミの世界の中でもまれづけてまいりましたが、その間何度もかくじけそうになつた私のすべてを支えてくれたのは、やはり武道で鍛えたバックボーンであったと思います。とくに短かつたとはいえ、明大柔道部における修行の月日は、いまだ私の脳裡に強烈な印象として残っております。

知人のつてをもとめて近所にある警察署の柔道場で本格的に柔道の道に入門したのは、それから数日後でした。まだ警察などを除いては武道は進駐軍に全面的に禁止されているような時代で、柔道着もそれはお粗末なもので、いまの若い人にはおよそ想像もつかない



ようなシロモノでした。

そんなときに都文館の同級生に柔道の強いのがいると聞いて、はじめて口を開いたのが、その後ともに明大柔道部の門をくぐった渡辺欣嗣君でした。また彼について入門した講道館には、その後欣嗣君とともに明大の両渡辺と他校の選手に恐れられた渡辺政雄君などががんばっており、このふたりとは以来30有年親交がつづいており、あらためて柔道による出会いのすばらしさを痛感しております。

高校三年の夏に欣嗣君と私のふたりが中心になって都文館学園に念願の柔道部（当時は郁柔クラブ）を作りましたが、そのときコートにあたっていたのが明大柔道部の相田先輩で、この先輩のすすめで、翌26年にふたりそろってあこがれの明大柔道部のお世話をになつたわけです。

当時の明大柔道部はいちはやく他校にさきがけて部を再建したということもありましたが、とにかく鬼のような強い先輩がゴロゴロしており、とくに金子・神田の四年生、曾根大野・門屋・末木らの三年生の印象が強く、いまお会いしても恐ろしいままだに頭があがらないのではないかと思っております。（そんな中で卒業後もいろいろとお世話になつた曾

根先輩と末木先輩がすでに故人になられたことは本当に残念だと思います。あらためてご冥福をお祈りいたします。先輩だけでなく同じ一年生にも全国から猛者が集まつており、前述の両渡辺君のほかに山尾・岩崎・河辺君などがおり、彼らが戦後の明大第一期黄金時代の中心選手として活躍したことは、すでに皆さんご承知のとおりです。

とにかくこういったツワモノの中で、やや虚弱体質の私などは連日タタミを背中に背負いぱなしとまことに情けない日々でした。地下道場に降りる階段が「地獄への階段」と思えたこともしばしば。あるときは曾根先輩に「お前の得意技はナンだ！」といわれ、思わず「ハイ！ 受け身です」と答え、一同大笑いしたこともあります。

その後、受け身のやり過ぎ？ からか体調をこわし、医者からしばらく過激な運動を控えるようにと宣告され、残念ながら想い出の地下道場とは疎遠になってしまいました。

あれから30有余年たつた現在、中日新聞東京本社の総務部のチーフとしてささやかに社業の発展に寄与するかたわら、日本空手協会

の師範として正しい武道の普及のために広く海外を飛びまわっている元気な自分自身を見て、昔のことがまつたくウソのように思えてなりません。同時に現在の私のすべての基礎が、短かつたとはいえ私の人生に強烈な印象を与えてくれた明大柔道部での生活にあるよう気がしてなりません。

伝統ある明大柔道部の一員として過せたことを一生の誇りとして、そこで学んだ多くの教訓を「心の糧」としてこれから的人生を大いにがんばりたいと思います。

私の親しい選手の後輩であり拓大師範の津山君がいつも言っているのを想い出します。「空手の常勝がつねに拓大空手部であるように、やっぱり柔道は明大柔道部でなければいけません！」。どうか後輩諸君、大いにがんばってください。

昭和二十九年度

中日新聞東京本社総務部長

紹介

相沢 郁夫

先生、先輩の皆様に於かれましてはいかがお過しでしょうか。この機会に日頃の御無沙

汰をお詫びいたします。

五十一年に卒業し、宮城県警察官を拝命して早いもので八年目をむかえようとしております。現在、まだ二十九歳の若輩ではあります。が、今日まで種々な人々との出会いを経て、これまでやつてまいりました。特に私の人生の糧である柔道を通して知りあつた人、中でも明大柔道部時代の、先輩、同輩、後輩との交りは、私にとって最も大切なものです。であり、生涯忘ることは出来ません。一つの目的のもとに同じ釜のめしをくい、同じ道場で汗と涙を流した者だけが解る幸せであります。教えられた柔道部の伝統と種々な友人との部生活は、田舎出で一人っ子の私を大いに鍛えてくれました。この経験は、今警察官を職業として選んだ私にとって、強い支えになつております。これからもより種々の人と出会い、その知己を得たり、もまれたりしながら生きしていく訳ですが、どんな時にも柔道部出身の誇りを失うことなく、これから

の人生にたち向つていくつもりです。

終りに近況を簡単にお知らせします。県警は五十九年四月から佐藤幸二先輩を師範に迎え、益々張切つて練習にはげんでおります。私自身も現役選手として、県内の各種の設合に出場しておりますが、恥しながら、とりたてて御披露できる成績はあげおりません。今後はより一層の稽古にはげみ、汚名をばんかいするつもりです。変らぬ御指導をお願いいたします。

又、警察官としても立派に任務をはたせる様勉強中です。どうか仙台にお出向きの折には御連絡下さい。

昭和五十一年度

宮城県警

明大柔道部の思い出

佐々木 充行

私のとて東京は修学旅行以来二度目であった。やっと小川校舎まで辿り着き五階まで昇ると、道場から「エイ」「ヤッ」と大きな声が聞えてきて入るのに少々躊躇したが、思い切つて玄間を潜つた。マネージャーの大村先輩が初めて出てこられ、それから葉山先生に

人の人生にたち向つていくつもりです。

この言葉は二十年を過ぎた今でも脳裏に焼き着いています。

四国徳島の田舎高校から明治大学柔道部に憧がれて、たつた一人で大きいトランクを提げ十八時間費いやして右も左もわからない東京へやってきたのです。何の伝手もなく、入学出来たら柔道部へ入りたい、その一念でした。新人テストがあつたそうですが、先輩のいない私にとっては知るよしもありません。

お逢いしました。「私が監督の葉山デシュー」とこの言葉は二十年を過ぎた今でも脳裏に焼き着いています。

四国徳島の田舎高校から明治大学柔道部に憧がれて、たつた一人で大きいトランクを提げ十八時間費いやして右も左もわからない東京へやってきたのです。何の伝手もなく、入学出来たら柔道部へ入りたい、その一念でした。新人テストがあつたそうですが、先輩のいない私にとっては知るよしもありません。

簡単な面接を受け、次は練習をやらされました。名前は忘れましたが、二人の部員と練習をさせられ、その人とはまずまず互角に戦いましたが、次の部員と練習をさせられた時にはびっくりしました。チギッテは投げチギッテは投げとはこのことでした。入部して知つたのですがその部員は先輩の田中章雄さんでした。

もう一つびっくりしたことは、部員の人数が百三十人もいることと、坂口、山本両先輩をはじめ身長百八十センチを超える人達が三十人位いたことでした。

憧れて入つた柔道部でありましたが、合宿所では毎朝六時から二時間、ランニング、兎飛、腕立、ちょっと怠けようならば青竹で頭、

背中どこでも容赦なく打たれるのである。

道場でも同じであった。投げられると先輩達の「カスツ」と言う罵声と共に青竹が容赦なく振落される。まるで二等兵物語と言う映画で見たと同じ場面だなあと思ったものです。

一年生の自由時間は、朝の食事が終った時から午後の二時半まで、すなわち授業を受け時間と、夜の九時から十時、銭湯へ行く時間である。一年生は道場の風呂は入れないのである。夜の一時間が私達一年生にとっては唯一の楽しみであったが、その時間を脅やかす先輩がいたのです。

合宿所では合宿所の時計が標準であり、銭湯に行く時は必ずその時刻に自分の時計をあわすのですが！ その時も確かに自分の時計を合宿所時間にあわして銭湯行き、五分前に帰所したのですが、その時はすでに合宿所の時計は十時を五分程過ぎてしまつて、先輩は玄関で私達を待ち受けていたのです。私達が五分遅刻をしたと言うことでまず二十分の正座。私達が合宿所の時計がおかしいと文句を言うと「能書」を言つたということですらに三十分の延長。計一時間の正座をさせられましたが、今をもって不思議なことで、これまでいたものでした。

が二年生の時は全日本学生大会四連覇という輝かしい記録を成しとげた時代でした。そんな時代に入学出来、四年間部生活が出来たことを私自身大いに誇りに思つております。誰れ一人として先輩がいなくて淋しい思いをしたのですが、四年生の時やつとレギュラーにさせて戴いた時は、今までの辛かったことはすべて忘れてしまい、うれし涙があふれてきたものでした。

鞏固な意志、如何なる境遇に在つてもそれを教えて戴いたのは明大の柔道部でした。この教えは実社会に入つて大いに役立ちました。十年前後に曾根先輩にお逢いしました。陽光の折柄柔道部の諸兄には、益々私の職業について説明しますと「ハッハッハッ」と大声で笑われたのですが、顔、身体に似合ず女性の下着（パンティ）の製造販売をしており、年商にして二十億円、数量にして九百六十万枚全国に販売しております。もし先輩、後輩の方で下着に興味があつたりお悩みの方がおられましたら御一報下さい。

色々つまらないことを書きましたが、私にとって明大柔道部は生涯忘ることのできなかい青春そのもの、私の人生の中で一番尊くて

は先輩の「ワナ」であったような気がしてなりません。

正座の話が出ましたので一番印象に残つていてしかも一番長かつた正座の話を書くことにしましよう。一年生最後の合宿、富山での出来事です。十五日間の合宿最後の日に富山、石川、福井三県代表と我柔道部の対抗戦が行なわれ、明大柔道部は十一勝十一引分けに終りました。当時の明大柔道部には引分けは負けたと同じだと言う不文律があり、言いえればそれだけ誇りを持っていたと言うことです。ですから全勝をしなかつたと言うことで慣例になつて合宿最後の夜は門限なしと言つことも自由時間一時間と制限されたのですが、私達一年生はつらくて長い合宿生活をおえた解放感にひたりながら街へ出向いたのです。酒を飲むにつれ気が大きくなり、誰れとはなしに門限なんか無視しようじやないかと言う結論になり、一時間少々遅れて宿に帰つた。ところが先輩達は全員帰られていて門限を破つたのは私達一年生だけでした。

一年生の分際で誠にしからんと言うこと

で先輩達も怒り心頭に達し、二十センチも雪が積つている中庭でパンツ一枚の姿で三十

分間正座をさせられ、最初の十分位は足の感

覚もわかつていなかったのですが、段々と足の先から感覚がわからなくなり、最後になるとまったく感覚がなくなり、小便をもらしているのをわからなくなりました。三十分が過ぎ、これでもう終りかなと思いつきや、後、宿舎の中で二年生の先輩の前で三十分、三年生の前で三十分。全先輩の前で三十分やらされました。計二時間の正座が終つた時は先輩達の愛が行なわれ、明大柔道部は十一勝十一引分けに終りました。当時の明大柔道部には引分けは負けたと同じだと言う不文律があり、言いえればそれだけ誇りを持っていたと言つことです。ですから全勝をしなかつたと言うことで慣例になつて合宿最後の夜は門限なしと言つことも自由時間一時間と制限されたのですが、私達一年生はつらくて長い合宿生活をおえた解放感にひたりながら街へ出向いたのです。酒を飲むにつれ気が大きくなり、誰れとはなしに門限なんか無視しようじやないかと言つ結論になり、一時間少々遅れて宿に帰つた。ところが先輩達は全員帰られていて門限を破つたのは私達一年生だけでした。

一年生の分際で誠にしからんと言うことで先輩達も怒り心頭に達し、二十センチも雪が積つている中庭でパンツ一枚の姿で三十分間正座をさせられ、最初の十分位は足の感覚もわかつていなかったのですが、段々と足の先から感覚がわからなくなり、最後になるとまったく感覚がなくなり、小便をもらしているのをわからなくなりました。三十分が過ぎ、これでもう終りかなと思いつきや、後、宿舎の中で二年生の先輩の前で三十分、三年生の前で三十分。全先輩の前で三十分やらされました。計二時間の正座が終つた時は先輩達の愛が行なわれ、明大柔道部は十一勝十一引分けに終りました。当時の明大柔道部には引分けは負けたと同じだと言う不文律があり、言いえればそれだけ誇りを持っていたと言つことです。ですから全勝をしなかつたと言うことで慣例になつて合宿最後の夜は門限なしと言つことも自由時間一時間と制限されたのですが、私達一年生はつらくて長い合宿生活をおえた解放感にひたりながら街へ出向いたのです。酒を飲むにつれ気が大きくなり、誰れとはなしに門限なんか無視しようじやないかと言つ結論になり、一時間少々遅れて宿に帰つた。ところが先輩達は全員帰られていて門限を破つたのは私達一年生だけでした。

一年生の分際で誠にしからんと言つことで先輩達も怒り心頭に達し、二十センチも雪が積つている中庭でパンツ一枚の姿で三十分間正座をさせられ、最初の十分位は足の感覚もわかつていなかったのですが、段々と足の先から感覚がわからなくなり、最後になるとまったく感覚がなくなり、小便をもらしているのをわからなくなりました。三十分が過ぎ、これでもう終りかなと思いつきや、後、宿舎の中で二年生の先輩の前で三十分、三年生の前で三十分。全先輩の前で三十分やらされました。計二時間の正座が終つた時は先輩達の愛が行なわれ、明大柔道部は十一勝十一引分けに終りました。当時の明大柔道部には引分けは負けたと同じだと言う不文律があり、言いえればそれだけ誇りを持っていたと言つことです。ですから全勝をしなかつたと言うことで慣例になつて合宿最後の夜は門限なしと言つことも自由時間一時間と制限されたのですが、私達一年生はつらくて長い合宿生活をおえた解放感にひたりながら街へ出向いたのです。酒を飲むにつれ気が大きくなり、誰れとはなしに門限なんか無視しようじやないかと言つ結論になり、一時間少々遅れて宿に帰つた。ところが先輩達は全員帰られていて門限を破つたのは私達一年生だけでした。

一年生の分際で誠にしからんと言つことで先輩達も怒り心頭に達し、二十センチも雪が積つている中庭でパンツ一枚の姿で三十分間正座をさせられ、最初の十分位は足の感覚もわかつていなかったのですが、段々と足の先から感覚がわからなくなり、最後になるとまったく感覚がなくなり、小便をもらしているのをわからなくなりました。三十分が過ぎ、これでもう終りかなと思いつきや、後、宿舎の中で二年生の先輩の前で三十分、三年生の前で三十分。全先輩の前で三十分やらされました。計二時間の正座が終つた時は先輩達の愛が行なわれ、明大柔道部は十一勝十一引分けに終りました。当時の明大柔道部には引分けは負けたと同じだと言う不文律があり、言いえればそれだけ誇りを持っていたと言つことです。ですから全勝をしなかつたと言うことで慣例になつて合宿最後の夜は門限なしと言つことも自由時間一時間と制限されたのですが、私達一年生はつらくて長い合宿生活をおえた解放感にひたりながら街へ出向いたのです。酒を飲むにつれ気が大きくなり、誰れとはなしに門限なんか無視しようじやないかと言つ結論になり、一時間少々遅れて宿に帰つた。ところが先輩達は全員帰られていて門限を破つたのは私達一年生だけでした。

一年生の分際で誠にしからんと言つことで先輩達も怒り心頭に達し、二十センチも雪が積つている中庭でパンツ一枚の姿で三十分間正座をさせられ、最初の十分位は足の感覚もわかつていなかったのですが、段々と足の先から感覚がわからなくなり、最後になるとまったく感覚がなくなり、小便をもらしているのをわからなくなりました。三十分が過ぎ、これでもう終りかなと思いつきや、後、宿舎の中で二年生の先輩の前で三十分、三年生の前で三十分。全先輩の前で三十分やらされました。計二時間の正座が終つた時は先輩達の愛が行なわれ、明大柔道部は十一勝十一引分けに終りました。当時の明大柔道部には引分けは負けたと同じだと言う不文律があり、言いえればそれだけ誇りを持っていたと言つことです。ですから全勝をしなかつたと言うことで慣例になつて合宿最後の夜は門限なしと言つことも自由時間一時間と制限されたのですが、私達一年生はつらくて長い合宿生活をおえた解放感にひたりながら街へ出向いたのです。酒を飲むにつれ気が大きくなり、誰れとはなしに門限なんか無視しようじやないかと言つ結論になり、一時間少々遅れて宿に帰つた。ところが先輩達は全員帰られていて門限を破つたのは私達一年生だけでした。

一年生の分際で誠にしからんと言つことで先輩達も怒り心頭に達し、二十センチも雪が積つている中庭でパンツ一枚の姿で三十分間正座をさせられ、最初の十分位は足の感覚もわかつていなかったのですが、段々と足の先から感覚がわからなくなり、最後になるとまったく感覚がなくなり、小便をもらしているのをわからなくなりました。三十分が過ぎ、これでもう終りかなと思いつきや、後、宿舎の中で二年生の先輩の前で三十分、三年生の前で三十分。全先輩の前で三十分やらされました。計二時間の正座が終つた時は先輩達の愛が行なわれ、明大柔道部は十一勝十一引分けに終りました。当時の明大柔道部には引分けは負けたと同じだと言う不文律があり、言いえればそれだけ誇りを持っていたと言つことです。ですから全勝をしなかつたと言うことで慣例になつて合宿最後の夜は門限なしと言つことも自由時間一時間と制限されたのですが、私達一年生はつらくて長い合宿生活をおえた解放感にひたりながら街へ出向いたのです。酒を飲むにつれ気が大きくなり、誰れとはなしに門限なんか無視しようじやないかと言つ結論になり、一時間少々遅れて宿に帰つた。ところが先輩達は全員帰られていて門限を破つたのは私達一年生だけでした。

一年生の分際で誠にしからんと言つことで先輩達も怒り心頭に達し、二十センチも雪が積つている中庭でパンツ一枚の姿で三十分間正座をさせられ、最初の十分位は足の感覚もわかつていなかったのですが、段々と足の先から感覚がわからなくなり、最後になるとまったく感覚がなくなり、小便をもらしているのをわからなくなりました。三十分が過ぎ、これでもう終りかなと思いつきや、後、宿舎の中で二年生の先輩の前で三十分、三年生の前で三十分。全先輩の前で三十分やらされました。計二時間の正座が終つた時は先輩達の愛が行なわれ、明大柔道部は十一勝十一引分けに終りました。当時の明大柔道部には引分けは負けたと同じだと言う不文律があり、言いえればそれだけ誇りを持っていたと言つことです。ですから全勝をしなかつたと言うことで慣例になつて合宿最後の夜は門限なしと言つことも自由時間一時間と制限されたのですが、私達一年生はつらくて長い合宿生活をおえた解放感にひたりながら街へ出向いたのです。酒を飲むにつれ気が大きくなり、誰れとはなしに門限なんか無視しようじやないかと言つ結論になり、一時間少々遅れて宿に帰つた。ところが先輩達は全員帰られていて門限を破つたのは私達一年生だけでした。

一年生の分際で誠にしからんと言つことで先輩達も怒り心頭に達し、二十センチも雪が積つている中庭でパンツ一枚の姿で三十分間正座をさせられ、最初の十分位は足の感覚もわかつていなかったのですが、段々と足の先から感覚がわからなくなり、最後になるとまったく感覚がなくなり、小便をもらしているのをわからなくなりました。三十分が過ぎ、これでもう終りかなと思いつきや、後、宿舎の中で二年生の先輩の前で三十分、三年生の前で三十分。全先輩の前で三十分やらされました。計二時間の正座が終つた時は先輩達の愛が行なわれ、明大柔道部は十一勝十一引分けに終りました。当時の明大柔道部には引分けは負けたと同じだと言う不文律があり、言いえればそれだけ誇りを持っていたと言つことです。ですから全勝をしなかつたと言うことで慣例になつて合宿最後の夜は門限なしと言つことも自由時間一時間と制限されたのですが、私達一年生はつらくて長い合宿生活をおえた解放感にひたりながら街へ出向いたのです。酒を飲むにつれ気が大きくなり、誰れとはなしに門限なんか無視しようじやないかと言つ結論になり、一時間少々遅れて宿に帰つた。ところが先輩達は全員帰られていて門限を破つたのは私達一年生だけでした。

一年生の分際で誠にしからんと言つことで先輩達も怒り心頭に達し、二十センチも雪が積つている中庭でパンツ一枚の姿で三十分間正座をさせられ、最初の十分位は足の感覚もわかつていなかったのですが、段々と足の先から感覚がわからなくなり、最後となりました。

私は昭和十八年、商学部三年の時学徒出陣にて戦車兵として入隊、初年兵としての辛苦をたっぷりと味わい、満州、四平の戦車学校を経て、北支の戦線に参加、戦車隊将校のはしきとして河南省で作戦に従事、戦後二年目に復員して参りました。その後しばらく柔道とともに縁が切れ居りました。四十年に麻布の道場で稽古を始めましたが、間もなく東京から山形に移りました。十年程前、山形市柔道連盟の常任理事を仰付られて少年部の指導に当つて居りましたが、昨年体調を崩しております。

私は昭和十五年、明大予科入学の頃は、姿先輩小宮、渡辺、黒木、山田、坂本（貞）、斎藤（雅）、久米、田淵等の諸兄の錚々たる顔触れで、五段が六名、四段が十数名、三段は三十名近く居り、他校では見られない陣容だったと思います。私と同時期に入学したのは、予科では大泊中学から島正児、大連二中から坂本義孝、函館から小野俊男、甲府から長田昇等で田部富蔵はすでに入学しておりました。専門部には千葉の山口吉輝、広島の川口一郎等の諸兄が居たと思います。一年後に九州の吉永富義君、樺太から細井君と九州出の内股の名手倉原君が拓大から編入して来た事を記

往事のことなど

遠 藤 一

私は昭和十八年、商学部三年の時学徒出陣にて戦車兵として入隊、初年兵としての辛苦をたっぷりと味わい、満州、四平の戦車学校を経て、北支の戦線に参加、戦車隊将校のはしきとして河南省で作戦に従事、戦後二年目に復員して参りました。その後しばらく柔道とともに縁が切れ居りました。四十年に麻布の道場で稽古を始めましたが、間もなく東京から山形に移りました。十年程前、山形市柔道連盟の常任理事を仰付られて少年部の指導に当つて居りましたが、昨年体調を崩しております。

私は昭和十五年、明大予科入学の頃は、姿先輩

小宮、渡辺、黒木、山田、坂本（貞）、斎藤

（雅）、久米、田淵等の諸兄の錚々たる顔触れ

で、五段が六名、四段が十数名、三段は三十

名近く居り、他校では見られない陣容だった

と思います。私と同时期に入学したのは、予

科では大泊中学から島正児、大連二中から坂

本義孝、函館から小野俊男、甲府から長田昇

等で田部富蔵はすでに入学しておりました。

専門部には千葉の山口吉輝、広島の川口一郎

等の諸兄が居たと思います。一年後に九州の吉永富義君、樺太から細井君と九州出の内股

憶しています。又、石橋弥一郎君が入って来たのはこの年か次の年だったと思います。

葉山先生からは毎年賀状を頂き恐縮しておいましたが、お亡くなりになり本当に残念なことです。

三船師範の御宅に伺って先生手作りの野菜等で食事を頂戴したのも、遠く懐かしい想い出です。現在と比べるとまことにつらくびしい学生時代ではありましたが、いつの時代も青春とはすばらしいものであります。

どうか諸兄も若さ溢れるきびしい稽古にはげまれ、伝統の技の冴えに一層磨きをかけて下さい。そして、眞の柔道の精神と技を後輩に伝えて頂きたいものと思います。成果を上げるには近道がありません。一にも二にも、内容ある稽古の量をこなしていくことにつきます。

諸兄の尚一層の御健斗を祈る次第です。

昭和十九年度

山形市 在

昔々、そして今

南 日 和 郎

諸先生、諸先輩、お元気で御活躍のことと

御喜び申し上げます。
富山は今（四月二十四日現在）桜花満開。人々はつらかった今年の冬の苦労を忘れて、麗しい春の一刻を堪能しております。今冬の豪雪には雪国育ちの私もさすがに疲れました。毎日、雪また雪、出勤前一時間、帰宅後二時間、日曜日はほぼ一日中、雪との戦争を降りました。一m、二m、三mと、降るわ降るわで、十年前に建てた我が家は今にも潰れそうになり、三回も除雪人夫（都内にはない仕事でしょう）をたのんで屋根の雪降ろしをしました。私も当然参加する訳ですが、稽古で培かった体力がこんな時に生きるのは……。

さて、昭和四十年からの学生生活、都会生活を、今富山の山の中で顧ると、あの一時、一時が、めぐる走馬灯のごとく懐かしく脳裏をよぎります。都會にはまったく縁のなかつた私は、上京して東京の人、人、人に先ず驚き、次いでこれから四年間やっていくどういう明大柔道部のきびしい練習に驚きました。先輩達が皆強いのはもちろん、一諸に入つて來た同期生にも弱いのがおらず、田舎出の私にとって、ただただ驚き慌てているうちに一年目が過ぎました。それから三年、今思うと

中途で退却することなく、よく四年間続いたものです。まがりなりにも無事部生活を終了出来たのは、柔道の力は言うに及ばず、精神的にも、ヤワだった私を何かと支えてくれた同期生諸兄の友情あっての事で、それを思うと今も感謝の気持で一ぱいです。「一芸に秀でるものは云々」という言葉がありますが、すばらしい先生、先輩、同輩に恵まれたあのころがありました。きびしい稽古や団体生活で、辛い思いもし、悩みもしましたが、学んだのは柔道の技だけではなく、自分の人生感や世間にたいする価値感が、この時期を境に確立した様に思います。

先般、全国各地の同期が集まり楽しい会を催したのですが、その時こんなやりとりがありました。「捨て稽古でトバされている時、オレはどうか試合でも今おれを投げている様に鮮かな一本をとってくれ、と念じながら投げられていた」「いや、オレはこの次の試合では絶対投げる方にまわるぞ！」と考えながらやつた」「オレは投げられるのが苦手だし、第一投げられっぱなしでももしろくないので、出来るだけ出ないですむ様に気をつかつたものだ」等々、仲々含蓄にとんだ会話かと思ひます。

さて、全国のOBの誰もが待ち望んでいることは、新聞にテレビに「明大優勝！」「明治復活！」のタイトルを見ることでしょう。学生諸君！ その違からんことを祈っている。そのため、どうかさわやかな汗を、さわやかな涙を流して頑張ってくれ！

現在私の家庭は、母、妻と息子三人、娘一人の七名が恙無くやっています。又、社会人としてもどんな時にも気力を失することなく元気に日常の業務にとり組んでいます。気力のさえない時には大きな声で、校歌や部歌を歌つて自分に気合を入れています。こうして豊かな気持で毎日がおくれるのも、明大道場での鞭撻があつたればこそと述懐している昨日です。

それでは会員諸兄が益々御健勝で活躍されることを念じて、失礼いたします。富山にお出かけの時には是非お立ち寄り下さい。

昭和四十三年度

郵便局長 富山市在住

電話

柔道部道場 ○三一九五四五八九
八幡山合宿 ○三一三〇四五九〇三
目黒合宿 ○三一七一二一八六六一

FASHION SHORTS PILOT HOUSE

株式会社 **アリス**

代表取締役 佐々木充行
(42年度卒)

本社 〒779-36 徳島県美馬郡脇町大字脇町802番地
TEL (08835) 2-1138番(代)
大阪営業所 〒541 大阪市東区安土町1丁目22-1
TEL (06) 264-6285番(直通)(代)

な
が
い

永井佑治(昭和三三年度)

料亭メンバーズ

サンバーグ
の冷凍食品

- JASが認定する高品質。
- 衛生検査100点・完璧な衛生管理体制。
- おいしさ便利さ、たちまち人気もの。

(旭化成グループ)

サンバーグ株式会社

茨城工場 〒306-04 茨城県猿島郡境町大字西東田字海道向1436-1
TEL 02808712531

味乃一番

中国料理

平田博俊(二十九年度)

本店

浅草雷門通り

雷門一丁目五〇三
八四一一七五四六
二子玉川高島屋裏
七〇〇一九九〇

道場往来



ブラジル学柔連OB会



向って右から：安達(中大OB), 神永, 岡野(中大OB), 小林
石井(早大OB)

明大スピリット PART 2

今号には坂本聰正君のイタリア紀行がついているが、四週間に亘る外国での生活でさぞおつかれだったろうと思ひきや、彼は一八時間の長旅をおえて到着した成田空港がら明大道場に直行。すぐ稽古着に着がえて、柔軟体操、受け身、立技、寝技とたて続けの猛練習。本人は「イヤ、ナニ 時差ボケ予防のためにす」といつていたが、これぞまさしく明大スピリット。坂本君、因みに四〇才。

滞在中にイタリア国際大会に出場した日本チームと合流し、トリノ市の大会では、故障した斎藤選手にかわって重量級に出場し、イタリア代表選手に快勝したとのことで、その興奮がまだ続いているのは、一とも思われたが、いずれにしても爽快な話である。学生諸君は彼のこの情熱を何う受けとめるか。唯「元気な先輩だ」と感心しているだけでは見通しが暗いぞ！

新講道館の落成と、講道館創立一〇〇周年記念の祝賀会が、四月二十七日、盛大に開催された。この祝典には海外の柔道家も大勢参加して、柔道の国際化を一段と印象づけていたが、中でもブラジルからは三十名を越す柔道関係者が、この日のために来日し注目を集めた。

ブラジル柔道の歴史は古く、すでに大正年間には日系移住者によってスタートしていたという。以来、歴代の指導者達の努力で着実に発展を遂げ、今日では国技のサッカーに次ぐ競技人口を有している。日系人柔道家の汗と共に歩んできた柔道は、今やブラジル人社会に完全に根付いて、多くの青少年に愛好されている。又技術的にもレベルが高く、パンアメリカン大会（北、中、南米大会）では、いつもブラジル選手が上位を占めているという。近年、日系以外のブラジル人にも優秀な選手がどんどん出て来ているが、日系人の指導的立場は変らず、彼等を中心に組織されるブラジル有段者会が現在の柔道界をリードしているといってよいだろう。この有段者会

の有力メンバーに、かつて学柔連で活躍した若手の一派が大勢いて各地で頑張っている。

昭和三十年代後半にその強力な大外刈で全日本大会や学生の大会で目立つ存在だった岡野修平氏（中大OB）、ミュンヘン五輪、第六回世界大会にブラジル代表として出場、共に三位に入った石井千秋氏（早大OB）等は日本でも著名な選手であるが、学柔連OB会ブラジル支部のメンバーは三〇名に近いそうだ。明大OBではミナス州ベロオリゾンテ市で事業経営のかたわら今も元気で若手を教えている平島征也（三十五年度）と、サンパウロの日本企業に勤務している有賀茂樹（三十五年度）がいるが、他校にくらべると数が少ない。

しかし、ブラジル柔道と明柔の関係は浅くはない。二十数年前、新日本製鉄との提携で

ミナス州に建設されたウジミナス製鉄所に併設されている道場は規模も大きく、ブラジル柔道発展に大きな役割をはたしているが、この運営には当初から故曾根康治、神永昭夫がたずさわっており、又、明大柔道部と関係の深い新日鐵柔道部の関係者が、駐在員として指導にあたっている。須磨周治も二年間この道場で教えたし、一時延期になつたが、鮫島

俊隆もこの春赴任することになつていたときく、又、一九七九年ユニバーシアード大会の監督でリオに滞在した神永、短期指導で各地を回った関勝治、社用でサンパウロに駐在した小林敏邦等が、彼等と交流を持つたいきさつがある。日本から赴く柔道関係者は皆彼等の活動ぶりに感心させられるのだが、やはり、ユニバーシアード大会に選手団長として参加された故早川勝先生（当時学柔連会長）は帰られながら、よくブラジル学連OBの柔道に対する情熱と団結の強さを話題にされていたといふ。

岡野氏等は来日してすぐに早川先生の墓参をし、又、急逝された柔道界の大先輩である永野日商会頭の告別式にも参列した由。当然な事とはいえ、彼等の柔道にたいする真摯な態度には胸をうたれる。

さて、今回の訪日団員のうち、石井氏が明大道場に顔を出して汗を流した。彼は黄金時代といわれた三十九年の明大が唯一敗れた（東京大会）早大チームのメンバーで、現在はサンパウロ市で道場を経営し、日本でもよく知られているカルモーナ選手を始め、多くの優秀選手を育てている。

新人歓迎会を兼ねた姿先生のお祝いが楽しくお開きになつた後、久しぶりに顔を合せたOB達は、それぞれ池袋の街に散つて臨時同期会を開いたらしく。例えば、三十三年度と三十四年度は合同で手頃な飲み屋に集合、焼酎パーティとなつた。中年後期で決して若いとはいえないこのグループなのだが、幸いこの日の体調は全員万全。焼酎五升にビールを

二次会

註 一年生の藤鷹英雄の父君は、二十九年、三十年、と早大チームの大将として活躍した藤鷹（旧姓・川畑）浩一氏（五十五年に他界された。）

合せて、楽しい二時間過ぎた。翌日の選手権大会に出る諏訪君のコーチになつてゐる宮

寝込んでしまつた他は全員元気いっぱい、余力を残して解散した。三三会 神永・甲斐・

小川・作田・小林・稻木・宮下。三四会 渡辺・立花・大橋・谷藤・黒住・小笠原・金丸。

地方の先輩

地方在住の先輩が、道場にヒヨッコリ顔を出す時がある、いいものだ。中には十何年ぶりという人もいる。道場の玄関に入る時、皆

だが、日は皆輝いていた。特にもう柔道から離れてしまつてゐるOB程、学生の稽古を見ている目つきはやさしい。昔を想う目というか、「若き日の自分をオーバーラップするのだろうか。

つい先日は、富山の南日君が久しぶりに顔を出した。篠巻監督と同期の彼は卒業してもう五年余り、道場は何年ぶりのこと。篠巻君のたつての推めにもつて稽古着は着なかつたが、「新聞のスポーツ欄に明大柔道の活字を見るのを待ちこがれている」と部員

にあいさつ、これは地方に住んでいるOBの

だれもが望んでいる気持であろう。

稽古はしなかつたが懐しの風呂に入り、この日、丁度道場で汗を流していた神永氏他数名のOBとつれ立つて第二道場へ。現在、郵便局長の職にある彼、富山ではだいぶ優雅な酒をやつてゐるらしく、ビールから入り、ついで神永カクテル（内容略）道場に来るとわかります）に移つてガブガブやり始めた仲間にド肝を抜かれたらしく「立って呑むと酔いますネ」等と口をすべらし、「サテは局長さんはゼニのかかった酒しか呑んどらんナ」等と

出足を払われ、弁解にこれ努めていたがそのうちに結構なピッチになつて來た。結局「チヨット」等といつて篠巻君と二人で何処かに消えてしまつた。多分座つて呑むところへ行つたのだろう。

朋有り 遠方より來たる
また 楽しからずや

黒潮踊る多彩な海景……
ぜひ男鹿半島へ!!

男鹿グランドホテル

代表取締役 鈴木 実



秋田県男鹿市北浦湯本字中里81
TEL 0185-33-2151 代表

お祝い

ご結婚のお慶びを申上げます

田中和美君（五四年度）、六月三日

工藤欣一氏夫妻の媒酌で、金子英

二氏次女、保子さんと結婚。

東京都高体連柔道部の動きについて

東京都高体連柔道部 東京都柔道連盟

森

幸夫

「高校柔道について」と題材をあたえられましたが、東京都高体連の30年間の流れを前半20年の歴史は資料から、後半部分10年については、自分自身の所蔵を入れて書いてみたいと思います。

私が国学院大学久我山高校に奉職したのが12年前の昭和47年です。当時の東京都高校柔道連盟の加盟校は180校。現在（昭和59年）では270校に急激に増え続け、支部も5から6支部に増えております。ちなみに一回大会が行なわれた昭和27年は31校で開始されています。

大会は、年間に5つ行っています。春季対抗大会兼関東大会予選。都高校総体兼全国大会都予選。学年別大会。新人大会兼全国高校選手権大会都予選。それに各支部の大会です。大会は各支部の予選を行い、8校選んで本大会進出校となり、本大会は48校であらそわれ、試合会場は講道館か国士館大学道場で行つて来ています。本大会で上位の成績を占めるのは、大学付属校とか中学校を併設する私立高校が多く、公立高校は中位のところで頑張っている感がします。

高校間の強弱の変遷もめまぐるしいです。高体連柔道部の発足は昭和27年から始まり、現在、昭和59年。今までに大会は32回に達し30年を越えました。

10年ごとに区切つて大会を展望しますと、

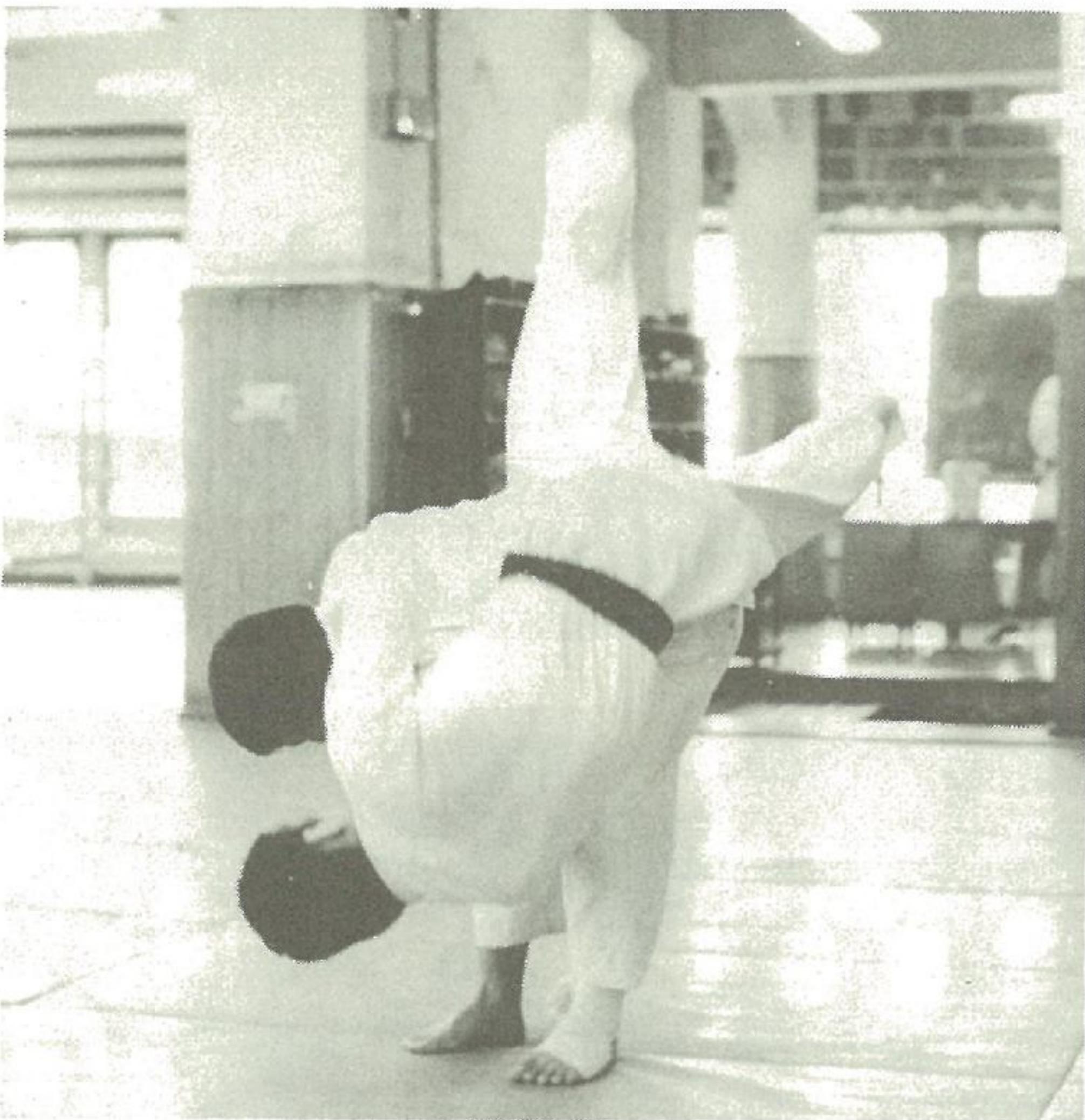
第一回（昭27年）～第十回（昭36年）の高体連初期時代は、都大付属工高、日大二高、早実、中大杉並高、明治高、日大一高と顔を出し、明治大学の付属の明治高校が、四回大会に初優勝、七回大会より明大中野高校の名前が出て来て、七回大会で第三位、十回大会で初優勝に輝いております。

第十一回（昭37年）～第二十回（昭46年）では、早実、明大中野高、日大一、城南、京北、高輪、中大付高、日大二、日本豊山が顔を出し、工藤欣一先生率いる明大中野高校は、十回大会二位。十三回大会三位、十四回大会二位。続く十五回十六回、十七回、十八回、十九回大会まで連続五回優勝し、二十回大会二位との十一回～二十回の大会まで無敵の明大中野高校の感がします。

第二十一回（昭47年）～第三十二回（昭58年）の大会より、私は国学院大学久我山高校に奉職し、柔道部を指導しながら直接目で大会を見てまいりました。二十一回大会昭和47年は、再度明大中野が優勝し、七度目に輝きました。又この年明大中野高校は全国大会でも活躍して三位となり、東京では始めての入賞を果たしました。この間の二十一回大会（昭47年）から二十五回大会（昭51年）までは、明大中野高を筆頭に国士館高、八王子高、日大一高、修徳高が顔を出し、国士館が獨得の試合方法で寝技を多用して浮上。二十二回、二十三回、

広告

後輩に一層の支援を!! 明柔会費納入のお願い



年間 12,000 円

振り込み先

関東地区会員

東海銀行東京営業部
店番号 620 普預 432 326
明柔会関東支部 入江秀明

関東地区以外の会員

三菱銀行鉄鋼ビル支店
店番号 004 普預 4216342
明柔会 吉井敬吉

二十五回と優勝し、明大中野高は二十四回大会優勝、八度目を達成しております。蛇足ですが我が国学院大学久我山高校も、この間三回ベスト8の所まで駒を進めております。

第二十六回(昭52年)～第三十回(昭56年)のころから國士館高校が急速に強力校となり、二十六回、二十七回、二十八回、二十九回と五連続通算九回目の優勝を果し、第二十五回(昭51年)の全国大会に出場して二位。第二十六回(昭52年)。第二十七回全国大会には連続優勝しております。この時の中心選手は國士館の日蔭、斎藤選手として成長しています。明大中野高は第二十六回、二十七回、二十八回と二位で涙をのんでいます。この下に日大一高、修徳高、安田が顔を出しており、第三十回大会より、私立足立、世田谷高が顔を出して来ています。

第三十一回(昭57年)～第三十二回(昭58年)の二年間は、國士館高、世田谷高で決勝を争い、三十一回、三十二回も國士館高が優勝。二位が世田谷高校です。三位には明大中野高と国学院大学久我山高校が入り頑張りました。今後、東京は國士館高、世田谷高を中心明大中野、私中立、工学院、大東一、正則学園、日大一高の伯仲する技量の試合が熱気を帶びてくるのではないかと思います。

関東大会でも、団体、個人戦でも東京が上位に進出し優勢のようです。東京大会の覇者が全国をも制するようになるのではないかと思います。

最後に、高等学校における入試も年々大学と同様にむずかしくなって来ております。将来、必ず役に立つ柔道を指導ではないかと思います。

二十五回と優勝し、明大中野高は二十四回大会優勝、八度目を達成しております。蛇足ですが我が国学院大学久我山高校も、この間三回ベスト8の所まで駒を進めております。

第二十六回(昭52年)～第三十回(昭56年)のころから國士館高校が急速に強力校となり、二十六回、二十七回、二十八回、二十九回と五連続通算九回目の優勝を果し、第二十五回(昭51年)の全国大会に出場して二位。第二十六回(昭52年)。第二十七回全国大会には連続優勝しております。この時の中心選手は國士館の日蔭、斎藤選手として成長しています。明大中野高は第二十六回、二十七回、二十八回と二位で涙をのんでいます。この下に日大一高、修徳高、安田が顔を出しており、第三十回大会より、私立足立、世田谷高が顔を出して来ています。

第三十一回(昭57年)～第三十二回(昭58年)の二年間は、國士館高、世田谷高で決勝を争い、三十一回、三十二回も國士館高が優勝。二位が世田谷高校です。三位には明大中野高と国学院大学久我山高校が入り頑張りました。今後、東京は國士館高、世田谷高を中心明大中野、私中立、工学院、大東一、正則学園、日大一高の伯仲する技量の試合が熱気を帶びてくるのではないかと思います。

関東大会でも、団体、個人戦でも東京が上位に進出し優勢のようです。東京大会の覇者が全国をも制するようになるのではないかと思います。

最後に、高等学校における入試も年々大学と同様にむずかしくなって来ております。将来、必ず役に立つ柔道を指導ではないかと思います。

しても、クラブ活動と大学進学のための勉強の両立について、15才～16才の子供達には意味がわかりません。その子供の父母にとつても社会の構造が有名校にかたよっている日本の現状では、親の気持として子供の応援が出来にくい環境にひきずられていってしまいます。従つて、意志のない智力偏重の子供が出来上り、理屈っぽい子供が生まれると同時に、あきやすく自分自身の能力を自分で判断して自己を大きくしようとしない子供が増えているのではないかと思われます。

教員生活12年目を迎える私ですが、自分自身の指導方法に迷う事がおおいにあります。明大柔道部で鍛えた柔道精神を生かし頑張り、後継者を育てていこうと思っております。

昭和四十三年度卒 国学院大学久我山高校勤務

若山石油(株)

代表取締役社長

藤井洋二

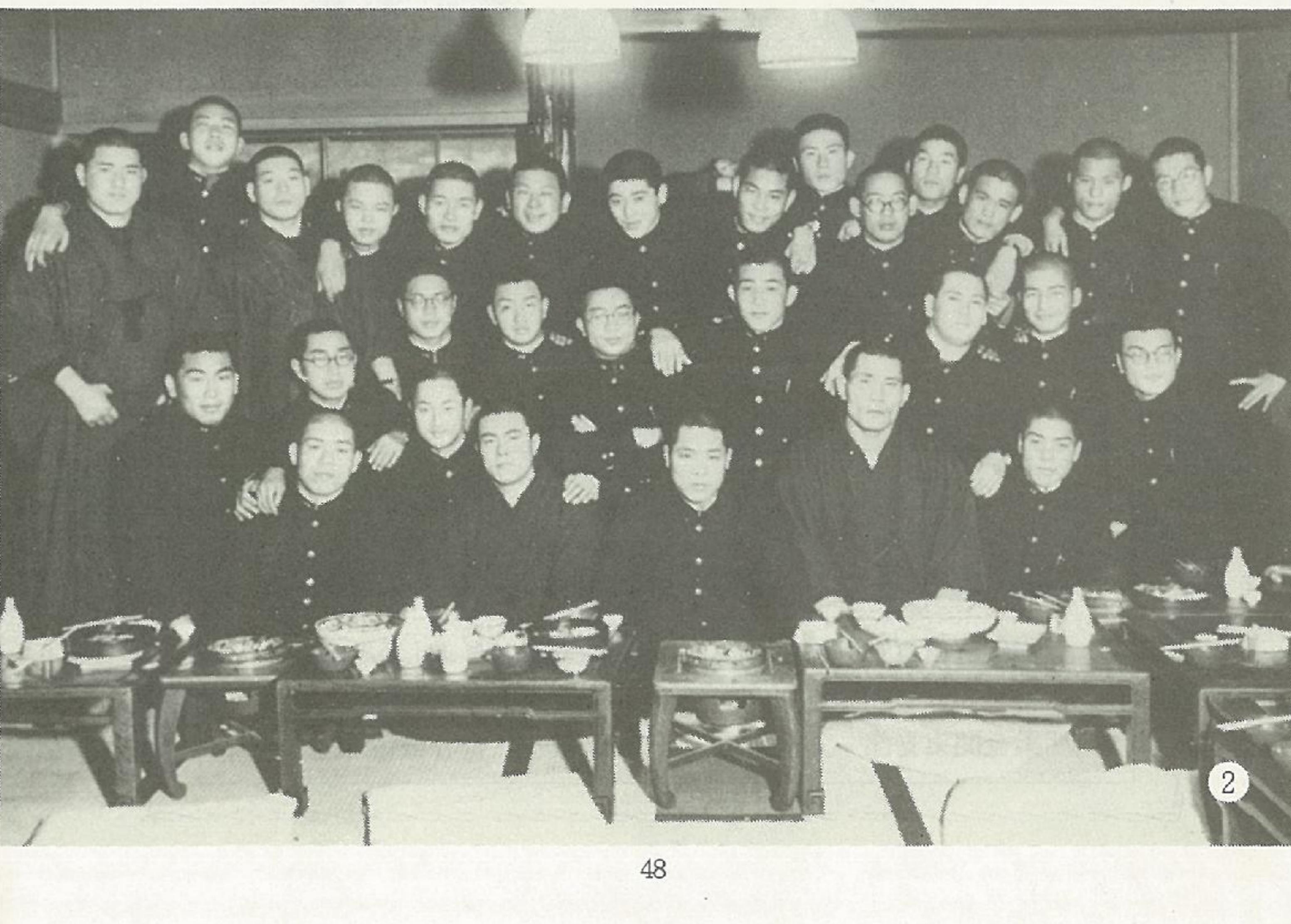
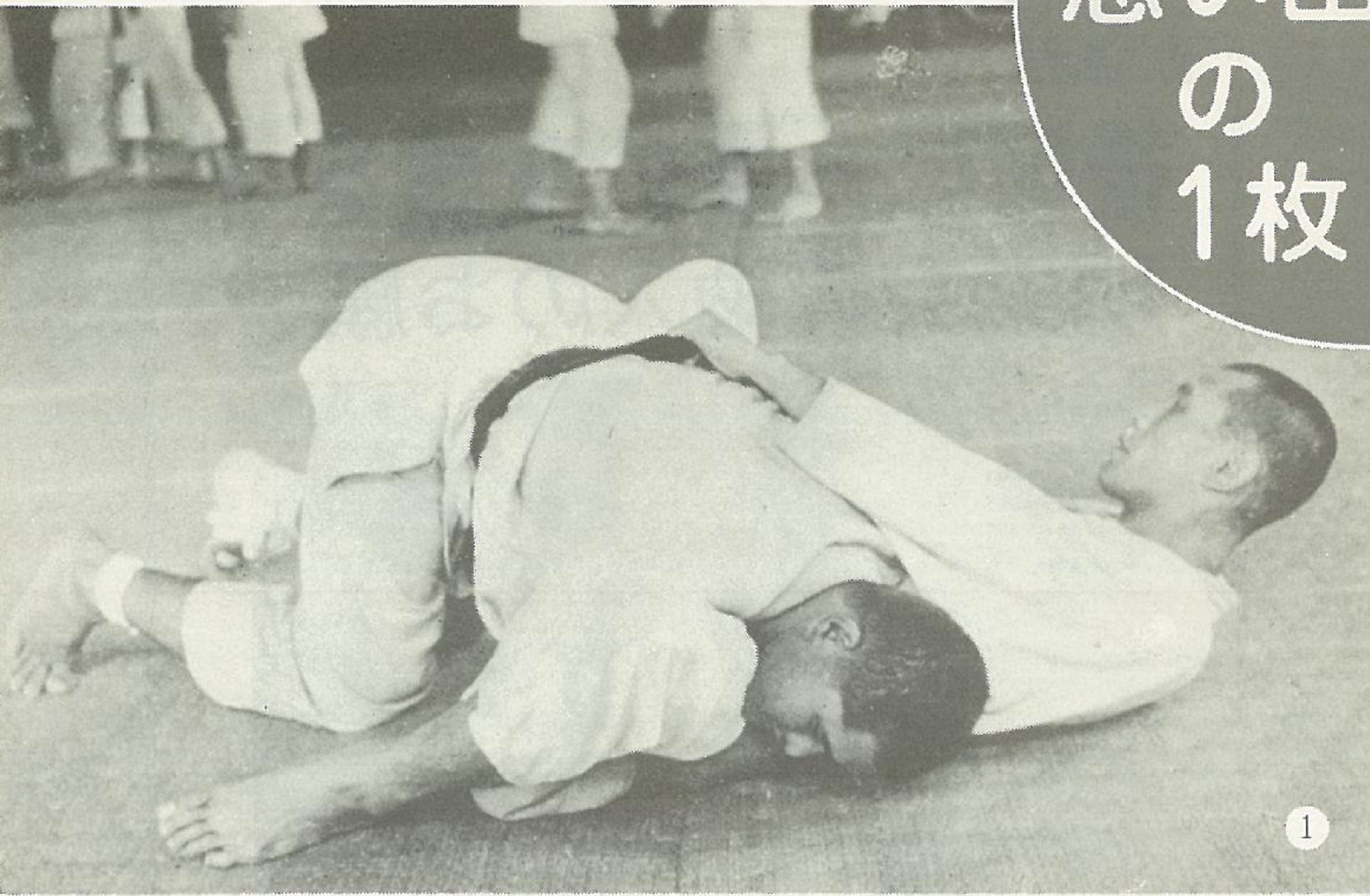
(32年度卒)

〒746 山口県新南陽市富田4142番地
TEL 0834-62-3176

思い出の一枚



- ① 右・葉山師範と左・田部重雄（昭和15年於予科道場）
 ② 前列左から坂本義孝、○○○○、島田、○○○○、伊藤正雄、葉山師範、
 稲富弘、○○○○、中列左から○○○○、大日向、遠藤一、○○○○、
 小野俊男、村上、○○○○、後列左から田部、○○○○、島、○○○○、
 ○○○○、網屋、長田、合田、○○○○、高橋、村田、寺尾、○○○○、
 ○○○○（昭和16年予科柔道部）
 ③ 前列左から故稻富、故島田、後列左から村上、故久米、伊藤、故斎藤、
 （昭和18年頃）
 ④ 前列左から佐々木、宿舎のおばさん、娘さん、平田、後列左から 石岡、
 山本、遠田（昭和39年春 富山遠征）文、四七P 柔道部の思い出



ゆまぐみ記

鹿児島県の巻

鹿児島を、『山河うるわしく人貧し』といふ。銀粉をまいた様な空、オゾンに満ちた空氣、冷く澄んだ川のせせらぎ、東、西、南の三面を黒潮に囲まれた薩摩、大隈の緑の国土。ここに貧しさがあるとすれば、それはものが成り豊けき国の貧しさだろう。日本歴史に現われた薩摩人のエネルギーとこの自然環境との関わりを考えると興味がつきない。



朝田 紀明



法亢 保晴

この地に産した我が明柔の男達にも、山襞の民の素朴さと、薩摩隼人の迫力を合せ持つた快男子が多く、出身者の数の割には印象的な存在の多い地域の一つである。鹿児島からは十余名が明柔の門をくぐっているが、現在活躍している最古参は、法亢保晴である。法亢は、鹿児島市の出身、旧制鹿児島中学から明大に進み、昭和一四年卒、その後満州に渡り満州国武道会の教師として活躍した。戦後、学校柔道の復活にともない鹿児島大学柔道部の師範となり、先年同大学教育学部教授を最後に退官した。又昭和四二年から鹿児島県柔道協会の理事長の要職にある。

戦後、しばらく鹿児島出身の部員がとだえたが、三〇年度、重信安泰（鹿児島工高 鹿児島市）、三一年度の高村秀翁（旧姓松元 甲南高、鹿児島市）が新制大学になってからの一、二号として記録されている。あまり大きくなかったが、ガッシリとした体軀の重信は、むかつく柔道で、左の跳腰、体落を

得意とした。彼の攻めの稽古は色黒の風貌と合俟つて、いかにも薩摩ッポの雰囲気があふれていた。柔道のタイプに風土性はあるまいが、明柔の鹿児島出身者に限っていえば、それぞれにどこか共通した動きがある様に思えてならない。それは？ といわれて具体的に指適は出来ないが、鹿児島の柔道には、「一の太刀を疑わず、二の太刀は負け」を極意とした薩摩藩の剣法「示現流」の影響がどこかにある様に思えてならない。

「色浅黒く、眉秀いで」というのが西郷さんに代表される鹿児島男の風貌とされている。我が鹿児島明柔諸兄にもその特徴が大体あてはまっている。しかし、重信についだ高村は、色白の貴公子然とした青年で、いわゆる薩摩ッポさはなかった。性格も温和で下級生にはよい先輩であったが、柔道はやはり鹿児島流？ で、右払腰のいっぱいやり。重信は現在東京新宿でクラブを経営しており、高村は西ノ宮市に在住し安宅グループの大蔵商事に勤めている。

この二人から又しばらく鹿児島産がとだえたが、高村が出て五年後、三六年の木下征彦（甲南高）からは、三七年朝田紀明（鹿児島実業高）、三八年内村省三（鹿児島高）、三九年



諏訪 剛



稻田 寿郎
(旧姓稻沢)



鮫島 俊隆

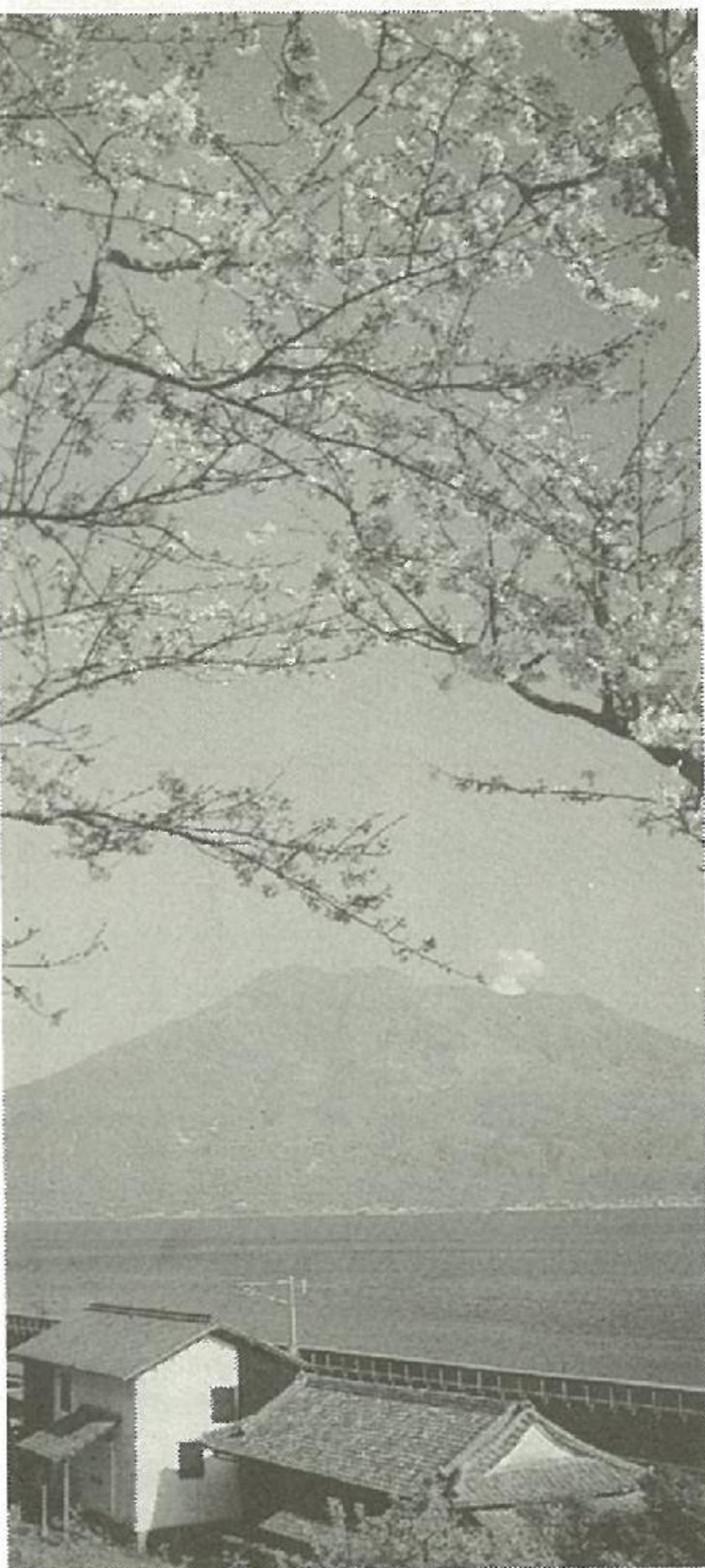
永吉勝恵（鹿実高）、四〇年法亢保孝（鹿児島高）と続いた。木下は身長一八五cm、体重一〇kgもあり、当時としては抜群の巨体でこれを利した大技には迫力があった。現在、鹿児島市で家業のガソリンスタンドを継いでいる。朝田（新日鉄 大阪）は三七年度の主将で、同年の全日本学生チャンピオンである。枕崎出身の彼は、中学時代、野球の選手でこの方でも県下の注目をあびていたそうだ。柔道は鹿実高に入つてから始めたのだが、高校、大学を通じた不断の猛練習が、その素質を実らせた。朝田のでた鹿実高柔道部と明大柔道部との関わりは深く、彼以後、本年度入学の向井一輝まで計七名が明大に進んでいる。現役の向井、竹園（三年生）を除く鹿実高OB五名は全員現役時代にレギュラーとして活躍しただけでなく、このうち朝田、鮫島、諏訪は、主将の任を果たした。この鹿実高柔道部には三〇余年の永きに亘つて部を指導され、おられた。高校柔道の指導者として著名な先生は、精神の鍛錬を指導の理念とし、朝田、鮫島、稻田、諏訪等を自宅に寄宿させて日常の生活態度から指導されたという。

さて、朝田につき三八年、内村省三（鹿児島）が始良郡蒲生町から出ている。高校時代は県下の優秀選手だったが、やや軽量なため大学では苦労したと思われるが、稽古で彼の左背負投に悩まされたものは少なくない。

三九年の永吉勝恵（鹿実高 鹿児島市）は国際協力基金の派遣で、現在シリアで柔道の指導にあたっている。（会報前号に彼のシリア便りが掲載されている）永吉は四年生の時レギュラーに選ばれたが、大会前に腕を痛めてしまはずされ、涙をのんだというキャリアがある。オーソドックスな右技の選手であった。やや瘦身で技は左、右。

四六年の鮫島俊隆（鹿実高 新日鉄本社）、五〇年の稻田寿郎（旧姓福沢、鹿実高 日本中央競馬会）、現役三年の竹園隆浩、の三人は島部の出で、鮫島は、種ヶ島、稻田と竹園は奄美大島である。鮫島は全日本選手権大会の常連で、現役を退いてから新日鉄柔道部の監督を務めた。今春、名古屋から東京勤務になつたが、一線を退いたとはいえ、稽古の力は十分にあるので、この機会に学生の指導をよ

ろしくお願いしたい。寝技の稻田は四九年、五〇年とレギュラーの中心選手として活躍し卒業後が期待されたが、仕事の関係から活躍の場が実業団大会のみに終ったのは残念だった。



桜島を臨む

五二年の諏訪剛（鹿実高、京葉ガス）は、今ロス五輪大会の代表を目指して猛練習を続いている。この稿が出る頃にはすでに決っておりだらうが、現在九五kg以下級の最終候補の一である。諏訪は、これまでいくつかの国際大会で優勝し、不調に終つたが、昨年世

界選手権の代表にもなっている、いわば鹿児島の星である。彼の出た出水市は県境にあり、昔薩摩藩が国境のトリデとして藩最強の武士團を配したところで、この兵團を、出水兵児と呼んだ。又この地は、ナベ鶴の飛来地としても知られている。ナベ鶴は丹頂鶴にくらべると地味で絵になりにくい鶴であるが、丹頂には無い素朴な美しさがある。諏訪の柔道にはこの出水兵児の強さと、ナベ鶴のもつ美しさがある。鹿児島の子供は、上になり下になると、組み合いのケンカをしても決して声を

たてず、又相手を離さないという。この薩摩隼人の土性骨が彼の柔道を今日に至らしめたのだろう。

学生三年の竹園隆浩は、素質の面で先輩の朝田、鮫島、諏訪等に勝るとも劣らない。又明治三十八年創部、奇しくも明治大学柔道部の創部と同じ年なのである。

大正十年に北海道初の全道中等学校柔道優勝大会が開催され、見事初優勝以来、試合の度に優勝の回数を重ねて行った。戦前、北海中学の時代に全道優勝して全国大会に出場した丈で十四回をかぞえる。その間、昭和十一年、大阪市公会堂で行われた第六回全国中等学校柔道優勝大会には、見事全国優勝の快挙を成し遂げている。その他、関東、東北、北海道大会の優勝、東北、北海道大会の優勝等優勝の数は数え切れないのである。

北海高校は明治、大正、昭和と数多くの優秀な人材を育て、今年創立百周年を迎える。

この古い歴史の中で、運動部の活躍は特にめざましく、北に「北海」ありと全国的に名声を博している。

野球部、柔道部、相撲部、剣道部、ラグビー部、ホッケー部、サッカー部、スキー部等々、運動部の数は多い。各部それぞれの活躍は、枚挙にいとまが無いが、特筆に値するいくつかを紹介することにした。

昭和七年、ロス・アンゼルスのオリンピックで、三段跳に見事優勝、メインポールに日章旗を掲揚した南部忠平さんは、本校の卒業生である。

野球部の活躍で忘れられないのが、昭和三十八年春の選抜大会準優勝だ。それ迄、春、夏共に全国最多出場を誇りながら、甲子園では一年の半分以上も雪に閉ざされるハンデを克服する事が出来ず、なかなか勝ち進む事が出来なかつたのである。ところがこの年ばかりは、一回戦、二回戦、準々決勝、準決勝の、これまた全国最多出場及全国優勝も経験している早稲田実業を破った試合は、逆転につぐ逆転で、選抜史上に残る大試合と絶賛された。

出身高校 シリーズ

わが母校 北海高校

五 島 光

決勝で破れはしたもの、この雪国北海高校の史上初の快挙は、全国に大きく報道されたものである。

斯くして野球部は、北海高校の「顔」的存在なのである。野球部の「顔」に対して柔道部は実績で北海を代表する。

明治三十八年創部、奇しくも明治大学柔道部の創部と同じ年なのである。

大正十年に北海道初の全道中等学校柔道優勝大会が開催され、見事初優勝以来、試合の度に優勝の回数を重ねて行った。戦前、北海中学の時代に全道優勝して全国大会に出場した丈で十四回をかぞえる。その間、昭和十一年、大阪市公会堂で行われた第六回全国中等学校柔道優勝大会には、見事全国優勝の快挙を成し遂げている。その他、関東、東北、北海道大会の優勝、東北、北海道大会の優勝等優勝の数は数え切れないのである。

戦後は北海高校となり、昭和二十六年に戦後復活第一回全道高等学校柔道優勝大会が開催されて初優勝以来、これまた戦前同様、全道優勝十七回、全国大会に十六回出場している。優勝の回数があまり多いので、何年から何年迄、何回優勝とまとめて書いて了つたが、現在は昭和四十八年から全道優勝がないのである。

全道優勝とて、並の努力では出来ないのである。
先輩達が残してくれた立派な功績を傷つける事なく、現役
学生諸君に奮気を願っているのである。

私達も明柔会同様、北柔会と言う北海高校柔道部OB会を
関東在住者で発足させ、微力ながら後輩の力になり、又その
中でも、明大OBで北海明柔会と言葉う会を作っている。
本年は春休みを利用して武者修業に上京して来た後輩達
を、明大道場で練習させていただいた。私達からはじまって
現在迄八名、憧れて明大柔道部に入部したが、全道大会優勝
トップと同時に明大柔道部とも縁遠くなつて了つた。その
為にも先輩として頑張らなければと思っている。

北海高校のOBで明柔会会員は次の通りである。

滝本満治（昭三十二）小兵だが全身運動神経の塊の様に敏感
だった。両袖をつかんで掛ける巴投げから縦四方固に入るの
が得意技で、巴投げで「一本」に決つても審判の手が上の前
に固技も極つてゐる程だった。その他、内股すかし、燕返し
等も上手だった。現在は大森市場で海老晃と言う会社を經營
している社長さん。

五島光（昭三十一）戦前、戦後を通じ北海高校から明大柔
道部へ入ったのは、滝本君と私の二人が先駆者である。親友
が内股すかしを得意としていたので、内股すかしを喰わない
内股得意とした。手前味噌となるが一。四年の時はマネー
ジャーを務め、柔道部の蔭の力として頑張った。
湯浅久雄（昭三十二）ガッシリとした骨格で力が強かつた。
ヒゲが濃く、色が黒くて目が丸いところから、愛称「クマ」



北海明柔会メンバー
向って右から佐藤、五島、
滝本、谷藤

北海高等学校正門（昭和28年当時）



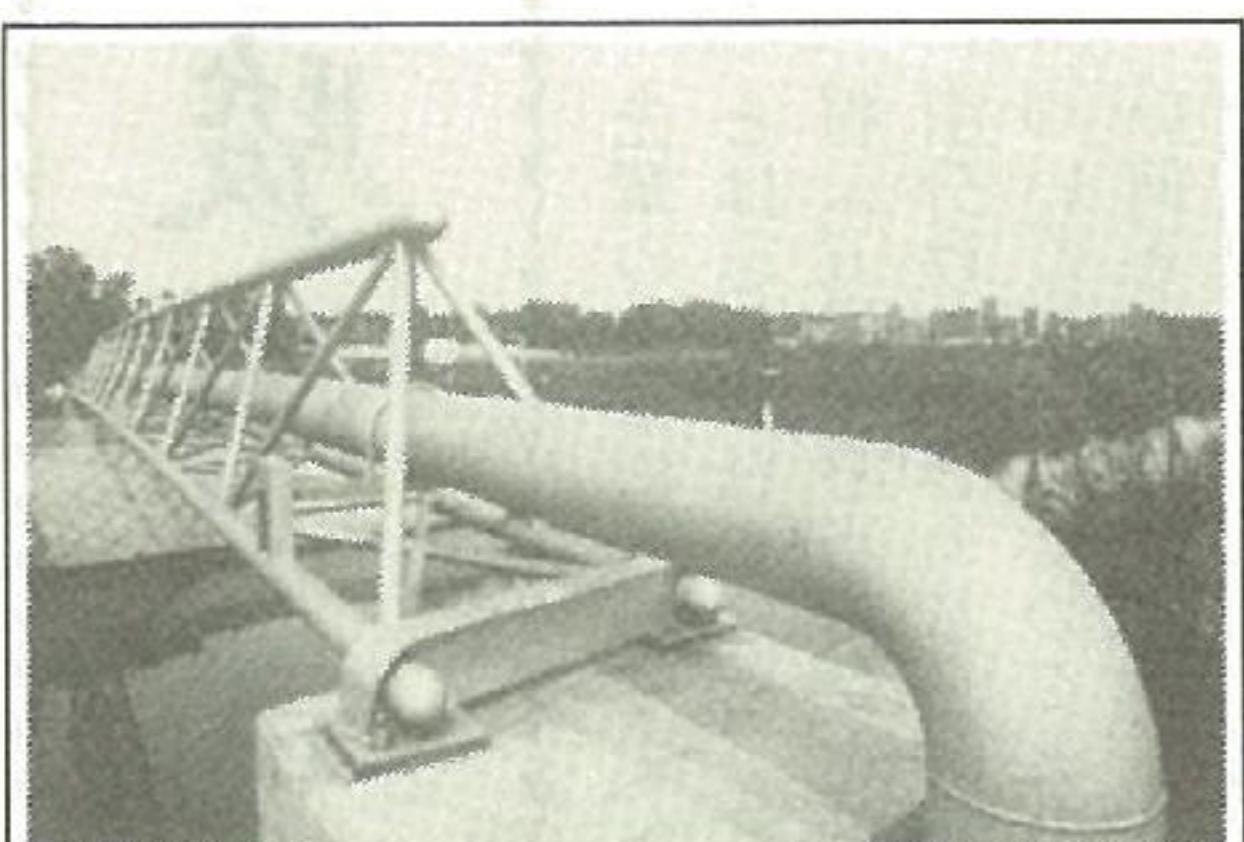
さんと親しまれた。右の大外刈、体落しを得意とし、寝技も
強かった。高校時代は北海道代表として国体にも出場してい
る。現在は丸彦渡辺建設に務め札幌在住。

浜野宏弥（昭三十二）明大柔道部へ入部した者の中で一番小
さいのではなかろうか。しかし小さいながらも、巴投げを得
意とし、滝本君同様固技も強かった。全道大会の個人戦で第
四位の成績は立派。現在は札幌市定山渓温泉の香取旅館の社
長。北柔会の会長も務めている。

谷藤義明（昭三十四）左大内刈、体落しが得意。試合巧者で、
勝負強い。現在まだ高段者大会に出場し、堂々と「一本」取
っている。一昨年暮、奥さんを亡くし二人の子供の面倒を見
ながら給食関係の食品問屋「富士産業」を経営する社長である。
佐藤栄吾（昭三十六）左大外刈、内股、右の背負いを得意と
した。卒業後は、三井建設株式会社横浜支店で営業課長をして
いる。現在は三井建設株式会社横浜支店で営業課長をしている。
梶原博見（昭四十六）右釣込腰を武器に高校時代、全道大会
の個人重量級に優勝、高校生として初のアメリカ遠征のメン
バーに選ばれる。現在は旭フーズ株式会社札幌支店に勤務し
ている。

大谷勝宏（昭四十八）高校時代、全道大会個人重量級第二位
の経験を持ち国体にも出場している。

開拓の光、北極星を校章に載く我が北海高校から、有為な
人材が益々育っていく事を祈念して稿をとじる。



確かな信頼のパイプ。

都市ガス。

豊かな生活と住みよい環境づくりにご奉仕して55年一。
京葉ガスは、工場とお客様を直結する1本のパイプ
に培われた“信頼”を大切に今日もまた確かな技術と
豊富な経験で、より多くのお客さまにより多くの都市
ガスを安全にお届けします。

京葉瓦斯株式会社

菊池 仁

—商業手形割引専門商社—

東京都知事登録

杉原産業株式会社

取締役社長 杉 原 構

☎ (371) 5111 代表

東京都新宿区西新宿7-13-9(ムトウビル)
新宿警察署そば

わが青春の駿河台（三）



光陰矢の如し

宮 島 龍 治

先般の会報、渡辺慶助（菊地）先輩、と東北の高橋康君の便りを懐かしく拝見いたしました。そこで小生も、思い出多い明大柔道部時代を記して見たいと筆をとった次第です。

小生は、昭和十年四月の長野商業卒業時に参段となりました。当時、明大と早大から入学の勧誘があったのですが明治を選び入学いたしました。上京して見ると明大柔道部は、葉山主将以下、村山要、菊地慶助、鈴鹿、宮川、三塚、豊田、山岸、の諸氏等、五段の猛者がづらりと列んでおり、信州の田舎天狗のハナは見事にヘシ折られました。

当時、新入生は、大学の地下道場、水道橋の講道館、池袋にあった町道場などで連日くたくたになるまで稽古をしたものです。

“自分より弱い者とはやるな”ということで、しばらくは人を投げる快感を忘れてしまった程でした。入部以来いろいろの試合に出場する機会がありましたが、中でも、菊地

先輩の文章にもありました学連対抗の決勝戦（対日大）とは忘れられません。この試合で一年生の私が日大の沢田主将（五段）と当ることになり、葉山主将から“なんとしても引分けろ”と命じられ緊張のあまり武者ぶるいをしたことがついこのあいだのことの様に思い出されます。この勝負は幸い何とか引分けに持ちこみ、明大が優勝し、意気揚々と合宿所の駿河台ホテルに凱旋しました。小生は無器用で技師ではありませんので、なんとか皆と伍していくことが出来ました。思い出の試合について述べさせてもらいますと、昭和十三年の第二回、東西対抗戦に三船先生の推せんを頂き、小生と姿君が明大より出場しました。この大会で東軍は、田中主将、曾根幸三氏（曾根康治氏の叔父）以下大いに奮戦し、講道館で祝宴をはつたものでした。又この年の全日本大会、年前期の部では、明大から出場した三名（姿、佐藤、小生）がそろって準決勝に進みました。ここで姿君は福岡の村上五段に惜敗し、小生は佐藤君に勝って、決勝は村上五段と小生で争いました。結果は延長の末、小生が涙をのんだのですが、工藤一三先生が当時の新聞に評を書いておりますので私に関する部



前列左から、黒木、奈良橋、中田、本田、長田、久米、山田、牧田、〇〇、菅井、松本
後列左から、荒井、坂本(清)、山本、児平、遠藤、菊地、福田、宮島、高橋、草壁、渡辺、
山形、米倉、伊藤つる(朝風)、千葉、高須、松島、城戸、法亢、(昭和13年頃)
柔道部合宿於朝風旅館前)

分で恐縮ですが一部を紹介します。

「村上五段、宮島の試合にこだわらない攻勢に、いさか疲労せるか、弱氣の攻めで延長に入る。延長戦に入り村上遂に右体落しで辛勝の材料を得る。両者共、立って寝てよく戦い決勝にふさわしい試合であった。宮島の大らかな試合ぶりは往年の早大、笠原君を思わせ、前途有望、来年の活躍を大いに期待する、云々」小生にとっても悔いのない試合でした。翌年の十四年め、この大会には小生と、巨漢の荒井健雄君が出場しました。偶然、準決勝で又、小生と荒井君は、遊田五段と死斗をつくしたが、勝負がつかず、優勝は預りとなりました。当時、柔道部は、昭和十一年のアメリカ遠征、学連の満州遠征をはじめ国内遠征も、九州、信州、北海道等、盛んに地方に出かけました。部員も小遣いで全国各地を回り、土地のOBのお世話をなった楽しい思い出が、今もアルバムにのつております。昭和十五年、卒業してすぐ日本は戦争に突入、間もなく、十三年の大会で小生と準決勝を戦った佐藤泰生君、千葉芳胤君、等何人の仲間が任地で逝かれました。今日未だ哀惜の念で一杯です。終戦後、長野に帰り、家業の旅館とレストランをやりながら、好きな柔道をはじめ、国体、中部日本選手権大会、全日本選手権大会に出場、特に国体へは三十七才まで選手として出ました。この時会場でお目にかかる三船先生に「宮島、まだやっているのか」と褒められておりました」と申し上げたことがあります。その後、県

の柔道連盟も出来、県警道場武道館も開放されて、青少年の柔道熱も高まり、各種の大会も開かれる様になりました。おかげで、小生も信越連盟会長の入江松次先輩とともに信越地区の柔道界のお手伝いをして現在に至っております。戦後は故曾根君、神永君、篠巻君等明大OBの諸君が度々、来長し

青年学生を指導してくれていることを感謝しております。

小生は少年時代に体が大きかったことから、柔道を学ぶ機会を得、その後柔道を通じて多くの人々と交り、鞭撻を受けまいりました。諸先輩の御指導を得て現在、県連会長、信越連盟理事、全柔道評議員の要職をつとめさせて頂いております。又昨秋は、文部大臣体育功劳章の表彰に沿し、柔道の修行を続けることの出来た自分を幸せに思っている昨今です。永い間、柔道を通して青少年の育成に、関与してきた経験から、後輩諸君に呈するとすれば、月並みな言ひ方ではあります、"先人の体験を参考とし、自己の限界に挑戦すべし"という事でしようか。どうか伝統ある明大柔道部員として悔いのない学生生活を送って欲しいと念願する次第です。明柔会が益々拡充発展することを心から祈念して雑文をとじさせて頂きます。

長野県柔道連盟会長 八段

昭和十五年度卒



忘れ得ぬ人 門屋君

堀口 武

食うに食なく住むに家なく、街は崩れ落ちたビルと瓦礫の山で荒れ果て、見るも悲惨な廃墟の町東京。

そんな時代の昭和二十一年秋、古賀愛人先輩を中心によつて、明大柔道クラブの先生や先輩方々のご支援ご尽力によつて、明大柔道クラブが発足した。当時の状況については既に多くの方々からの寄稿によってご承知の通りであるが、このクラブ如何とか軌道に乗ってきた二十三年には、曾根康治、門屋賢悟、大野忠博、末木茂君など後の日本柔道界を風びした群像達が入ってきた。この中の一人、門屋君は私との係わりが深く、忘れることが出来ない人である。

彼との出会いは地下道場だった。彼が道場に来て「中学時代は野球部のキャッチャーチャーをしていて柔道は全く知らないが是非柔道か相撲をやりたい」と言う。

当時相撲部のキャップテンだった影山信雄君（昭和二十二年、二十三年学生横綱）や古賀先輩とも相談し、門屋君の兄も柔道部のOBだし、やはり柔道クラブに入れた方がよいと言ふ事に決り、その世話を私がすることになった。

先づ受身からの指導であったが、私は初心者としての手加減はしなかつた。初めから容赦なく苛酷とも思える厳しい指

導をしたが、彼は飲み込みも早い上、少しもへこたれることなく何処までもついて來た。

暫くした或る日、彼の前歯が無い。どうしたのかと聞くと「道場からの帰路中大の相撲部に飛入り練習に行き歯を折った」とのこと。そんな余力があればもっと柔道で鍛えようといふ事で、翌日からは今迄以上の激しい練習をしたが、彼は黙々と稽古に打ち込み一日も休むことはなかった。

また彼は何時も下駄ばきで靴をはいているのを見たことがない。或時「靴は無いのか」と聞くと「一足は持っているが足腰の鍛錬のため下駄をはいているのだ」と言う。それに通学の時も何処に行く時も、常に鉄アレーを持ち歩き腕を鍛えているとの返事だった。

そうした常日頃の努力でめきめき強くなり、有段者とも対等に練習が出来る迄になつた。翌年彼が二年生になつた時には私も手こずるようになり、古賀先輩と相談して定期昇段試験に一気に三段を受けさせることにした。

当日伊藤信夫君達が講道館に連れて行き、近くの八百屋で生玉子三ヶを飲ませ、これで三段は間違いないと勇気ずけ試合に送り込んだが、予想通りの活躍で相手の三段を次々倒し目出度く合格した。これも彼が日頃から緩まぬ精進努力を重ねた賜と私達も我が事以上に喜び合つた。

その後の彼は一層の自信をつけ、月例試合や紅白試合等で活躍したことはご存知の通りである。

私も二十五年三月卒業になり、懐かしい道場を後に郷里の岐阜県庁に就職した。岐阜に帰つても一日たりとも忘れたこ



明大柔道クラブ主要メンバー
(昭和23年春)

前列左から〇〇、小野寺、伊藤、宮崎、神田
後列左から矢田(レスリング)、池田、〇〇、
〇〇、山崎、小田、久米、青木、古賀、堀口



柔道クラブ発足の立役者

左から
山崎昌徳
堀口武人
古賀愛人
影山信雄(相撲部主将)

とが無かったのがあの地下道場で汗を流した想い出だった。

昭和二十六年学生柔道が晴れて復活、あの頃新人として入部した曾根、門屋、大野、末木君達が中心になり、他校の追従を許さぬ圧倒的な強さで優勝の金字塔を打ち立ててくれたことは何よりの喜びであった。

私達がこの日のあることを夢みて、空腹をかかえながら猛練習に堪えて来たあの苦しかった時代が、一人懐かしく思い出され優勝記事の新聞を何度も読みかえしたことか。

その輝かしい歴史を作ってくれた彼達も、昭和二十七年は新制大学として卒業の年であった。私も彼達の進路を気にしていたが、逢う機会もないまま過ぎていった。

この年の一月下旬、岐阜に大雪が降り電車もバスも止まり私も出勤できず家の前の除雪作業をしていた。すると遙か彼方から白一面の雪道を誰かが歩いて来る。こんな大雪の中を誰だろうと見ていると近く人は門屋君ではないか。

それもズボンを脱ぎ、パンツ一枚で柔道衣とズボンを担ぎ足を真赤にして岐阜駅から十キロの雪道を歩いて来てくれたのだ。取敢えず家に入つてもらい体を温めながら話を聞くと「末木君と長野県に練習に来た帰り道だが、今度卒業で北海道炭鉱に就職し夕張勤務になるので暫く逢えないから挨拶に立寄った」とのこと。

懐かしいやら嬉しさで夜の更けるのも忘れて当時の想い出を語り合った。

あれからもう三十数年の歳月が流れた。

門屋君達が黙々と練習に励んだあの頃の姿を忘ることは

出来ない。

芋をかじり、水団をすりながら猛練習に明け暮れた当時の想い出の一コマをご紹介し、古い伝統と実力を誇る我が明大柔道部の捲土重来を期し学生諸君の一層の奮起を期待したい。

岐阜県岐阜土木事務所 主幹

娯楽の殿堂

みとやホール

水道橋・神田・鶯谷・浅草・三河島・上野

喫茶・パブ・レストラン

山の音

水道橋・鶯谷・浅草

お近くにお越の節は
是非お立ち寄り下さい!!

代表取締役 中野一郎

得意技の解説

釣込腰

河辺一彦

技の説明にあたり、私は左釣込腰が得意なため、左で説明し、相手を受とし、自分を取といたします。

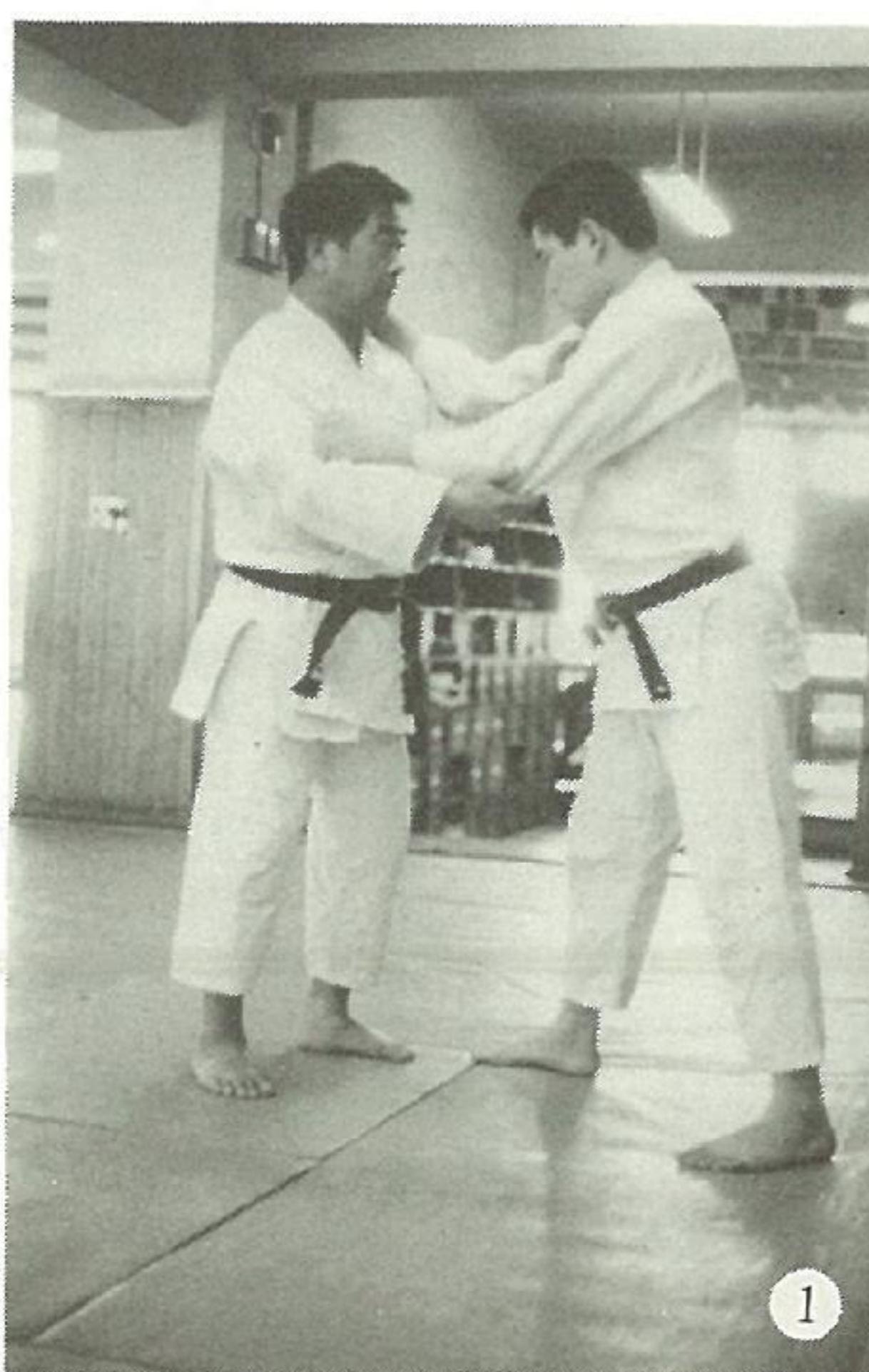
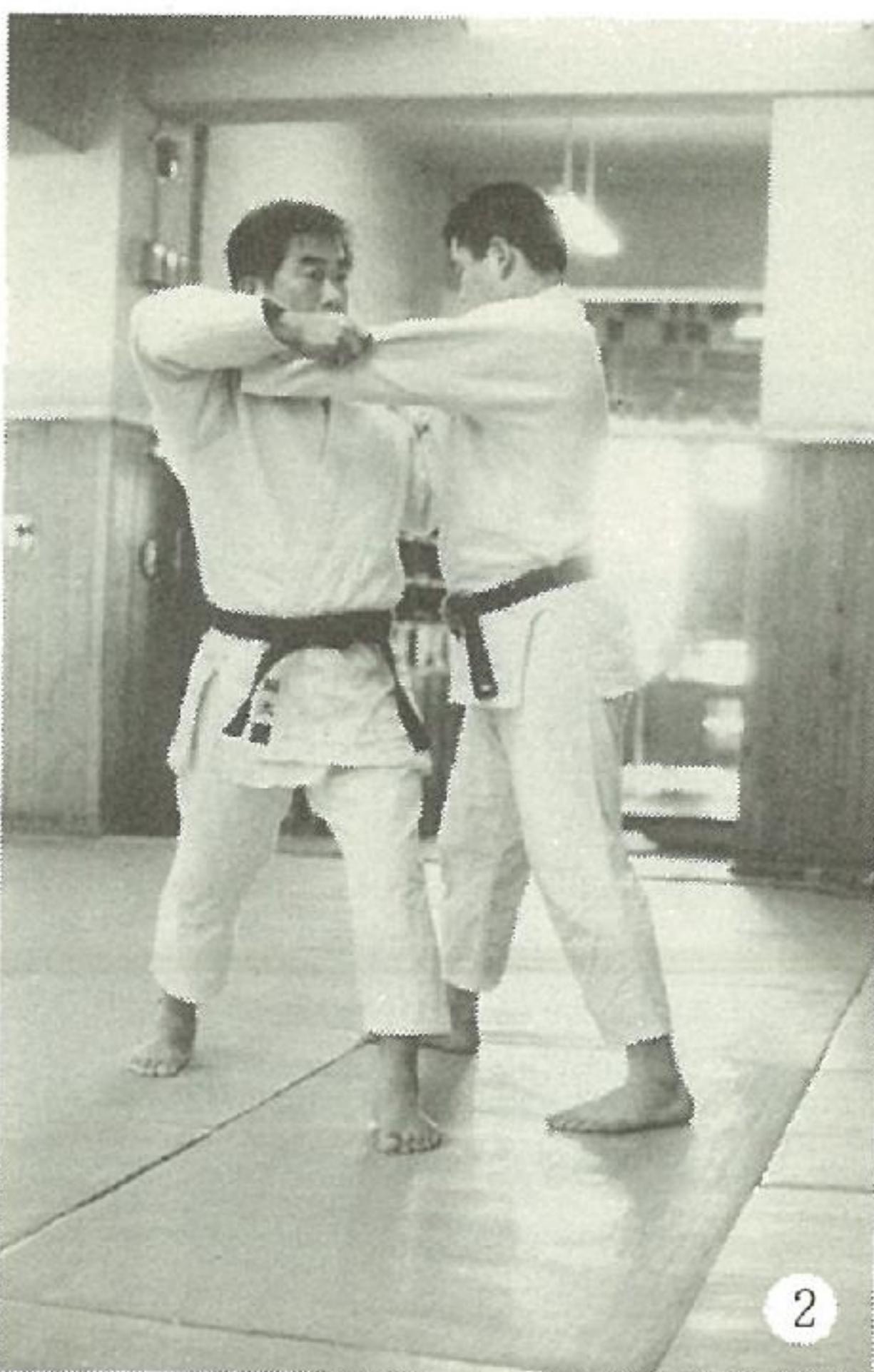
基本

釣込腰は腰を中心としたテコの理の応用で投げる技であり、投げる方向は真前である。受が右自然体、取が左自然体の場合、受は右手で取の右前えりか奥襟を取り、左手は取の中袖あたりをとる。取は左手にて受の右手下より右前襟を取り、右手は受の左手の中袖から袖口にかけて外側からとる。(図1)

注 受が取の左手、釣り込む手をきらって下から持たせてくれない場合は、上からとつて肘を内側に入れ、受の右手を外側に制する様にするのも一方方法である。引き手は取り負けないように袖の外側か下側をとる様にすることが大切で、内側の襟をとると力が半減するからである。

崩し 作り 掛け(図2、3、4)

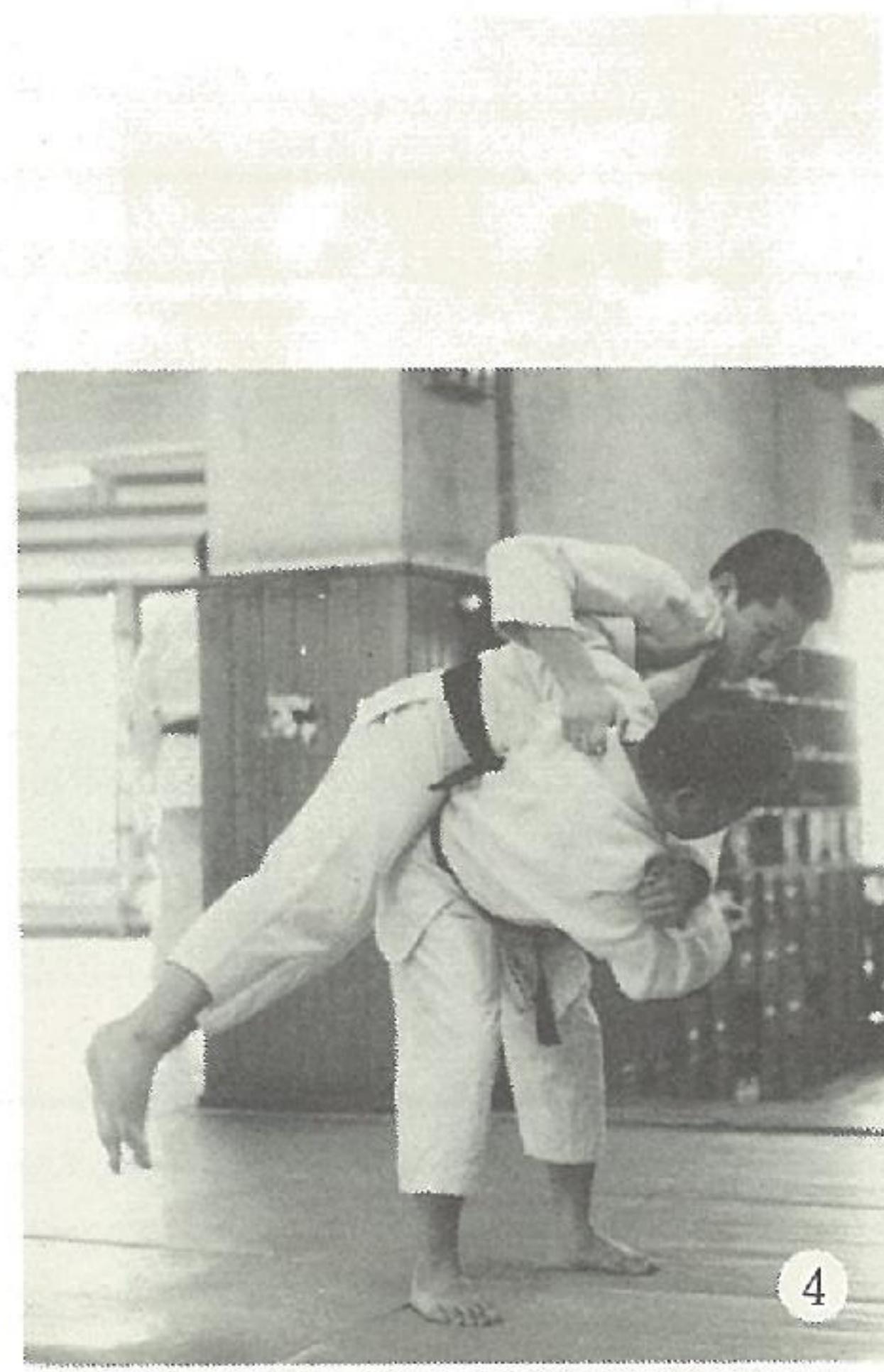
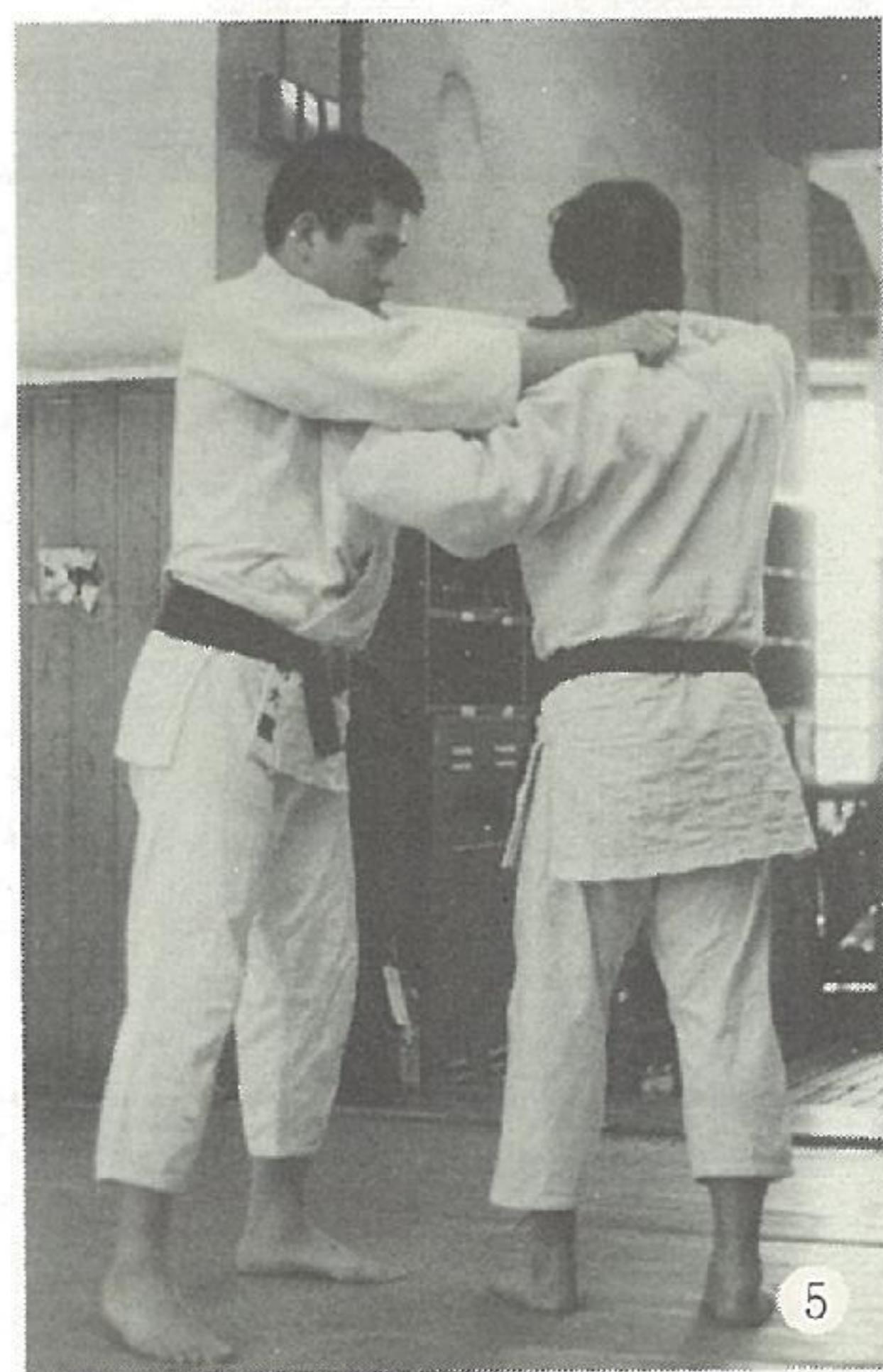
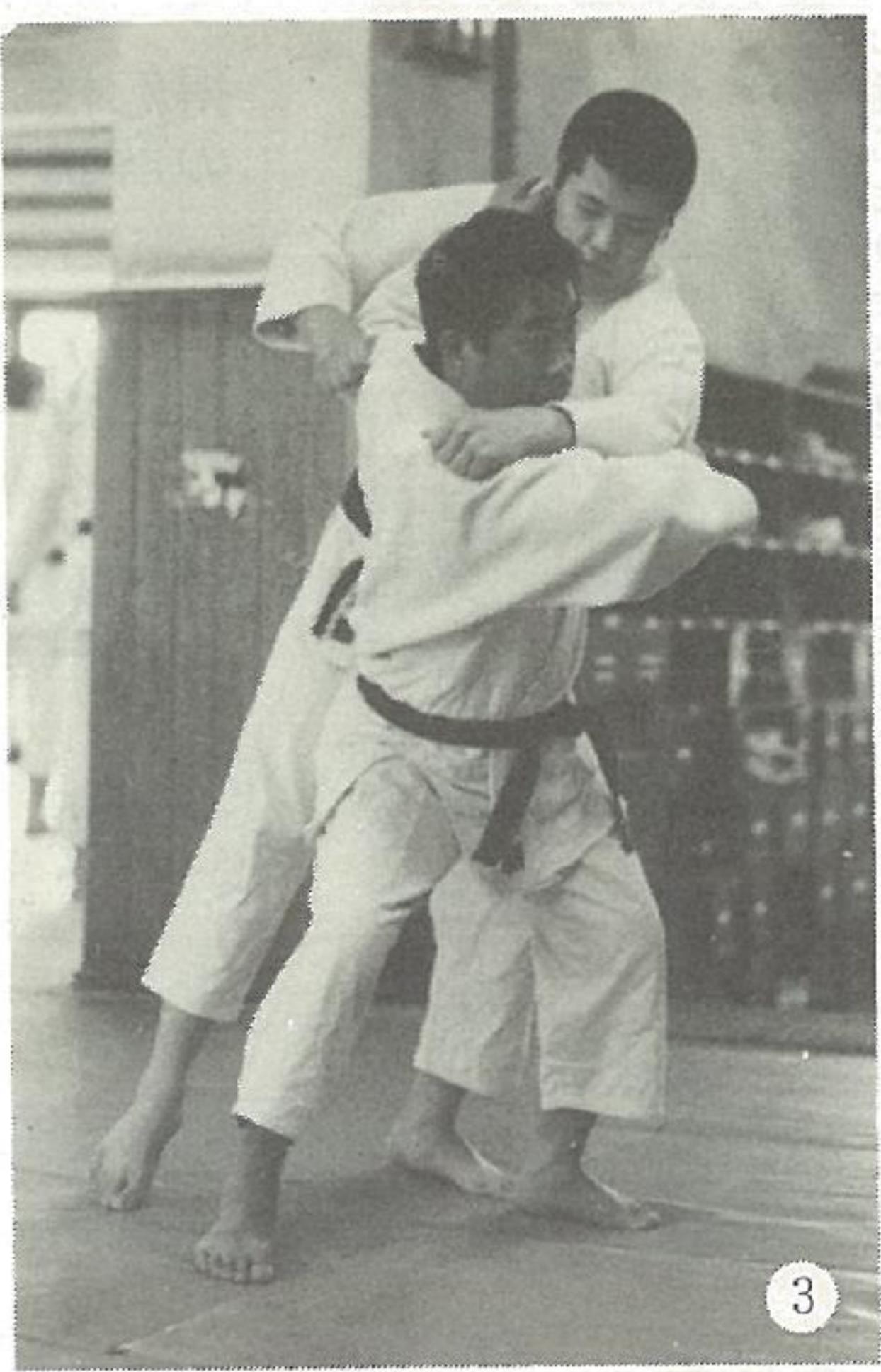
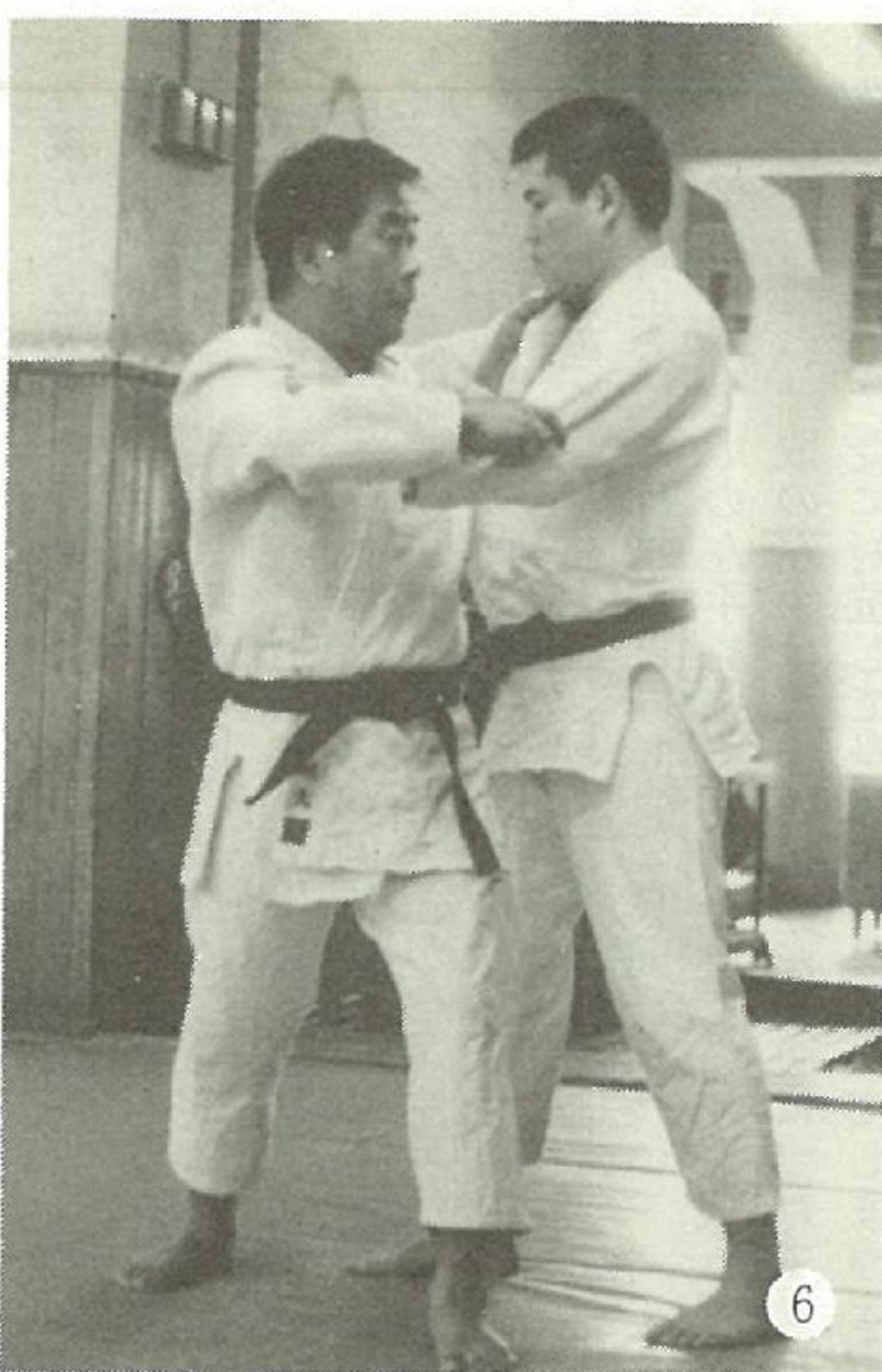
受を取の引手と釣りの動作により、真前に崩し、引き手は弓を引くように、釣り手は肘をのばさず、くの字形にし、受の右腋に入れ斜め前に釣りあげる様にし、足は受の左足やや内側一足長のところに体を決めながらふみ込む。その際ます



す両手の動作をはたらかせながら、右足も受の右足のやや内側一足長のところに回り込み、受の体を背部に充分密着させて腰にのせ、両膝、足首の屈伸作用により釣り上げて体を右に捻りながら真前に投げる。

注 取が受を真前に崩し、右足をふみ込むとき、受が右手で胸部あたりを強くおして抵抗した場合、取は左手でその手を外側に払いながら、左胸部を前方に押し出す様にはずすと、意外に簡単にはいれる(図5)。

取の腰の位置は受の腰よりかならず下に位置し、体重は左右両足平均におくこと。足の位置は受の真前、八の字形で平行に、足幅は取の肩幅で、回り込んだときの受けと取との間合は一足長(約20cmから30cm)でよい。

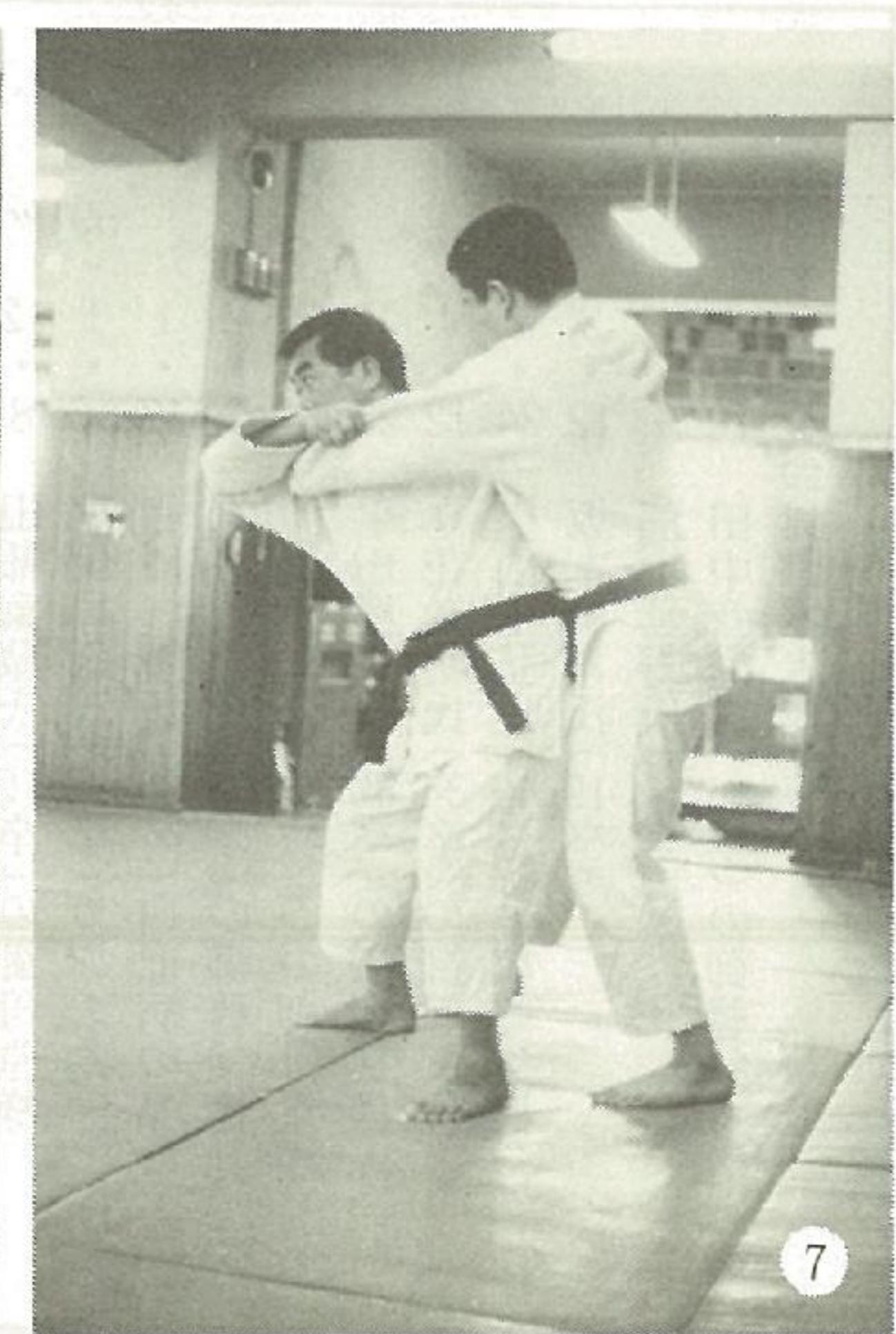
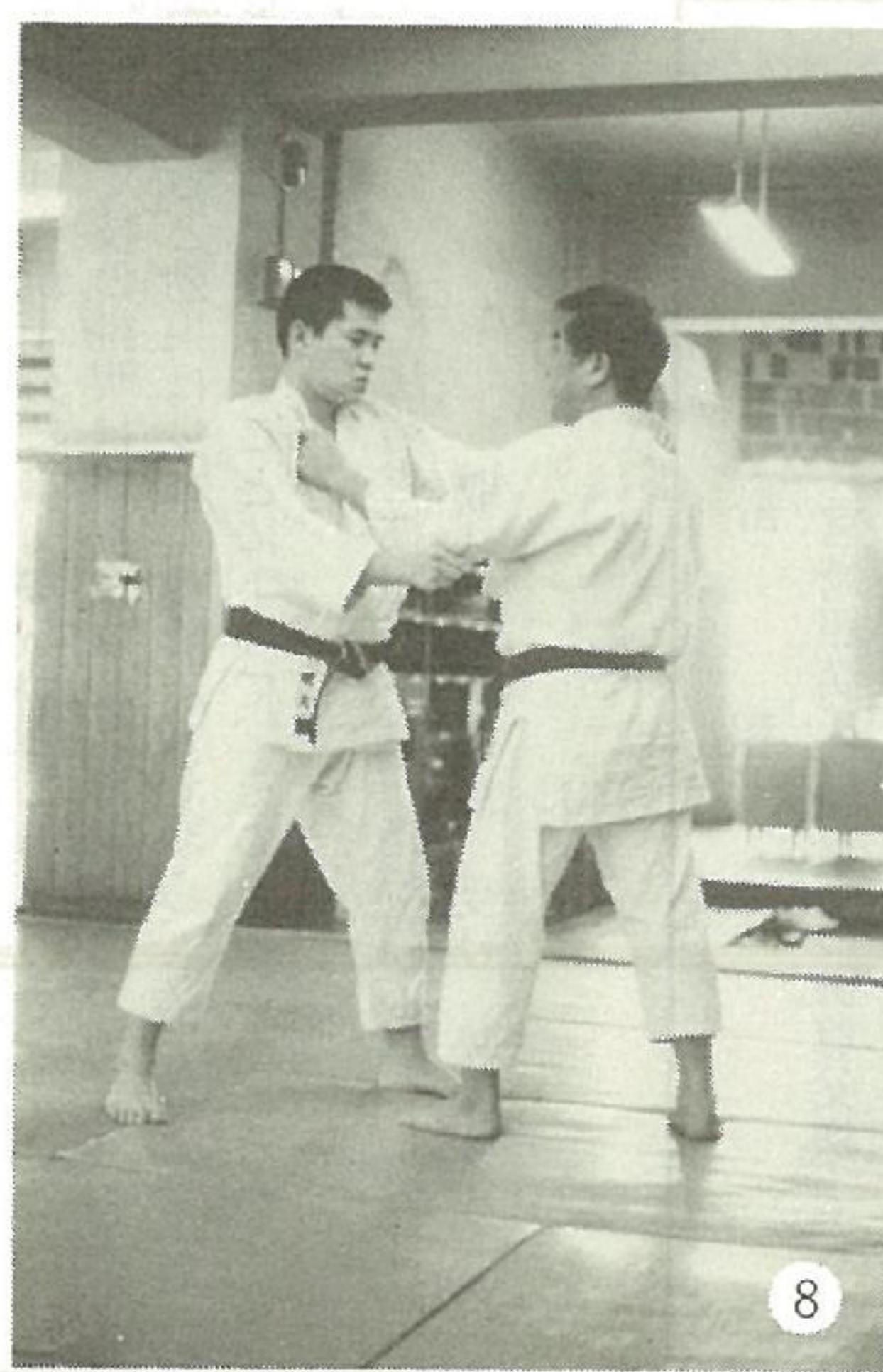


注 回り込んだ時、受と取との間合がない場合は、崩しがうまくいかず、そり身にされて後方に返されやすい。左足に体重をかけ過ぎると腰が浅くなり、右足に体重をかけ過ぎると腰が深く入りすぎ、裏をとられるおそれがある。

受が極端な右変形の場合(図6、7)

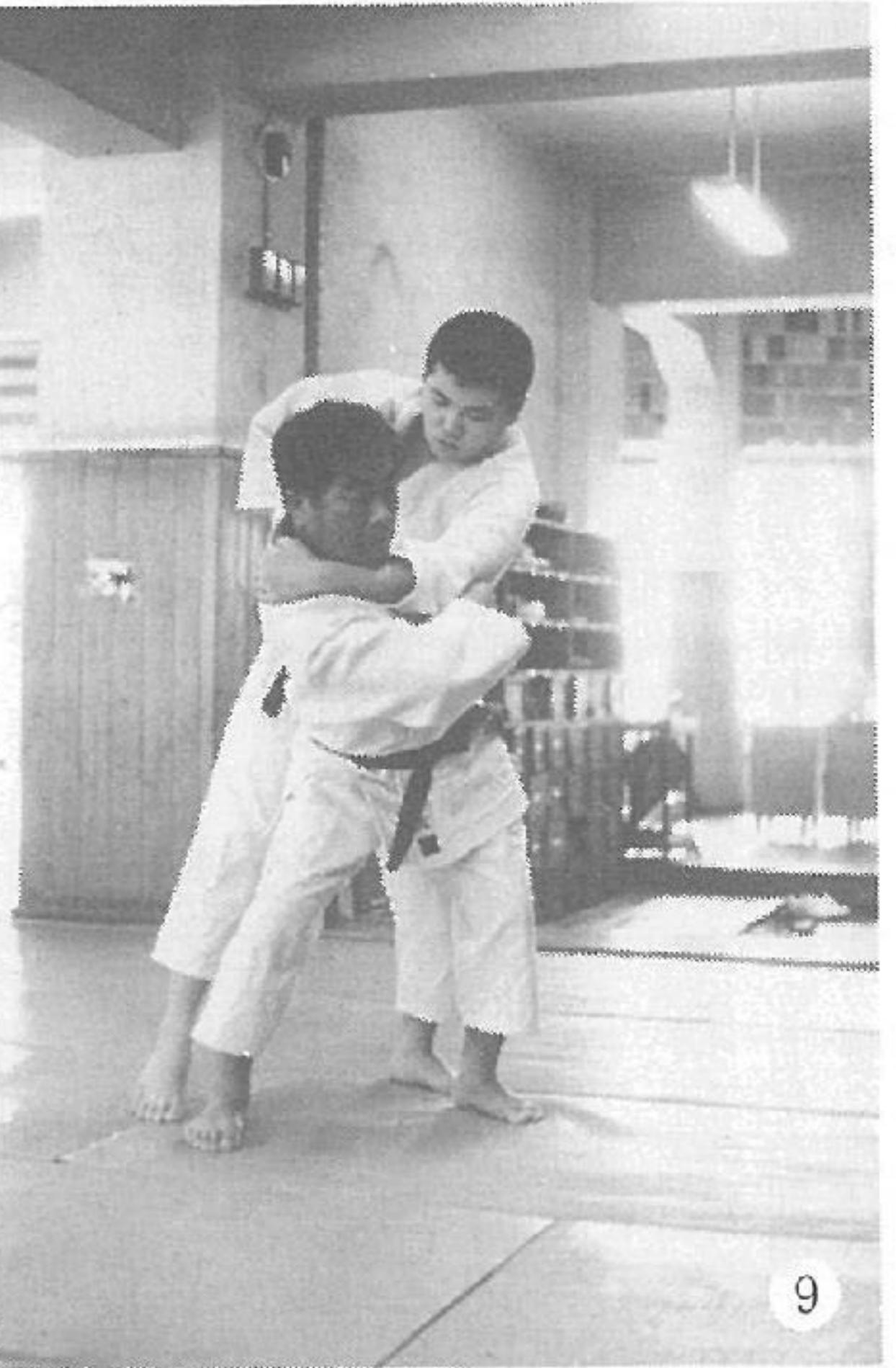
崩しは基本と同じように、受を真前に引き出し、右足を受の左足やや内側一足長の位置にふみ出すと同時に、右足は受の左足方向によせるようにし、受の右足やや内側一足長の位置に入る。以下基本形と同じ。

注 この場合特に注意する点は、取が左足をふみ込んで右足を基本と同じ様に後方へ回り込むと、受の右足が邪魔になってうまくはいれず、腰を強くぶつけたり、腰くだけの形にな



の体さばきが十分でなくなるからである。

以上で技の説明は終りますが、得意技といつても相手に研究されると効果は少なくなる訳ですから、そのための反対技を同時に研究することによって、そのものに一層みがきがかかると思います。



9

なり後方に返されたりする。

受、取、左対左の場合（図8、9）

受が左の場合、組んだ時から取のつり込む手を制された形であるので気になるが、これをあまり意識しないこと。入り方は左足を軸に右足を大きく後方へ回り込む。引き手は右足を回り込むときの腰の回転により充分きかせ、左手は組んだ時からの取の左脇腹に肘を密着させ、受の右手で制されても負けない様に軽く受けておく。回り込んだ腰は思いきって低くする。両足の位置は基本と同じ受の真前一足長に。

注 受の右手で取の左手を強く制せられていても決して力んではない。取の左手は軽く自分の左脇腹につけて受け自然にしておく。受に対抗して身体に入れてしまうと取

☆印 … 明柔会員御本人です。	☆ ☆										S 59 // 58		計 報	
	宮崎照満氏(44卒)の御尊父様	田部富蔵氏(19卒)の御母堂様	宮川周蔵氏(13卒)ガンの為	相川智氏(37卒)白血病の為	水谷昌白氏(35卒)の御尊父様	加茂博久仁氏(47卒)の御母堂様	平田博俊氏(30卒)の御尊父様	立花敏明氏(34卒)の御尊父様	横山正弘氏(40卒)の御尊父様	坂本義孝氏(19卒)	荒木延寿氏(4卒)			
6 • 10	2 4 4 2 2 2 1 1 12 11	• • • • • • 16 8 19	• • • 17 16 8 19	• • 17 16 8 19	12 24 12 28 14 2 17 16 8 19	12 24 12 28 14 2 17 16 8 19	12 24 12 28 14 2 17 16 8 19	12 24 12 28 14 2 17 16 8 19	12 24 12 28 14 2 17 16 8 19	12 24 12 28 14 2 17 16 8 19	12 24 12 28 14 2 17 16 8 19	12 24 12 28 14 2 17 16 8 19	12 24 12 28 14 2 17 16 8 19	12 24 12 28 14 2 17 16 8 19

法務省技官 講道館指導員七段（一九年度）
取り 河辺七段、受け 松岡隆志二段

電話番号・住所変更

卒	氏名	〒	住 所	電 話
39	中谷 雄英			082-247-0233
37	杉原 構		勤務先 杉原産業㈱	03-371-5111
45	橋本 一郎	174	東京都板橋区坂下2-26-15長後アネックス305	
54	清崎 威郎	274	千葉県船橋市高根台7-5-12高根接骨院内	0474-62-9401
44	須磨 周司	815	福岡県福岡市南区多賀2-7-5 アーデルハイツ多賀205	092-512-9884
53	佐藤 英彦	135	東京都江東区越中島3-6-3-1201	03-630-1820
51	相沢 郁夫	989-31	宮城県宮城郡宮城町下愛子字原11-1	0239-2-2936
53	米田 守	706	岡山県玉野市宇野3-9-15-202 旭タクシ 一寮202号香川県漁連玉野事務所内	0863-31-5270
56	田原 聖也	810	福岡県福岡市中央区大名1-9-45 藤和大名コーポ801号	
57	重松 裕之	154	東京都世田谷区弦巻5-21-13 日本中央競馬会弦巻寮	
52	岩田 克之	663	兵庫県西宮市田近野町9-3	0798-52-5460
44	小岩 利夫	280	千葉県千葉市小倉町1753-14 1棟103号 勤務先 千葉県警察本部警務部警察学校	0472-61-3081 0472-32-2071
33	甲斐 福男	663	兵庫県西宮市甲子園口5丁目9-33	
44	星野 泰之	343	埼玉県越谷市大沢2540-20 勤務先 中央塩ビ製作所	0489-63-0287
36	松本 順吉	273	千葉県船橋市上山1-55-6-202	0473-37-0380
43	岡 義徳	275	千葉県習志野市実畠町4-954-6	
39	関 勝治	154	東京都世田谷区弦巻5-26-5-205	03-439-4848
37	栗原 英道	564	大阪府吹田市片山町3-28-11 勤務先 旭フーズ大阪支店	06-387-9306 06-347-3792
47	鮫島 俊隆	151	東京都渋谷区初台2-24-2 新日鉄アパートB-37	03-379-7438
31	高村 秀翁	662	兵庫県西宮市二見町5-24 勤務先 大蔵商事	0798-65-0570
31	佐藤 満蔵	213	神奈川県川崎市高津区宮平町1-4-29-A303 勤務先 山王石油社長	044-855-9706 03-771-3883 776-6142
31	安達 秀則	273	千葉県船橋市二宮1-61-5	0474-62-3280
37	朝田 紀明	659	兵庫県芦屋市高浜町7-1-1611 勤務先 新日鉄大阪営業所	0797-31-3585 06-202-2201
34	小笠原 俊一	153	東京都目黒区中目黒1-9-18 勤務先 開隆堂出版㈱	03-710-0600 03-293-1881
55	薦田 文明	663	兵庫県西宮市田近野町9-6	0798-51-1722
34	黒住 大和	320	栃木県宇都宮市細谷1-2-16	
18	三船 芳郎		勤務先 TEL	044-266-0261

会報の部 (58年前・後期号)

吉野博會宣傳誌

収 入	支 出
前年度繰越金	566,952円
前期号広告料(有料)19件	550,000
後期号広告料(有料)23件	570,000
利 息	4,568
合 計	1,691,520
	差引次年度への繰越金 648,275円

59年度 後期行事予定

5月13日	講道館紅白試合	10月6日	東西対抗戦予戦(講道館)
5月20日	全日本体重別選手権大会	10月7日	全日本ジュニア大会
6月2,3日	全日本学生体重別選手権大会(日本武道館)		予戦(講道館)
7月1日	東京学生優勝大会	11月10,11日	東西対抗戦学生選手権大会(個人)
7月25日	夏期合宿練習、2週間(場所未定)		12月24日(予定) 納会(場所未定)
9月1,2日	全日本学生優勝大会団体		



KYOHO TSUSHO KAISHA, LTD.
取締役社長 松田 滋夫

本社 東京都千代田区神田須田町1-23-2
電話 (255) 8151
電略 KYOHOTORG TOKYO

東京都中央卸売市場大森市場
海老, 塩干加工品問屋

海老 晃

(31年卒)

代表取締役社長 滝本 満治

本社 東京都大田区大森本町2丁目2番10号
電話 (764) 2876



編集後記

冷夏を心配されておりましたが、漸く夏らしくなってまいりました。皆様にはいかがお過ごしですか。今回も先ず原稿をさせて下さった方々、広告掲載に協力頂いた方々に厚く御礼を申し上げます。姿先生の祝賀会は、久しぶりに全国から大勢のOBが集まり、楽しい一時でありました。参考された諸兄から、会報に対する御意見や激励を頂き、編集部一同、又一つ意を新たにして頑張る所存です。先日終った体重別大会の結果も今一つで指導陣の苦労が続いている訳ですが、公私の生活を犠牲にして連日道場で声を張りあげている、篠巻、上村の両氏に対し、深甚なる敬意を表すると同時に、この稿を借りて諸兄により一層の声援をお願いする次第です。

先日、正力杯体重別大会の会場に出向き、気になつたことがありました。それは明治の不振もさることながら、選手達の熱気とはうらまに、会場は観客もまばらで近年に無い盛り上りに欠けていたことでした。

この事はやはり、昨年末尾を引いている学

柔連と全柔連のトラブルによるものでどうか。この問題については明柔へも種々の意見が寄せられておりますし、又編集会議の話題にもなっております。しかし一OB会報とはいえておそれ無きにしもあらずということで、この時期に関係記事を掲せることは誤解を招くおそれ無きにしもあらずということで、この問題にふれることにしましたので御了承下さい。仄聞するところによると、調停に入られた方々の努力で、事態は円満解決の方向に向っているとのこと、是非、雨降つて地固まるの例えにならつてもらいたいものです。

さて、今回も多くのOBから原稿が寄せられ編集部を喜ばせましたが、再刊一号から今号までを通して見ると、若手OBの寄稿がやや少ない様に思います。よき時代を過された先輩達の迫力ある文章に圧倒されて小さくならざるを得ない、というところかと思いますが、同門の絆に色分けはありません。学生にとっては、他校の後塵を拝し苦難の時代にあつた若いOBの意見は、黄金時代の先輩達の激励とは又別のサゼスジョンとなる筈です。次号からは若手のOB諸君に原稿依頼がどんどんとび込むことになると思いますが、四年間の部生活、学生生活の経験から気がついたことを（当時は気がつかなかつたが今にして思えば）——ということがある筈です）を部員達に伝えて下さい。同世代の意見は大切なものです。

申し上げて敬具といたします。
編集部 渡辺 欣嗣 吉井 敬吉
神永 昭夫 小野瀬雅幸
代田 正俊 入江 秀明
河田 恵吾

「明柔」 年二回発行 (八十四年)
昭和五十九年六月二十五日 発行

編集	神 田 和 夫
発行人	明治大学体育会柔道部
発行所	東京都千代田区神田駿河台一 明治大学体育課内
印刷所	東京都千代田区神田三崎町二 一 明治大学体育課内
営業所	○三一九五一四四八九 二一 ○三一一六二一四六

—広告総合代理店—

新聞、雑誌、テレビ、ラジオ広告取扱い
CM、デザイン製作、アイディア商品
各種ノベルティ開発販売、市場調査、
コンサルティング業務

ランドスケープの空間の創造に
「わび・さび」の
落着とダイナミックさを
表現する

日本公園施設協会会員
株式会社 雄和

代表取締役 高田誠之助
常務取締役 渡辺昌照

〒104 東京都中央区八丁堀4-10-2
八丁堀ビル TEL 553-7201(代)
探石地 攝影地 恵那郡福岡町内
出張所 平塚、流山、船橋

雄和企画株式会社

代表取締役 田中章雄

東京都港区東新橋 1-2-11 三陸ビル
電話(03) 572-2737(代)



オークニジャパン株式会社

大 国 伸 夫

東京：〒111 東京都台東区浅草6-22-13
TEL 03(875)2851

大阪：〒540 大阪市東区常盤町1-37
TEL 06(945)0920

広島：〒733 広島市西区天満町13-23
TEL 0822(91)0092

パリ：パリ市8区 フォーブールサントノレ通り9番地
TEL (265) 2906

育栄管財株式会社

育栄警備保障(株)

社長 鳴海誠一



本社 新宿区百人町1-22-26
TEL (363) 6351 代表
青森出張所 三沢市栄町1-31-142
TEL 01765(3)6678
札幌出張所 札幌市豊平区美園四条8丁目(三光ビル)
TEL 011(811)1899



アスファルト・石油類総合販売

有限会社 男鹿興業社

代表取締役 国 安 キ ョ
専務取締役 国 安 均



秋田県男鹿市船川港船川字化世沢178
TEL 0185-23-3293(代)

三進工業株式会社

取締役社長 三 船 芳一郎

工場製作品 各種塔槽類／各種圧力容器
建設工事 (国内及び海外)
プラント 石油, 化学, 製紙, 製糖, 製塩
環境装置 都市地域冷暖房, 清掃工場,
汚水処理装置, 排煙脱硫・
脱硝装置
鉄構 高層型煙突, 導水用鋼管, 鉄
骨, 橋梁, 水門扉, 大型貯槽
産業機械 製鐵機械, プレス, クレーン,
原子力機器, その他

本社工場=川崎市川崎区小島町4番4号 〒210
電話川崎(044) 266-0261(大代表)
建設機械センター=川崎市川崎区日ノ出1丁目10番1号 〒210
電話川崎(044) 266-0273(代表)

各種ウエス 工業用クリーニング
安全用具一式

(株)立花商店

代表取締役
立花敏明
(34年度卒)

〒720 広島県福山市港町2-77
TEL 0849-23-0180

ビル管理業

第一企業中央(株)

代表取締役社長
細川隆夫
(38年度卒)

〒141 東京都品川区中延5-7-8
TEL 03-781-1218

輸出入・国内取引
鉄鉱石・その他鉄鋼原材料の輸入及び
鉄鋼製品の輸出

東南貿易株式会社

社長 根本 静夫

千代田区大手町2-6-2 日本ビル6階
TEL (279) 2771~5

名古屋出張所 愛知県東海市東海1-1-1
名古屋製鉄所商社センター TEL. 0560 (63) 5188
八幡出張所 福岡県北九州市八幡区桂光町1番地3
八幡製鉄ビル内 TEL. 093(671)0261-2
君津出張所 千葉県君津市人見
君津製鉄所サービスセンター TEL. 04785 (2) 1054
大分出張所 大分県大分市大字萩原原川地区街区Cの1大分鉄鋼ビル
TEL. 0975 (85) 2018
広島出張所 兵庫県姫路市広畠区正門通り4-3-3
TEL. 0792 (36) 1849
大阪営業所 大阪市西区江戸堀1-15-27 友来ビル
TEL. 06(444)1296-7